



競輪補助事業

平成 21 年度

シニアネット構築研究会

シニアネット・フォーラム21 in 東京 2010

◇シニアネットはシニアの生きがい、シニアライフをもっと楽しく、
もっと豊かに◇ ～ 新たなシニア文化の創造と発信 ～

【報告書】

平成 22 年 3 月

財団法人 ニューメディア開発協会

はじめに

昨年9月の敬老の日に、我が国は65歳以上の高齢者人口が約2898万人、人口比率で22.7%になったと各新聞紙上で報じられました。これは昨年に比べ高齢者人口は80万人増え、総人口に占める割合も0.6ポイント上昇したもので、また一段と高齢化が進みました。実に4.4人に1人が65歳以上とすることになります。日本の総人口は減少を続けている中、団塊の世代の高齢者の仲間入りが間近に控えているなど高齢化は今後ますます進み、少子化と相俟って2055年には65歳以上の高齢者が41%を占めるであろうと予測されています。ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくるということになります。

こうした急速な高齢化に対応すべく、旧通商産業省（現経済産業省）は、先に長寿社会対策及び情報化施策として「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、高齢者が情報技術（IT）を活用して、いつまでも生き生き、そして楽しく充実した生活を送り、社会の発展のために活躍できるよう『高齢者自立型・参加型情報化社会』の実現を目指して参りました。

当協会は、かかる「メロウ・ソサエティ構想」を実現するため長年にわたって様々な事業を展開して参りました。この「シニアネットフォーラム21」は、「シニア情報生活アドバイザー養成事業」等と共に、かかる目的のために当協会が実施している主要事業であります。

高齢者が数の上でメジャーとなっている時代、かつて団塊の世代がそうであったように、高齢者のパワーが社会を変えていく、と言っても過言ではありません。これからは高齢者が社会の主役として、さまざまな形で社会を牽引していくことが求められていると言えます。

世の中が急激に、かつ大きく変わろうとしている今こそ、高齢者の方々も、ご自身の意識や生活様式等自らの生き方を見つめ、自ら変革していくことが重要であり、高齢者の新しい文化・潮流として形成していくことが肝要かと思えます。

そうした中、自己実現の場を求め得意のITを駆使して社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集い、高齢者へのIT講習はじめ様々な社会参加活動を活発に展開している「シニアネット」が全国各地にあって各々素晴らしい活動を展開しております。

男女共同参画が謳われている中、女性も男性も高齢者同士力を合わせ、多くの仲間とともに楽しく、生き生きとした豊かなシニアライフを創造し、これまで培ってきた知識・技術・経験等をもとに再び社会に参加するなど、まさにシニアネットはかかる高齢者の“居場所”であり、“生きがい”となってきました（当協会アンケート結果より）。自治体等との協働事業（コラボレーション）を促進し、地域の情報化推進や街づくり、地域振興等に欠かすことの出来ない強力なパートナーでもあります。今や、シニアネットは高齢者にとって、社会にとってなくてはならない、極めて意義深い存在になってきており、まさに「メロウ・ソサエティ構想」実現の担い手として、高齢者の新しい生き方や新しい文化を具現化するものと言っても過言ではありません。

そこで、当協会は「シニアネット」が全国津々浦々にあってシニアが地元地域で生き生きと活躍している姿を創出していくことが急務と考え、経済産業省や財団法人JKA、全国のシニアネット諸団体等のご協力を得て「シニアネットフォーラム21」を開催し、その普及・拡充に邁進して参りました。

ここに今年度第二弾として、東京・千代田区で「シニアネットフォーラム21 in 東京 2010」を開催し、全国各地で活動しているシニアネットの益々の発展と、シニアネットの一層の普及につなげることに致しました。

その為、統一テーマ「シニアネットはシニアの生きがい、シニアライフをもっと楽しく、もっと豊かに～新たなシニア文化の創造と発信～」を合い言葉に、基調講演、パネルディスカッション、ワークショップ、特別セミナー、シニアネット交流広場の五つの柱を立てて開催致しました。

定員を上回る多くの皆様方にご参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、明日のシニアネットのあり方や高齢者の生き方等について一緒にお考えいただきました。多くの方がシニアネットの活動に参画し、邁進していただいたことは主催者としてこれに勝る喜びはありません。

今後、この成果を持ち帰って頂き、これからの活動のお役に立てて頂ければ、幸いです。そして、これを機会に、数多くのシニアネットが全国に誕生することを切に熱望致しております。

平成22年3月

財団法人 ニューメディア開発協会



シニアネット・フォーラム21 in 東京 2010
【報告書】

目次

(Ⅰ)はじめに	001
(Ⅱ) フォーラムの概観	
1. 開催の主旨	004
2. 実施要綱	005
3. プログラム構成のポイント	005
4. 実施状況	011
5. まとめ	012
(Ⅲ) プログラムの詳細	
1. 主催挨拶	013
2. 来賓挨拶	015
3. 基調講演Ⅰ	016
4. 基調講演Ⅱ	022
5. パネルディスカッション	034
6. ワークショップ1	052
7. ワークショップ2	063
8. ワークショップ3	074
9. ワークショップ4	083
10. ワークショップ5	093
11. 特別セミナー	102
12. 交流広場	112
13. クロージングセッション	116
(Ⅳ) 付属資料	
1. 開催案内	118
2. アンケート	128

1. 開催の趣旨

昨年度の統計では、我が国は65歳以上の高齢者人口が約2898万人、人口比率で22.7%になっている。これは昨年に比べ高齢者人口は79万人増え、総人口に占める割合も0.6ポイント上昇したもので、また一段と高齢化が進み、実に4.4人に1人が65歳以上と言うことになる。

日本の総人口は減少を続けている中、団塊の世代の高齢者が仲間入りを既に始め少子化と相俟って2055年には65歳以上の高齢者が41%を占めるであろうと予測され、ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくるということになる。かかる時代においては、高齢者のパワーが日本社会を大きく変えると言っても過言ではない。今後、高齢者が社会の主役となり、いかに新しい社会の担い手としての役割を果たすかが益々重要な課題となっている。その為には高齢者が自身の意識や生活ライフの形態を変えて行くことが重要となる。

一方、そうした時代背景の中で各地にさまざまな「シニアネット」が発足し、高齢者による高齢者の為の各種 IT 講習会が開催され、高齢者が職場等で長年培ってきた IT の知見、ノウハウを生かし各地域にさまざまな活動を展開している。こうしたシニアネットの活動はえてして家庭に閉じこもりがちの高齢者の地域デビューの機会をもたらし、かつ高齢者の生きがいを創出しシニアライフを楽しいものにしていく。各高齢者の持つ豊かな知識と経験を自治体等と協働することにより自身ばかりではなく地域の情報化の推進と地域の振興に大きな役割を果たす。このようにシニアネットは高齢者自身は勿論、その地域にも大変重要な組織であると言える。

当協会は、旧通商産業省（経済産業省）が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指す為には上記のシニアネットの活動こそが極めて重要で欠くべからずものと認識し、シニアネットを重要なパートナーとして連携を強化してきた。

こうした経緯の中から当協会としては IT を推進するシニア団体が日本全国津々浦々に存在し高齢者が生き生きとシニアライフを楽しむような社会を創出することが急務と考える。この為、当協会はこれまで経済産業省の他財団法人日本自転車振興会（現財団法人 JKA）等の多大な御指導・御支援を受けて「シニアネットフォーラム」をシニアネット諸団体の御協力を得ながら全国で展開してきた。

今年度は「シニアネットフォーラム21 in 九州 2009」に引き続き、この度「シニアネットフォーラム21 in 東京 2010」を東京で開催することとし、統一テーマ「シニアネットはシニアの生きがい、シニアライフをもっと楽しく、もっと豊かに—新たなシニア文化の創造と発信—」を掲げ、基調講演、パネルディスカッション、ワークショップ、特別セミナー、シニアネット交流広場の五つの柱を立てて開催致しました。

既にシニアネットに参加されて活動に御参加されている方は勿論、これから「地域デビューをしたい」、「シニアネットに参加してみたい」、「何か地域の為に活動してみたい」等を考えてみたいとお考えの高齢者が全国より御参加いただいた。また自治体等からも「シニアネットと協働して地域の施策や事業等に取り組みたい」とお考えの方が御参加していただいた。今後このフォーラムがきっかけとなり、シニアネットの普及・拡充が一層ともなされ高齢者の豊かなシニアライフ社会の構築の一助になる事を期待する。

2. 実施要領

- (1) 日時
1日目：平成22年2月4日（木） 10：30～16：30
2日目：平成22年2月5日（金） 10：00～16：15
- (2) 会場：アルカディア市谷 私学会館 3F 富士の間
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25
- (3) 主催：財団法人 ニューメディア開発協会
- (4) 後援：経済産業省
- (5) 協力：(五十音順)
いちえ会
マイクロソフト株式会社
株式会社デジブック
- (6) 定員：約200名
- (7) 参加費：無料
- (8) 参加対象：
 - ・ シニアネットへの参加や新規設立等、シニアネットに関心のある方
 - ・ シニアネットのメンバーの方
 - ・ 団塊の世代の方
 - ・ シニア情報生活アドバイザーの方
 - ・ 自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進を御担当の方
 - ・ 企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方
 - ・ コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方 等々

3. プログラム構成のポイント

開催の趣旨である「シニアネットはシニアの生きがい、シニアライフをもっと楽しく、もっと豊かに—新たなシニア文化の創造と発信—」というテーマに即し、プログラムを基調講演Ⅰ、基調講演Ⅱ、パネルディスカッション、ワークショップ、シニアネット交流広場の五本立てとし、高齢者とシニアネットの更なる飛躍をはかる内容とした。

(1) 基調講演 Ⅰ

テーマ：「人生80年時代、シニア世代の新しい生き方～男女共同参画の時代、力を合わせて社会の主役に～」

講師：樋口 恵子 氏（評論家）

我が国の高齢化社会は急速に進み、2055年には実に総人口の41%が65歳以上になると見込まれています。シニアが数の上でもメジャーになる成る時代、まさにシニアがこれからの社会を変えて行く、と言っても過言では有りません。人生80年時代、そして男女共同参画が叫ばれている今、シニア同士男性も女性も力を合わせて、シニアライフを実り豊かなものとすべく新しい生き方を身につけていくことが重要となっております。

そうした中、「シニアネット」はシニアの「生きがい」となり、シニアの「居場所」となって、シニアの自立を支え、社会参加をそくす誠に意義深いものとなってきております。シニアが地域デビューを果たし地域で活躍するに相応しいものになっておりますが、シニアネットはやや「男性社会」の傾向が見られます。しかるに、女性が活躍されているシニアネットは概して活発な活動を展開していると思われ、女性のより一層の参加が必要と思われれます。

そこで、シニアの新しい生き方に造詣の深い評論家の樋口恵子氏から、女性の社会参加活動の重要性

に触れていただきながら、シニアは今後どのように生きるべきか、シニアの社会参加・市民活動の意義について言及していただきながら、新しい生き方について語っていただきました。

(2) 基調講演 II

テーマ：「ITの進歩はシニアとシニアネットの活動を劇的に変える」

～地域や社会を変えるパソコン教室をつくろう～

講師：佐々木 博 氏（オフィス創庵 代表取締役）

高度情報化社会が進展する中、ITは益々人々の生活に深く係わってきています。とりわけシニアにとってはITはシニアライフを実り豊かにする道具として日常生活に欠かせない存在になってきています。ITと暮らすシニアにとって、ITを活動の基盤にしているシニアネットにとって、日進月歩を続けるITが今後シニアの生活にいかなる影響をもたらす事になるのか、そしてシニアライフにいかなる夢や安らぎをもたらしてくれるのか大きな期待を抱かせてくれます。

そこで、NHK教育テレビの番組「趣味悠々」で中高年のITの利活用を指導され、シニアのITライフに詳しい佐々木博氏（オフィス創庵 代表取締役）から、ITの進歩がユビキタス時代を生きるシニアの生活やシニアネットに如何に劇的な変化をもたらすか、最近アップルが発表したIpodなどの新しい御紹介をいただき、当日会場でTwitterや、その講演模様をインターネット動画配信で配信するなど最新の技術動向をその場で実演いただいた。

(3) パネルディスカッション

テーマ：「シニアネットはシニアの生きがい、もっと楽しく、もっと豊かに」

コーディネーター：佐々木 博 氏（オフィス創庵 代表取締役）

パネリスト：秋元 竜 氏（鳥取県 企画部 協働連携推進課

生部 圭助 氏（NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長）

高橋 泰子 氏（新陽パソコン倶楽部 代表）

奈良井 昌雄 氏（シニアネットやまぐち 代表）

能田 幸生 氏（NPO法人 トータル・サポート 21 理事長）

我が国にシニアネットが誕生して以来10年余が経過した現在、全国各地で多くのシニアネットが活躍している。そして各地でシニアネットの情報リテラシー向上やその活性化、地域の情報化促進等有意義な活動を展開し、大きな成果を収めてきた。

そうしたシニアネットの活動を通じてシニアは自らの生活を楽しく実り豊かなものにし、新たな生きがいを見出そうとしている。新しいシニアライフのあり方を求める中で、シニアならではの新しい文化が形成され、それが全国に発信され、うねりとなって多くのシニアの間に広がってゆくことが期待される。

団塊の世代がシニアの新しい仲間に加わろうとしている等、新しい局面を迎える今日、シニアの生きがいとシニアネットとの関係について論議することは極めて重要な事と思われる。

そこで、各地で活躍されているシニアネットの代表者とそれを支える行政関係者にお集まりいただき、自治体の方からは、パソコンシニアネット活動をされている方が、地域の方や違う団体、自治体とどんな風にうまく活用していけばいいのか、又自治体側から見たときに、こういった活動をサポートするやり方についてのアドバイスをいただき、今回の論点として1) コミュニティビジネスや起業支援というIT利活用をしていられる方の大きな問題として、そういう活動が一般の人に伝わらないことであるが、どのように伝えるかその方法、アイディアを考えて行きたい。2) シニアネットの横のつながり、いろいろな地域とシニアネットの方々同士がつながる活動は今まであったのか？そういうことがあるべきなのかどうか3) シニア情報生活アドバイザーの活躍の場は、これからの社会においてパソコン教室の

先生を超えたものが必要なのか、アドバイザーの活躍の場を地域でどう作っていくべきなのか、どういう風に地域の人たちと連携すればよいのかという3つの項目で、今後のシニアネットの意義、有り方についてパネラー及び会場質問者とで熱心な御討議をいただいた。

(4) ワークショップ

ワークショップは以下のとおり、テーマ1(女性の参画)、テーマ2(コミュニティ・ビジネス)、テーマ3(IT普及)、テーマ4(行政との協働)、テーマ5(シニアの社会参加)の5つのテーマで構成した。

テーマ1 「男性も女性も、皆が楽しむ、魅力あるシニアネットめざして」

高齢社会において、シニアこそが地域最大の社会資源であると言われているが、とりわけシニアネットは、その活動実績等を通してシニアの良き拠り所、資源の源泉として大きく期待されている。多くのシニアの方々は、自ら“地域デビュー”を果たしシニアライフを豊かで実りあるものにしたいと切望されているが、それを実現する場としてシニアネットは大きくその役割を果たしてきている。当協会の調べでもシニアネットはまさにシニアの「生きがい」「居場所」等と位置づけられてきており、団塊の世代が近々65歳になる等の節目を迎えようとしているこの時期、男女ともに多くのシニアがシニアネットに参加して生き生きと活動できる魅力あるシニアネット像というものを皆で考え、実現させることは大変意義深い事と思われる。

そこで、1,300名と全国でも最大級の会員数を誇り、県内13支部を有しほぼ全県レベルで男性も女性も生き生きと活動している「熊本シニアネット」よりその活動状況をお話いただく中、女性の参画、各シニアネット運営に当たっての共通の悩み、シニアネットの楽しみ方等を御討議いただいた。

テーマ2 「コミュニティ・ビジネスでシニアの知見を地域に活かす」

自分が永年培ってきた知識・経験・ノウハウや知識を生かして社会に役立ちたい、出来る限り生涯現役でいたいという意欲を持ったシニアは多い。市民がその主役となり企業とはひと味違ったいわゆるコミュニティ・ビジネスを展開し、個々のシニアのノウハウを地域に生かす、これはまさにシニアの大きな「生きがい」であり「喜び」でもある。

こうしたシニアの「生きがい」を実現するべく、コミュニティ・ビジネスを活動の中核に据えたシニアネットが増えてきている。現在厳しい経済情勢を迎えていることもあり、今後こうしたコミュニティ・ビジネスを掲げるシニアネットへの関心は一層高まってゆくものと思われる。

そこで、コミュニティ・ビジネスを中核に据えて、神奈川県横浜市を中心に活動している「NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川」より横浜市等で委託を受けた事例等の御紹介を頂く中で、コミュニティ・ビジネスに関してのプロジェクト管理能力、スキル管理、モチベーション管理等色々問題を御討議いただいた。

テーマ3 「シニアへのIT講習で生き甲斐作り、人に喜ばれ自分も喜ぶ」

シニアネットはその本業とも言える「IT講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニアの情報リテラシー向上を促進し、社会に活力をもたらしている。シニアネットならではのきめ細かな教え方や仲間同士で楽しく気楽に学びあえる雰囲気はシニア受講者に喜ばれている。教える人にとっても受講者に感謝され、それが喜びとなりかつ生き甲斐となって充実したシニアライフにつながっている。今やシニアネットなくしてはシニアネットへのIT普及は進まないと言っても過言ではない。

これまでの様々な活動によりシニアのIT人口は年々増加しているとは言えるものの未だシニア全体の十数パーセントに留まっていると言う事で、残念ながらまだまだ少ないと言わざるを得ない。今後はまだパソコンに触ったことも無いシニアへの普及が課題となると思われ、新しい状況に対応していく必要が有ると思われる。

そこで、大企業城下町ともいえる刈谷市を中心にシニアへのIT講習等を行って活躍されている「シ

ニアネット刈谷」よりその活動状況の御説明をいただき、各シニアの方と「修了型か同好会型か、それぞれのメリットデメリット」、「マンネリの打破への工夫」「魅力ある講座作りと生甲斐の得られるシニアネットにする為にはどうすべきか」等を御討議いただいた。

テーマ4 「行政との協働を促進し、地域社会のために」

多くのシニアネットは自ら持てる力をシニアの為、地域の為に何か役立ちたいとの熱い思いを抱いて活動を展開されているが、シニアネットがその活躍を通して社会に貢献しようとする時、関係自治体との協働（コラボレーション）は極めて重要である。一方、少子高齢化と高度情報化が同時進行する社会にあって、自治体にとっても地域の情報化推進、地域振興等の諸政策を進める上では、シニアネットやシニアの豊富な経験や優れたノウハウを活用することは極めて重要な要素となっており、今や両者の協働（コラボレーション）はお互いに必須なものとなって来ている

そこで提案型において県や市との協働事業を展開し、シニアへのIT普及活動を主体に地域社会に貢献している「NPO法人つれもてネット南紀熊野」より平成21年度予算で実施している和歌山県と田辺市との協働事業について御紹介いただきながら、共同事業における様々な問題点、行政との協働を一層進める為にはどうすれば良いか等のポイントで各出席者と御討論をいただいた。

テーマ5 「シニアの社会参加を促し、シニアの自立をめざして楽しく学ぶ」

シニアネットの活動がシニアを元気にし、「生き甲斐」をもたらすなど大きく評価されてきており、今後も益々その活動が注目されていくものと思われる。一方でシニアライフをどうやって充実したものにしてゆけばよいのか、学びの場を求めているシニアの方も少なくない。自らを高め、また社会参加を切望し、内面だけではなく活動面・外面を高めてゆくのに、シニアを対象にして気楽に学び合える“場”と言うものが重要になってきており、皆で学び、論議し、お互いに高め合ってゆく、そうした“学びの場”を提供するのもシニアネットの重要な役割と言える。

そこで、早朝、喫茶店に会員を集めシニアの自立に向けた様々な学びについて独特の勉強会を実施し富山県を中心に広く活動されている「シニアネットとやま」より10年間の活動の流れと変遷、問題点等を疲労していただきながら、各団体とその問題点、行政とのコラボレーション等を御討議いただいた。

(5) 特別セミナー

テーマ 「Windows7でシニアのパソコンライフはどう進化するのか？」

講師：大島 友子氏（マイクロソフト株式会社 技術統括室 マネージャー）

ITを活動の基盤に置くシニアネットにとっては日進月歩で進化し続けているITの動向は常に大きな関心事である。このほど、新発売された新しいOSである「Windows7」は、シニアネットとして今後まさに深くつき合っていくことになる。

そこでマイクロソフト株式会社大島殿より、かかるOSがこれからのシニアライフに、そしてシニアネットの活動にいかな影響を持たらしどのようにその活動に寄与するかを語っていただくと共に、タッチ機能とかAero機能とかの新しい機能を会場で実演をいただいた。

(6) シニアネット交流広場

全国各地で御活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士がフェイス・ツー・フェイスで意見を交換し相互交流を深め、お互いの活動の向上に役立てる場とした。また、これまで多くの参加者から大変交流を得ている協力企業のお役立ちコーナーも設けた。今回は合わせて20団体が展された。参加者の今後の参考になる事を期待したい。

プログラム

2月4日(木)

09:30～10:30	受付	
10:30～10:45	開会 オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 岡部 武尚(財団法人 ニューメディア開発協会 理事長) ・来賓挨拶 経済産業省商務情報政策局(予定)
10:45～11:50	基調講演 I	<p>「人生80年時代、シニア世代の新しい生き方 ～男女共同参画の時代、力を合わせて社会の主役に～」</p> <p>樋口 恵子 氏(評論家)</p>
10:30～15:30	シニアネット交流広場	シニアネットの成果展示による相互交流の場
11:50～13:00	休憩(昼食)	
13:00～14:00	基調講演 II	<p>「ITの進歩はシニアとシニアネットの活動を劇的に変える」 ～地域や社会を変えるパソコン教室をつくろう～</p> <p>佐々木 博 氏(オフィス創庵 代表取締役)</p>
14:00～14:10	休憩	
14:10～16:30	パネルディスカッション	<p>「シニアネットはシニアの生きがい、もっと楽しく、もっと豊かに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター 佐々木 博 氏(オフィス創庵 代表取締役) ●パネリスト(五十音順) 秋元 竜 氏(鳥取県 企画部 協働連携推進課) 生部 圭助 氏(NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長) 高橋 泰子 氏(新陽パソコン倶楽部 代表) 奈良井 昌雄 氏(シニアネットやまぐち 代表) 能田 幸生 氏(NPO法人トータル・サポート21 理事長)

2月5日(金)

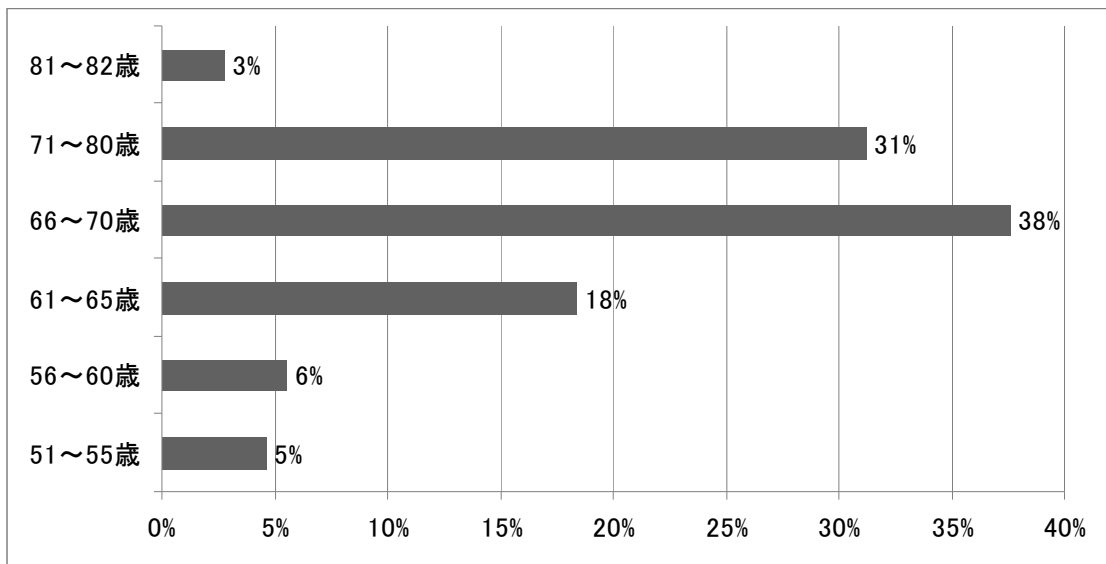
09:30～10:00	受付	
10:00～12:00	ワークショップ	<p>「シニアネットをもっと豊かに！ 生きがい求め、シニアネットのあり方を探る」</p> <p>【テーマ1】 「男性も女性も、皆が楽しむ、魅力あるシニアネットめざして」 課題提供者:中島 敬也 氏(熊本シニアネット 代表)</p> <p>【テーマ2】 「コミュニティ・ビジネスでシニアの知見を地域に活かす」 課題提供者:大熊 勇雄 氏 (NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川 副代表理事)</p> <p>【テーマ3】 「シニアへのIT講習で生き甲斐づくり、人に喜ばれ自分も喜ぶ」 課題提供者:若井 光也 氏(シニアネット刈谷 代表)</p> <p>【テーマ4】 「行政との協働を促進し、地域社会のために」 課題提供者:千品 雅彦 氏 (NPO法人つれもてネット南紀熊野 代表理事)</p> <p>【テーマ5】 「シニアの社会参加を促し、シニアの自立をめざして楽しく 学ぶ」 課題提供者:柳原 正年 氏(シニアネットとやま 代表)</p>
12:00～14:00	シニアネット交流広場 休憩(昼食)	シニアネットの成果展示による相互交流の場
14:00～15:00	シニアネットフォーラム「Windows7でシニアのパソコンライフはどう進化するか？」 特別セミナー大島 友子 氏	(マイクロソフト株式会社 技術統括室 マネージャー)
15:10～16:10	ワークショップ発表	各テーマの討議内容発表(発表者: 各コーディネーター)
16:10～16:15	クロージングセッション 閉会	「総括」 大林 依子 氏(いちえ会 主宰)

4. 実施状況

(1) 今回は純参加者が2日間で延べ434人という多数の参加があり、定員を大きく上回り盛況裡に終了する事ができた。参加者よりワークショップなどでは様々な意見、問題点等が討議され、大変有意義なフォーラムとする事ができた。

今回参加者の構成年齢を見ると、例年通り61歳～70歳が全体の56%を占めた(昨年同期比-2%)。ついで71歳～80歳の方が31%(昨年同期比+7%)を占め、次に51歳～60歳が11%(昨年同期比+2%)という結果となり、構成順位は変わらなかったが、高齢者の参加と定年を迎えた団塊世代の参加が増加した。一方、行政機関の参加は2%で昨年同期比より-3%も減少しており、昨年と引き続き、自治体と協働したシニアネットの地域参加を目指すなか、大きな課題である。

なお、男女構成比率は男性77%、女性23%となり男女共同参画を目指す中、女性参加率は-10%になり大変残念な結果に終わった。



(2) プログラムの実施概要

今回は、基調講演Ⅰ、同Ⅱ、特別セミナー、パネルディスカッション、ワークショップ(5つのテーマに分かれて5つの分科会に分かれて実施)、シニアネット交流会の5本柱で行った。

我が国でシニアネットが誕生し約10年が経過したこと、団塊の世代が数年のうちに65歳以上になってシニアの仲間入りを控え、シニアの人口が急増すると見込まれること、リーマンショック以後の景気停滞という大きな激動の時代に遭遇していること等を鑑み、これからのシニアネットはどう有るべきか、皆で考え、論議できるよう全員参加型の内容で実施した。

各プログラムの内容については、その骨子を別項に記す事とした。

5. まとめ

① 大変な盛況の中で、活発な討論や意見交換が行われた。

今回は当初の計画を上回る多くの方に参加いただき、大盛況の中二日間の日程を終了した。シニアネットが全国に誕生してから10年が経過し、各ネットとも順調に活動を伸ばす一方、活動のマンネリ化、内部での人材不足等も問題点となっていており、段階の世代が数年のうちに65歳になってきてシニアの仲間入りをしてくると言う今、シニアネットはどのような方向に向かうべきとか、シニアの生き方はどう有るべきか等の論議が各ワークショップでの分科会にて熱い論議が交わされた。各ネットの交流が深まりお互いの団体に共通する問題点を話し合うことにより充実したものとなった。

② Twitter、Ipad等の新技術への対応

今回、基調講演にてTwitterや動画のインターネット配信等が当日会場内で行われ、会場内の様子がインターネット上に映っているのを見て会場内の人にはどよめきが起こった。また発表されたばかりのIpadの紹介やWindows7の新機能の説明なども行われ、IT技術が急速に進化していることを実感した。これからはシニア情報生活アドバイザーとしてはパソコンばかりではなく携帯電話、スマートフォン、Ipod等これらの新アーキテクチャーに対応していく必要にせまられており、シニア情報生活アドバイザーの更なるレベルアップが急務になると思われる。

③ 行政とのコラボレーションによる地域貢献

高齢社会が進む中、シニアネットがより社会に貢献しようとするれば自治体等の行政とのコラボレーション（協働）の必要性は益々必要となっており、逆にその地域の地域振興を図ろうとするればシニアネットを活用する事は非常に有効な手法と思われ、行政側もその施策のじつしにあたってはシニアの豊富な知見やノウハウを必要としている。シニア側も今回のアンケートでは実に44%の人が行政と協業したいと希望しているが、しかしながらシニアには申請時期、申請窓口等実際に行政と結びつく手法を知っている人は少なく、今回のフォーラムではいかに行政と協働するかの論議・質問がなされ、引き続き大きな課題として残った。

④ シニアネットへの活動意識が高まった

今回参加されたアンケートを見ると今回のフォーラムに参加する際、「自分のシニアネットでの活動に役立てるため」、「シニアネットの設立に役立てるため」、「シニアネットに参加するにあたって役立てるため」と回答された方が合計72%であったが、再参加後の結果では、「さらに活発に活動したい」と御回答された方が67%、「身近なシニアネットに参加したい」が22%、合わせて89%の方が「シニアネットに参加したい」と+17%も活動する意識が高まった。

また参加する前でのアンケートでは「シニアネットの設立を考えている」が3%であったが、参加後には4%となり、設立したいという方が増えた。

⑤ シニアネット交流広場へ多くのシニアネットが出展

前回に引き続きシニアネット交流広場の出展数が20ブースとなった。「各地区のいろいろな活動状況が理解できた」「全国から多くの団体が参加しているので驚いた」「パソコン関係だけでなく、幅広く活躍している様子がよくわかりました」というような感想をいただいた。

また今回も2日間に渡って展示したがやはり「見る時間が取れなくて眺めただけです。もっと時間がほしい」「展示側とのコミュニケーションする時間がほしい」等の感想や、「ブースをもう少し広く取れば独自性が見えたと思う」との御指摘も有った。なにぶん時間と限られた予算との関係も有るが、今後ともより一層の工夫をしてより充実した交流ができるように事務局として努力と内容の向上を図りたい。

シニアネットはシニアの生きがい シニアライフをもっと楽しく、もっと豊かに

— 新たなシニア文化の創造と発信 —

財団法人
ニューメディア開発協会理事長
岡部 武尚



今日このシニアネットフォーラム 21 イン東京の開催にあたりまして、主催者を代表いたし、一言ご挨拶を申し上げます。

本日のシニアネットフォーラムでは、財団法人 JKA 様、旧の名称で日本自転車振興会様のご支援を得ましてここに開催することとなりました。

このようにあふれんばかり、非常に大勢の方々のご出席をいただきまして、まずもって御礼を申し上げます。

さらにまた、今回の開催にあたりまして、経済産業省様からご後援をいただくとともに、大変ご多忙の中、我々の御担当でございます、商務情報政策局の杉浦秀明情報プロジェクト室長様のご臨席をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、今、まさに未曾有の不況下にあるわけでございます。新たな政権の誕生や、地域主権の強化などともに、社会や経済環境がいまや大きく変

わろうとしている節目の時期になっております。その中で日本の高齢化というものはご案内の通り、世界最速で進んでおり、65 歳以上の人口がすでに 2898 万人ということで、全人口の 22.7% に達し、4.5 人に一人が 65 歳以上になったわけです。これが 1950 年の数値で見ますとわずか、4.9% でした。

今後たとえば 2055 年になりますとその数字は 41% になります。大変な超高齢化社会が日本に訪れるということになります。

また一方、これらとともに少子化が急速に進んでおり、15 歳から 64 歳までいわゆる生産年齢人口が、今後 50 年で 46% 減るといわれており、今後の日本の経済成長、あるいは日本の発展を支えるためにも、我々高齢者が、さらに、第一線で活躍をし続けて社会を牽引するということが必要になってきているわけでございます。

また、我々の社会が大きく変わろうとしている中で、シニア自身においても、自分自身の意識や、自らの生き方を含めまして、自ら変革・改革し、シニアが新しい文化や潮流を作り出すというようなことも必要になるのではないかと、その役割は非常に大きくなるのではないかと考えております。

私どもで進めております情報化ですが、インターネット、携帯電話がどんどん普及し情報化の進展が急速で目覚しく、日常生活が IT の活用によってさらに便利になる中で、シニアが IT 化する社会から取り残されないように対応していくことが重要になっているわけでございます。

このような社会の大きな流れに対応すべく、私どものニューメディア開発協会では、かねてよりメロウソサイエティー構想を提唱し、推進してき

ております。これは、シニアが情報技術を活用し、円熟した生きがいのある豊かな老後を送れ、社会に貢献できるような、いわゆる「高齢者自立・参加型情報化社会」を作り上げるという構想でございます。

今回のシニアネットも、メロウソサイエティー構想の一環として平成 12 年に立ち上げました。その活動はすでに 10 年間を超えるまでになりました。

シニアネットの数は、現在 118 の団体で、全国で活躍しております。

この一年間に 11 団体も増えたという状況でございます。

それから、そのシニアネットで養成されております「シニア情報生活アドバイザー」、この方たちは先生になるわけでございますけれども、累計資格取得者数が 4020 名に達しました。確か去年は 3800 名と言った記憶がございます。

4020 名の内、約 3000 名の方が第一線で今、全国で活躍している状況です。

ご案内の通り、シニアネットの役割というのは、シニアが自己実現の場を求めてシニア同志が集い、得意の IT を駆使して、様々な社会参加活動を活発に展開し、社会のお役に立ち、社会の主役として高齢化社会発展の牽引役になるとともに、シニアの居場所や出番のある社会を作ること、やりがいを持った人を作ることではないかと思えます。

シニアが再び地域デビューを果たし、地域主権の時代に相応しい活動に参加し、自治体や地域の企業などとの協働コラボレーションの推進に欠かすことのできない存在になっております。その強力なパートナーになって、地域の情報化の促進や地域コミュニティの活性化などの地域課題の解決に貢献することが重要です。

言うまでもなく、いまや高齢者がメジャーの時代でございます。

シニアの方々が今まで培ってきた「知識・技術・経験」を十分に活用して、社会に再び参加し、貢献すると共に、自らのシニアライフを楽しく豊かに生き甲斐のある人生作りにはチャレンジして頂く、「シニア再チャレンジ」の時代です。

特に、今回のこのシニアネットの開催に当たり、取り上げましたが、男女共同参画が歌われている

中で、女性の方々に今まで以上にこのシニアネットに積極的に参加され、自らの生きがいを求めていくとともに、地域の発展等々に貢献をしていただきたいという趣旨もございまして、本日の基調講演で、樋口先生にお願いをいたしまして、お話していただくということにさせていただきました。

シニアネットが 10 年経ちまして、いよいよ第二フェーズにはいっているわけでございます。これからのシニアネットのあり方等についても、別途研究会を作って検討しておりますが、今日の会合がその一助になりますことを期待しております。

今回のシニアネットフォーラムは、先ほどもご紹介にありましたが、「新たなシニアネット文化の創造と発信」をサブタイトルとし、「シニアネットはシニアの生き甲斐、シニアライフをもっと楽しく、もっと豊かに」をスローガンに開催いたしました。

先ほど申し上げましたが、評論家であり、NPO 法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長の樋口恵子様及びオフィス創庵代表取締役の佐々木博様の基調講演の他、パネルディスカッション、ワークショップ、特別セミナーを行うとともに、隣の部屋のシニアネット交流広場においては全国各地のシニアネットの活動状況や成果の展示による相互交流の場を設けていますので、ぜひ交流を深めていただきたいと思います。

今日と明日の二日間、多くの方々と熱い議論と相互交流を深められますよう期待をしております。またこの二日間の成果を日頃の新しい生活や活動のご参考にされ、厳しさの増す高齢化時代を豊かに生き抜いていただきたいと思います。

最後になりましたが、各セクションに御出席、お話をいただく講師の方々並びに遠路から、このフォーラムにご参加いただいた方々、本日の開催に当たり、ご協力をいただきました、いちえ会様、株式会社デジブック様、マイクロソフト株式会社様始め、多くの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます、開会の挨拶といたします。

今日と明日の二日間どうぞよろしくお願い申し上げます。

新たなシニア文化の創造と発信

— 高齢者の積極的な社会参加を図る —

経済産業省商務情報政策局情報政策課
情報プロジェクト室長

杉浦 秀明



経済産業省では、高齢者の積極的な社会参加を図り、情報システムが人々の生活に溶け込んだゆとりと豊かさが感じられる高齢化社会の創造を目指し、平成元年度から、メロウソサエティー構想の推進に取り組んでいます。

少子高齢化が進む中で、65歳以上の人口はこの構想が始まった平成2年度では総人口の12.1%、21年度では22.7%と2倍近くに増えています。

一方で、総務省の情報機器の利用という調査では、60代前半でパソコンの利用率は、平成13年では18%、20年には48%と増え、半数の方がパソコンを利用されています。

興味深い事例として、米国のワシントンに高齢者がお住まいの地区があり、家庭用ゲーム機の「Wii」を用いてバーチャルなボーリング大会を開いています。このボーリング大会は仮想現実の中で色々な方が無理なく身体を動かし、満足感を得られるということで大変人気があるとニュースでも取り上げられています。この事例は、意識す

ることなく、高齢者が情報機器を利用する機会が浸透してきていることの現れだと思います。

一方で、お年寄りが年に一回口座管理料の支払いに証券会社の窓口に出向くのを楽しみにしていたのが、来年度から窓口扱いはなくなり、全部口座の振り替えになると聞き、最近はどこへ行っても人と話す機会がどんどん減ってきてこれだよいかなのと思ったということです。

また別の例ですが、当時文化庁の長官を勤められていた青木先生が含蓄の深い言葉で、「美術館の意義というのは遅い情報にある」というお話をしています。じっくりと思索をして理解が進むことで、本当の意義が分かってくる。そこには読解や発見という喜びがあると。早い情報ばかりが優先される今だからこそ、遅い情報の意味を改めて訴えることが大きな意味を持つとおっしゃっています。

こうした事例から得られる示唆とはなにかと、考えて見ますと情報技術や情報システムを活用して今までにない便利さや効率化を求めて行ける部分と、そうすることによって人と人とがさらに、付加価値の高い情報のやり取りで交わっていく部分が新たに生まれてくると考えられます。

今回のシニアネットフォーラム21のテーマ「新たなシニア文化の創造と発信」は、ITの利活用で、こうしたイノベーションが起こっていくということが期待できると思います。

経済産業省としても、ニューメディア開発協会様の取り組みとあいまって今後一層のシニアネットの活動やシニア情報生活アドバイザーの皆様のご活躍を祈念、期待をさせていただきます。私の挨拶とさせていただきます。

人生 100 年時代、すべての人に居場所と出番を

— シニア世代の新しい生き方、力を合わせて社会の主役に —

評論家 樋口 恵子

人生 100 年時代の始まり

ここにお集まりの皆様はいわば「テクノロジーイ（爺）」と「テクノローバ（老婆）」であり、およそテクノが苦手な私をお招きいただき、誠に光栄に思っております。

しかし、本来、パソコンから逃れて一生を終えようとしていた私も、7年前、70歳の時にはパソコンを買うはめになってしまいました。ふと周辺を見ますと同年代でもパソコンを活用している人は数知れず、京都で活動する同年の女性などは男女共同参画のネットワークを立ち上げ、私もその中に組み入れられたところがございます。

さて、少し前までは「人生 80 年時代」と言っておりました。私は最近「人生 100 年時代」と申し上げております。私たちは人類がまだかつてだれも経験したことのない、人生 100 年時代に直面しているのです。しかも、ここにおられるシニアはその初代として見えない道を切り開いていかねばなりません。新しい社会を築き、新しい生き方を示していかねばなりません。私自身も人生 100 年時代草創期のいずれ教祖になろうと腕を磨いているところがございます。

最近、請われるとよく使う講演のタイトルがあります。「人生 100 年、すべての人に居場所と出番を」というものです。この言葉がだんだん普及してきたと見えて、新しい総理大臣の施政方針演説の中に入っております。ここまで普及すれば本望、たいへん嬉しいことです。

ここで言う「居場所」とは安心して生きることのできる場でございます。多くはご家庭であり、人によりましては介護付きの住宅や施設になることもあるかも知れません。まあ、いずれにせよ居場所は大事な基本です。



しかし、「人はパンのみにて生きるものにあらず」と言います。居場所だけでは生きられません。そこで次に大切なことが「出番」ということになります。この言葉が象徴しているのは「輝いている」「お役にたつ」という生き方です。輝いているかどうかは人さまが判断することかもしれませんが、とにかく自分が自分として生きていく、自分が何か人さまのお役にたつて生きていくということです。そのために出番がなければなりません。というより、シニア自身が出番を生み出していかねばなりません。

少し前まで「一番好きな日本語は何ですか」と問われたら、私は「もったいない」と答えておりました。今年 77 歳、昭和 7 (1932) 年生まれですから、戦前の教育を受けたというだけでなく、物のない時代の辛さを嫌というほど味わって生きてまいりました。それだけに、この「もったいない」という言葉は大量生産・大量消費の時代の中でひときわ身にしみ、重く感じたのでございます。ところが時代が変わったがゆえに、いまは「お役

にたつ」という日本語が一番好きになっています。

なぜか？ それは、より今日的課題だからです。いまでも「もったいない」という言葉は大好きです。というより、いま日本社会の中で一番もったいないのは、高齢者の能力と女性の能力です。この二つ能力を活かしてこそ日本の将来はあるわけで、特にシニアの生き方を模索する際に「お役にたつ」は「もったいない」の先にくる言葉といえましょう。「年寄りの冷や水」などというシニアにとっては遠慮がちな言葉があります。これは人生 80 年時代の古びたものといえましょう。人生 100 年時代においてはシニアこそ志高く夢を持ち、新しい生き方のモデルを作り上げていかねばなりません。そのキーワードが「お役にたつ」と言えるのです。

出生率の問題点

今日は企業の方もいらっしゃいますから、少し憎まれ口をたたかせていただきます。寿命が長くなるのは結構なことですが、いま日本のような世界 1, 2 を争う少子化、合計出生率・特殊出生率が 1.2 の 1.3 のという国は、先進国で日本および日本よりやや低い韓国、この 2 カ国でございませぬ。他の先進諸国はいったん下がっても、皆ほとんどが 1.5 以上に回復し、フランスなどは、放っておくと人口が横ばいになる状況です。置き換え水準、静止人口水準とも申しますが、これが先進国の死亡率のレベルからいうと、出生率は 2.07~2.08 あれば人口は横ばいになるのであります。逆に言えば、「少子化だ、少子化だ、産めよ増やせよ」等と言って静止人口水準の 2 を大幅に超えたら、これは先進国として地球に対する一種のマナー違反かもしれませぬ。

ご承知のとおりこの地球温暖化環境問題から言いまして先進国の人口における地球に対するマナーは、私は静止人口止まりまでだと思っております。ただし、日本みたいにこのまま行くと急激に若い人がいなくなってしまう。それこそ私の専門分野の一つでもございますけれど、社会保障なんてどうしたらいいのでしょうか。退職後の人生設計なんて、まるで変わってしまいます。

私も最早、もちろん年金を頂戴しておりますけれど、この年金だって「自分が積み立てた、月給

から差し引かれていた」と皆さんおっしゃるけれど、そんなのチョッと長生きすれば全部帳消しです。後は、すべて決して豊かとは言えない若い世代の月給の中から保険料が天引きされ、われわれ世代を若い世代全体で親孝行してくれているのであります。それがいま程度だからいいけれど、これからどんどん人口が減ったら若い人の社会保障なんて根本から成り立たなくなります。

2050 年前後には日本の 65 歳以上のシニアはだいたい 40% を超えます。これは予測ではあります。人口予測は割に当たるのです。ですから、私が本日、これから先は人生 100 年時代と景気のいいことばかり申し上げます。何しろ高齢者が社会の言ってみれば主流になるのですから、われわれシニアが頑張らなければ日本の未来もへったくれもありません。我ら高齢者が日本の未来を開いていくのであります。

高齢化社会から高齢社会へ

“高齢化社会”が“高齢社会”ということになって、高齢化率が 14% を超えたなどと言っていた時期は、なんとまあ生優しい時代だったろうかと思ひます。世界の先進国はほとんど 14% を超えています。いま面白い国がフランスです。もう 16% が 17% までいっております。この頃いろんな政策が功を奏して出生率が 2.0 を超えました。「高齢化率」というのは母集団との相対的な数字ですから、子どもが生まれる、それから、あと日本よりは移民が緩やかだということもあります。しかし出生率だけで見ても、とにかく 2.0 を超えて、いまフランスの高齢化率は、日本が 22.7% だという時にフランスは高齢社会の基準のぎりぎり 14% まで下がりました。という具合に、他の先進諸国、特に北欧諸国や男女共同対策、少子化対策に一生懸命になってきたフランス、イギリスなどは高齢化の比率が、いま横ばいです。

日本が 10% を超えていよいよ本格的な高齢社会と言われたのが 1980 年代であります。その頃から私はこの問題に首を突っ込んでいましたから、お金が貯まると北欧とか先進諸国へ行ってまいりました。日本が 10% という時、そうした国々はだいたい 15% くらいでした。ですから、良きを取り悪しきを捨ててという明治天皇の和歌にあるような

精神、明治以来の日本発展の精神にのっとり、もう「出羽守(でわのかみ)」と嫌がられながらも、スウェーデンではこうやっている、イギリスではこうしていると政府委員の審議会などで発言をいたしました。日本の高齢者福祉も政策も、まあ介護保険の創設等という大変な大仕事もございました。いまここまで来て、遅すぎる進歩ではございましたけれど、何はともあれ3年前高年齢者雇用安定法も改正されまして、なんとかかんとか65歳までの雇用を確保するというような道も一歩一歩ではございますけれど、政策も変化してきたわけでございます。

ですから、私はこれから私たちの幸せのために、そして私たちの次に続いてくるシニア達の幸せのために、一生懸命、この会場におられる皆さま方は今取り組まれているシニアネットのご活動にどうぞ取り組み発展させていただきたい。これが新しいシニア文化を作る基だと思えます。ただ、その時にもう一つ、次の世代がもうちょっと生まれてくる社会にすることも、頭の隅に置いて頂きたいと思うのでございます。

働き続ける社会の方が出生率が高い

職場において、妊娠した女の人が育児休暇、場合によっては産休だけでもいいですから取って働き続けられるような社会が来なかったら、これでは子どもの数は増えません。あらゆるデータが、今世界中のデータが20代、30代という年代で働き続ける女性の多い社会の方が「出生率が高い」ということを示しております。

口をすっぱくして繰り返し申し上げてまいりました。その限りにおいては皆さん「そうですね」とおっしゃってくださいました。しかし、私のような70代、あえて申し上げます。70代の老女と、いま現役で働いている20代から30代の若い女性と50年近い歳月を経て変わっていないことが一つございます。何が変わっていないかというと、私の世代の者は、ごく少数ではありますけれども、大学教育を受けて働く者がおりました。大学は出ていなくても何らかの技術を身に付けて働きに出る人もおりました。しかし、その大半の人は結婚か妊娠によって退職したのであります。保育所も少のうございました。ですから、1割か2

割くらい、学校の先生とか公務員くらいしか働き続けられませんでした。

我々の時代がそうだったということは誰も不思議はないであります。女性に若い定年を課していた会社もいくらでもあるのでございました。しかし、今です。今の今です。今の役所の統計です。職場に勤めていて、お腹の大きくなった女性のうち7割が、なんと出産前に辞めているのです。これは、私たちの頃とたった1割しか違っておりません。7割が辞めて、そして再就職となると非正規雇用、男性の非正規雇用が3割を超えたと申しますが、女性の非正規雇用は、もともとずっと前から5割を超えているのであります。日本は豊かな国になったと言いながら、働けないのであります。皆さまもそうじゃないでしょうか、働いて社会のために何か役に立ちたいと思うのではありませんか。

私がいま一番好きな言葉は“お役に立ちたい”という日本語だ、とはじめに申し上げました。そして、人間が性善説に立つか性悪説に立つかはいろいろ立場はございましょうが、私はどちらかと言いますと性善説でございまして、およそ善なるものは誰かのお役に立ちたい、そのことを通して自己実現したいという想いを持つのではないかと考えております。

人間は男女を問わず、「居場所」プラス「出番」でございます。そして、子どもを産む時期というものがあります。主に20代、30代です。これはさっきから申し上げておりますように、もうちょっと数多く生まれて欲しいところです。しかし、実は地球環境問題、世界の人口問題からいったら先進国はだいたい出生率を「2」で止めなければ、これは大変な事になります。静止人口で止めておかないと、まさに地球温暖化は止まらないし、そして、先進国であるわれわれがそう言わなかったら、途上国の皆さんに対して人口爆発をしないようになってことは、実は口が裂けても言えないのが今の国際社会でございます。でありますから、そんなにたくさん産めと言っているわけじゃない。一生に1度か2度、そのくらい産むことと働くということ、働いてお役に立つということが二者択一になっています。



本来、豊かな社会というのは選択肢が豊かになるということと申し上げてもいいと思います。ところが、日本の特に働く女性には、「働き続けますか？ 子どもを産みますか？」というたった2枚のカードしかなかった。このうちの二者択一という選択肢しか許されなかった。「仕事も持ち、子どもも産む」という選択肢を長いこと職場社会も制度も許しませんでした。

やっとこの10年、育児休業とか、男子の育児休業とかが認知されるようになりました。通産省のある課長さんは育児休業をとって、大変、我ら女性から称賛されております。でもね、女性が育児休業をとったからと言って周りから迷惑顔されるのに、男が育児休業をとって、そのことを本にすると売れちゃっています（笑）。

私たちは男も女も働いてお役に立って自己実現する、そして、今度は逆に男の方は、30代のお父さんのほとんどの人が、もうちょっと家に早く帰って家族と触れ合いたいという。これは立派な国がやった世論調査でございます。にもかかわらず、1日10時間働いている人が2割ぐらいいるという状況、これは本当にやはり悪意はなかったにせよ、日本の今までの政策は男にも女にも仕事と家庭を両立させない、つまり少子化の歯止めのかからない政策を進めてきたのではなかろうかと思えます。いま、やっと、やっと、やっと変化の兆しが見えております。

日本は高齢化という種目で金メダル

ここで、にほんの高齢化について整理してみましょう。北京オリンピックが終了し、間もなくバンクーバーの冬季オリンピックが開催されようと

しています。日本はいくつメダルが取れるのだろうか。こうした話題が皆様の茶の間でも飛び交っていることと思います。

もしオリンピックに「高齢化」という種目があれば、日本は燦然と輝く金メダルです。しかも、トライアスロンのような三冠王、あるいは3つの金メダルとっていいでしょう。高齢化を細分化すると3つの種目に分かれます。「平均寿命」、「高齢化率」、「高齢化のスピードの速さ」です。

1. 平均寿命

男性は79歳を超え、女性は85.9歳。男性は首位ではありませんが、総合第1位です。

2. 高齢化率

日本は特殊な国になりつつあります。欧米先進国が高齢化して、日本、そしてアジアの国々が音をたてて高齢化していています。いま、日本は21.5%という高齢化率2割を超えた唯一の先進国になりました。欧米先進国は14.5~18%です。高齢化とは全人口に占める65歳以上の人口を一応目途にしています。全人口が問題で、他の国々は出生率が高いという意味です。高齢化ということ、男女平等・男女参画とは密接な関係にあるのであります。

3番目は、スピードの速さ。

日本は65歳以上が7%から14%に。時間でみるとフランスなどでは100年以上かかっています。日本はわずか24年で7%から14%に。つまり、スピードが速いということは準備期間がないということです。それにしても、日本は良くやっています。外国の良いところを取り入れ、短い間で、国民介護保険、医療保険を作ってきました。

さて三冠王ですが、寿命が長い一冠王は誇りにして良いと思います。長い寿命にふさわしい生き方、その新しい文化を初代として創らなければなりません。

人生100年社会の初代として生きるということ。この場にいる私達が、シニアの初代です。私はこの人生100年生きるということ、心静かに生きていくこと、心はずませて生きていくことはいかに難しいかと毎日痛感しています。働く場所があって、同世代の人達との交流があって、何らかのできる仕事をみつけて地域社会の役に立っていく、

これ以外に最大の介護予防はないと思うのであります。

女はなぜ男より長生きなのか

このまとめの中で一つ気になることがあります。男性の寿命です。男性の寿命は必ずしも安定した世界1位ではありません。この差はどこから来るのでしょうか。

「衣・食・住」のことを自分でできるか、できないか、このことが男女の平均寿命に大きな影響を与えているということを皆さんご存知でしょうか。神奈川県立福祉大学教授で中村貞二さんが『女はなぜ男より長生きなのか』という興味深い本を書いています。医学博士で栄養学がご専門の方です。長生きのカギは女性の生活習慣、食生活にあるのだそうで、「食習慣、女性化のための10カ条」を挙げています。これがなかなか面白いので、その中から3つ紹介しましょう。

1. できるだけ家で食事をする。

これには二つの側面があります。男はどうしても外で飲んで帰る機会が多いでしょう。お酒を飲むときは少し濃い目の味がよく、お酒もすすむようです。その点、家庭の食事は体を気遣って薄味です。しかも、できるだけくだらない世間話をしながら食事をするのがいいのだそうです。テレビでもつけて政治家や芸能人の悪口を言うなどは、当たり障りがなくベストでしょう。身近な親兄弟の悪口では険悪になって逆効果。しかも、やいのやいの言いながらであれば早食いにならない。

この会場にもいませんか、妻が他愛もないことを言っているとイライラして「結論を言え、結論を」(笑)、という方。親の介護を愚痴っていると「何か要求があるなら、箇条書きにして出さない」(笑)という方。何やら労使交渉みたいではないですか。このような妻の無駄話を聞けない夫は早死にするということになります。

2. スーパーに買い物に行く

買い物をするということは、私に言わせれば究極の自己決定です。自分の目で選び、この経済社会において財布の自由を持つことは、基本的な権利の一つではないのでしょうか。なんで男性は買い物権を妻に全部渡し、スーパーの袋を提げていることを男の沽券にかかわると思いきや

のでしょうか。

小松菜とほうれんそうと春菊と水菜がある。今日は何を買うか。しかも自分のお財布から払う。究極の自己決定です。この快感を女たちは知ってしまって、もう男たちには戻さないだろうと思います。スーパーの袋を提げていて何が恥ずかしいのでしょうか。

私は、男性の労働組合幹部によくこう言います。「買い物に行きなさい。一番物価がよくわかる。買い物袋を提げていて、社宅の奥さんにおかしいって笑われたら、こそこそするから笑うのです。こうして腕を突き出して、「これがホントのスーパーマン」と言えばいいのです」とね(笑)。

実はもう一つ、首都大学東京教授の星旦二さんという公衆衛生学の大家による別な疫学的調査がありまして、買い物をする人の方が健康寿命が長いという結果が出ております。特に行動範囲が狭くなる高齢期においては、買い物の意味は一層重いといえましょう。ここで私の好きな標語の一つ。「少年よ、大志を抱け！ 中年よ、妻子を抱け！」、そして「老年よ、財布を抱け！」(笑)。繰り返しになりますが、これには疫学的な裏付けがあるのです。

3. 食後は寝ころばず、あとかたづけをする

私の夫は、前の二つはよく守っていたのだけれど、この3つ目が守れないために70歳で亡くなりました。どういうことか、したたかに飲み、したたかに喰らい、快く酩酊し、パタンキューという生活でした。これが男の特権とされていた。しかし、一番体に良くないのだそうでもあります。

詳しい理由は中村教授の本に譲るとして、昔から諺にも“食べて寝る子は牛になる”、すぐ寝ちゃいけないとある。食休みは大事なんですよ。ただ、食後30分ぐらい地球と垂直になっているのがいいのだそうです。そして、したたかに快く酩酊した人間、すぐベッドで横になりたい男が、かろうじて30分を保つために一番いい方法は何か。これ、樋口恵子が言うのではない。中村教授が言っているのです。一番いい方法は「妻の傍らに立って台所の後始末をすべし、皿洗いをすべし」(笑)と。ちょうど30分です。何ということでしょう！ちゃんとした男性が科学的に考えていくと、私た



ち女性の立場から経験的に言っていたことと完に一致するのであります。

命は長く、変化は速し

まとめに入りましょう。私達は“人生 100 年丸”という船に乗り込んだ。いま出航を迎えた初代でございます。初代でございますから海図はない。海の図もない。パイロットも未経験。経験しながらジグザグ、ジグザグやっていくのです。その中で、人口の多いわれわれシニアが主人公にならなかったら日本は滅びます。伊能忠敬ではないけれど、世界はかたずを飲んで、われわれが世界で初めて超高齢化社会の海図をつくるのを、いまや遅しと見守っております。

その意味で私達は“日本丸”と申し上げましたけれど“世界丸”の共同乗組員でございます。長生きするのは難しい。こんな難しい時期はない。だって、昔は“命短く、変化は遅し”だったのです。こういう時期は、親のやった通りやっていたらいいわけです。今は“命は長く、変化は速し”です。でありますからして、この変化は速しで、情報の入れ替えと、情報の積み増しというのが、人生 100 年社会は常に必要だというのが長生きすることの難しさなのであります。

今日、ここにいらっしゃるシニアは、まさに、インターネットやパソコン、そうした方面におきましてのエキスパートといってもよろしいでしょう。70 にして、私もパソコンにつかまりました。

やっていることは、お気に入りのサイトからデータを引っ張り出すことと、何はともあれ海外との交流というのは、これ以外にありません。しかし、インターネットの識字率、リテラシーは 70 を超えるとぐっと低くなります。

私はいま、何でも 3 つの「C」だと言っています。“チェンジ・チャンス・チャレンジ”これが、まさに「チェンジの時代をチャンスと受け止めて、チャレンジしよう」。これは、私がいつているのではなくて、1994 年のカイロで開催された国際人口開発会議の

中の文章にあるのです。私が勝手にとってきて、頭文字をとると「CHA」ですから、“高齢社会の構築はチャッ、チャッ、チャッ、のリズムにのっていこう”と言っています。

私が今一番悩んでいるのは介護保険の情報公開です。高齢者の介護ため、介護保険の制度の中には嫌というほどパソコン入っています。しかし、それはあくまで供給者側の道具でしかありません。そうではなくて、利用者側がアクセスできなければ意味がないのでございます。しかし本当に介護の必要な人々の多くはパソコンが使えないというのが現状です。

ここで皆様の出番です。お役に立つのです。介護サービスの情報公表制度において、地域のテクノロジー、テクノローバには ICT 通訳になっていただきたい。あるいはケアマネージャーにそういう教育をしっかりとするなど、利用者側がどのような介護サービスを受けられるかという情報を何とか引き出せるようにしていただきたいのです。このような活動こそ皆様の「出番」であり、社会の「お役に立つ」ということになるのではないのでしょうか。

シニアこそ志高く夢を持ち、新しい生き方のモデルを、後に続く若者たちに指示そうではありませんか。それこそ、人生 100 時代における私たち「初代」としての役割でもあります。これから皆さま方のご活躍を心から期待いたします。ありがとうございました。

ITの進歩はシニアとシニアネットの活劇的に変える

— 地域や社会を変えるパソコン教室を作ろう —

オフィス創庵 代表取締役

佐々木 博

今日はいつになく興奮しています。昨日はまるで遠足の前日の子供のように今日はあれを話したいこれを話したいと頭の中を巡らせていました。日本全国からシニアネットの代表の方が集まる貴重な一日ですので、なるべく一つでも多くのメッセージをお伝えしたいと思っています。

シニアネットフォーラムも今年で13年目とお伺いしました。僕自身も12年間番組でお話してきたのですが、私にとっても、皆さんにとっても今年は節目の一年になる。という話をしたいと思っています。いい意味でインターネットやパソコンの世界もすごく大きな変わり目に来ていて、それは僕自身にとってもよい転機とも思っています。若干難しめになるかも知れませんが、皆さん自身の「いま」や「これから」を想像しながら、耳を傾けていただければ幸いです。

僕のこうした講演には大きく分けて2つのパターンあります。ひとつはパソコンやインターネットに興味がない方々の前で、コンピューターやインターネットの可能性やその楽しさをお話させていただくものと、今日の皆さんのようにパソコンやインターネットが大好きな方々の前でお話すること。

特に今回は後者の、地域や学校でパソコンやインターネットの魅力を伝える同志のような方々の前でお話させていただけるので、とても話がしやすいです。

ただ今日は限りある時間ですので、今日ここで僕の話に興味を持っていただいて、もっと話を聞いてみたいと言う方がいらっしゃいましたら今年は皆さんの所に積極的に行こうと思っています。

5人であろうが6人であろうが行きます。これからパソコンやIT、シニアネットを含めてもっと

何とかしたいんだ！と真剣に考えている人がいたら人数に関係なくお話しにお伺いします。



まさに僕は2010年こういう年にしようかなと思っていた矢先にいちえさんの方からお話があり、非常にいい機会を頂いたなと思っています。

皆さんの支えあってこそこの番組

約12年前、HTMLと呼ばれるホームページを作る書式を紹介する「ホームページはむずかしくない」というのが最初に受け持った番組です。それこそまだまだパソコンやインターネットが一般的になっていませんでした。番組名は「ホームページはむずかしくない」でしたが、全国の方々から「難しいじゃないか！」とお叱りを頂きました。そりゃそうですよね、今でも難しいです。

ですが、パソコンやインターネットを使うことで、誰もが平等に、皆さんの声で世界に向けて発信できる。というものすごい時代が到来したんだということをお伝えしたかったのです。

ただ、正直心のどこかで「でも、HTMLを覚えたり、パソコンを操るのは難しいだろうな」と思っていたのは事実です。こうして12年書籍やテレビを通じてパソコンやインターネットの面白さを一人でも多くの人に気づいて貰いたいと思っ

てやってきたのですが、その裏でこうした限界も常に感じていました。

僕の番組を見て「あ、パソコン楽しそう～私もやってみたいわ」と日本全国の方が言うのですが、家に帰ってパソコン開いて僕のテキスト読んでもやっぱり分からない。テレビではわかった気になったのだけれど画面も違うし Windows のバージョンが違うとか、メーカーが違うとか、そんな理由で挫折してしまうのです。

これだけパソコンが複雑だと、番組や書籍だけではメッセージが届かないかなと思う中で、番組が終了した翌日にパソコンやインターネットの魅力をみなさんの教室や講座で地域の人にこの思いをとどけてくれるのではないかと期待もありました。

やはり身近な場所にパソコンを教えてくれる人がいるかないかは大きな違いです。

同時に、番組が終わった後に、多分明日は説明が大変だろうとか。もう少しわかりやすく出来なかったか？反省も多かったです。

勝手な想像ではありますが、そうやって皆さんが地元の初心者の方を支えてくださったのだと思うと、本当に感謝の気持ちで皆さんにお礼を言いたいと思います。そして、これからも一緒にやって行きたいと思います。皆さんのように地元で活躍されて、実際に地域の人たちがあっての僕だったと今日ここで確認したいなと思いました。

大きな変化を迎えたインターネット

先程もお話ししましたが 2010 年、実は今日、本当に良いタイミングなんです。この講演が去年だったら全然違ってきますし、もっと言えば 2 週間早くても今日の中身の半分ぐらい変わっています。それくらい運のよいタイミングです。

実は今日の講演の中身を昨晚考えました。これほどスピードが速く動いている時代ですので一番タイムリーな話をしたいなと思っていました。多分去年だったらパソコン楽しいですよ、頑張りましょうね、さようならで終わっちゃったかもしれません。

違うんです…。

2010 年という年は、インターネットが商業利用されるようになり、Windows 95 の発売がターニ

ングポイントになって、皆さん一般の人達がパソコン・インターネットを始めて 15 年。95 年に始まって 5 年後、2001 年位からブロードバンド化が始まり、街頭でモデムを配布していた Yahoo! BB とかが出てきたのが 2003 年ですね。昔はピーヒャラヒャラ、ジーと接続し、画像が少しずつ表示されるインターネットをご経験された方があるかと思います。それが、あっという間に高速大容量常時接続になり、動画とかテレビ電話、スカイプ (Skype) とかができるようになりました。

ただ日本の景気という点では、2000 年が IT 全盛期で IT バブルといわれ、インターネットのビジネスがぐっと伸びてサービスが増えたのですが、その年にアメリカで IT バブルがはじけて非常に不景気になってしまった。インターネットはそこでいったん盛り上がりをもたせ落としてしまったんですね。

それがまた 2005 年ぐらいから徐々に機運が高まりはじめて来たのですが、今日僕が特にお話したいのは 2005 年から 2010 年の 5 年間で、インターネットの世界は劇的な変化をしているということです。インターネットはここにきて大きな変化を迎えている、それをまず感じていただきたいなと思っています。

先にちょっとその言葉を言っておきますと、インターネットという時代からある意味、「ソーシャルメディア」と言われる時代へ変化をしている。

ここで皆さんも、15 年前、もしくは 10 年前、5 年前を振り返っていただいて、そもそも「インターネット」ってなんだっただろうということ、皆さんのお教室とかサロンとかでお話したいなと思うんです。

僕自身はインターネットというのは先ほど言ったように誰もが表現、発信できるメディア、つまり誰もが分け隔てなく発信できる「革命」だと思っています。ここに一番ワクワクしています。評論家とかお偉いさん、テレビの芸能人しか伝えられなかった時代から、みなさんが等身大で伝えることが出来る。同時にインターネットの世界では偉そうな言葉ではなく、むしろ皆さんの生活にある実感やリアリティ、ふだんの生活の中で得た気づきなどといった情報が求められているんです。

その意味では皆さん世代の人達ももっとも

発信すべきなんですね。この思いは今でも変わりません。誰もが発信できる社会って何なんだろう？というテーマは、これからも一緒に話をしていきたいお題ですし、もし皆さんの地域に行った時にも皆さんと一緒にそれについて確認したいと思っています。

もっと言えばチャンスなんです。皆さんのもっている豊富なコンテンツ、情報、経験、知識、歴史を、「今」しか残せない情報を未来に向けて発信するチャンスなんです。でも、なかなか残されていないのは、本当にもったいないことなんです。日本にとっても損失です。



今日、お話ししたいこと

先に結論を言っておきます。

今日集まりの皆さんはインターネット、パソコンが使い、基本的リテラシーを持っていらっしゃると思います。その皆さんの持っている技術で、みなさんの情報を一人でも多くの人に発信して下さい。一人でも多くの人に。

僕もこの仕事を続けてきて、とうとう40歳になってしまいました。ただ僕は戦争経験を知らないし、実を言うと僕がテレビ番組を12年やってきたのに、僕のおじいちゃんおばあちゃんは亡くなってしまい、パソコンを教えてあげられなかった。一番悔やんでいるのはここなんです。

もし自分の祖母がブログでもやって、日々どんな生活をしてどんなものを見ていたか。例えば散歩の道で写真を撮ってこんな写真撮ったんだとか、昔はこんなことあったんだよとか、もし聞けたらどんなに素敵だっただろうな～と思います。こんなに偉そうなことをたくさん話していても、一番身近な人に対してパソコンとかインターネットを教えられなかった。教えるというより、それを通

じてちゃんと何か受け取ってなかったと後で気づくんです。いつか教えようと、いつかスカイプやろうとか、いつかデジタルカメラ買ってあげようと思っていました。ただ、忙しいのを理由に年に一回ぐらいしか、田舎には帰らなかったんです。でも番組を通じて、日本全国いろいろな方の取材に行くともう80歳90歳の方がブログをしたり、ホームページ作ったりしている。自分の祖父祖母に投影して、そういう人生を送ってきた人達だったんだなって間接的に感じています。

個人的な実感ですが、やはりメッセージを受け取らなかった、ということは大きな損失だったと思っています。核家族を理由にする訳ではないんですが、やはりなかなか伝承されていかない。ぜひ皆さんも、今しか残せない皆さんの記憶を発信して、残して欲しいです。50年後100年後、曾孫のひひ孫の方に残して欲しいんです。あ、家の曾々爺ちゃんてこんなことをしていたんだ、こんなしゃべり方だったんだ、とわかるように。

今、デジタルカメラも動画機能も付いていますから、ポチッと押して、うちの糠味噌はこんなよ～とか、正月はこのお餅よとか、しゃべりながら撮ってもらえばいいんです。ボタン押すだけです。それを発信してくれたら僕らもそれを共有できますが、しなくてもいいです。せっかくコンピューターやインターネットを使える人が増えてきたのに、大事な情報や文化が消えていくのを指をくわえてみるだけでは辛いですね。この10年ぐらいで限界集落も400～500が無くなると話を聞きますが、10年でもものすごい損失があると思います。

今まではパソコン楽しいですよ、始めましょうの12年でした。でも2010年以降は、そういうことを訴えていきたいです。もっと言えば、皆さんお若い方が多いので、1人でも多くの人に今の記憶を書き留めたり残して行って欲しいんです。これは家族のためであり日本の社会のためでもあります。たぶん日本が弱くなっている理由のひとつは、僕は皆さんの知恵が生きていない社会、伝承されていない社会だからなんじゃないかなと思います。

ただ、多くの人が私には残すものがないし、そんな説教くさいことは言いたくないと言う人もい

ます。中には説教しちゃう人がいるかもしれませんが。でもどんな人でも必ず伝えられる言葉があり、響く言葉があるんです。皆さん謙遜しすぎているんです。自分のこと、自分の地域のこと、日本のこと、今思ったこと、あ、思い出したこれって大切よねって思ったことは、少しでも残しておいて下さい。それが簡単に共有できる社会になってきたんです。それこそがインターネットであり、ソーシャルメディア時代の幕開けです。

ここ3年の悩み

ここからはゆっくり、最近何がインターネットの社会で起きているか、をお話ししたいと思います。僕は12年間の番組生活の中で40冊弱ぐらいの本を書いて監修してきました。一番最近出した本が、この2冊です。「マウスとキーボード」。今日これを持ってきたのは、売りたいんじゃないんです。末期的な症状だと言いたいのです。

12年もパソコン教えたなら小学校1年生が中学生です。なのに、僕はホームページの番組から始めて12年後にレベルが下がっちゃったんです。これはどういうことかをお話ししたいと思います。

皆さんもご経験があるかと思いますが、まだまだコンピューターは難しいです。今どき、この本を出しちゃいけないんです。でもこれを出したのには理由があります。

まだ世の中にはこれからパソコンやインターネット始めたいと言う人が多くいるということです。そのためには皆さんの活動が重要ですし、僕自身もその思いを持って基礎教育をずっとやって来ました。それでもテレビの業界も出版業界も今大変なんです。悩むんです。どういう物を作れば皆さんが手に取ってもらえるか、売れるかどうかということも気にしながらやらなければいけない。僕はこの本は最後にしようという気持ちでコンセプトを決めました。30~40冊近くやっていると、もうわからなくなってきてしまうんですね。デジタルカメラ、年賀状、家計簿、インターネット、ブログ、全部やりました。ありと思えるものは全部作ったんです。テレビも出版も。そして、ここに至ったんですね。

ここ3年ぐらいずっと悩んでました。この世界で何を伝えていけばいいんだろうと。

コンピューターが歩み寄ってきた！

ひとつ、ちょうど1週間ぐらい前、大きな出来事があった、僕はここで、無意識だった望む方向が確信に変わりました。皆さんもテレビでご覧になった方がいらっしゃると思いますが、米アップル (Apple) 社の出したアイパッド (iPad) という、 아이폰 (iPhone) が大きくなったようなものです。実はこの発表を僕は家で見ていたんですが、あ〜やっときた。と確信しました。1週間前は世界中だれも知らなかったものです。



これはいわゆるコンピューターです。詳しいことを今日はお話ししませんが、今手にしている 아이폰 ぐらい薄くて、バッテリーで10時間持つ機械です。例えば指で操作してホームページを見たり、メールが出来る、いろんなことができます。僕も実際 아이폰 を買ってからパソコンを使う時間がものすごく減りました。押した瞬間に立ちあがる、1秒でパソコンが使える、メールが読める、ホームページやグーグルマップが見られる、音楽もできるし、ゲームも出来る。

アイフォンは携帯電話なんですが、もう携帯電話の域を超えています。たとえば僕は音楽が好きですが、いろんな音楽のアプリケーションがあって、だいたい無料か100円、200円、高くても1000円、2000円。しかも1度買えばずっと使える。実はパソコンソフト業界を破壊しまくっています。いままでパソコンソフトが1万円くらいしたのが、100円とかで買ってしまうからこわいことなんです。

さておき、音楽ソフトがあるのでやってみましょう。ギターをこのアイフォンでやってみます。

<実演>

ロックミュージシャンみたいですね。携帯電話ですよ、これ。こういったことがあつという間に

できる。ご覧になってわかるように。

何を言いたいかというと、僕達も皆さんも 12 年間、こちらからコンピューターに歩み寄っていたんです。難しいコンピューターに頭を下げていたのですが、ちっともコンピューターの方からは僕らに歩み寄ってこなかったんですね。もっと簡単になって欲しかったんです。僕が伝えたいのはダブルクリックの速度でも C ドライブ D ドライブの話でもなく、その先にあるパソコンを使って何をするか、どんなコミュニケーションをするか、どんな表現をするか、インターネットで何を楽しむか。ここを教えたいがためにダブルクリックや C ドライブやマイピクチャ、Vista ではピクチャ、そんな話ばかりずっとやってきたんです。

iPad のようなこれからのパソコン (スマートフォン) には、右クリックもなければデスクトップという概念もありません。やっとこれを見た瞬間にコンピューターが僕たちの方に歩み寄ってくれた。僕が一番伝えたいインターネットやパソコンの世界を体現しはじめたと思ったのです。

今までマウスが使えなかったり、キーボードが出来なかったりしたのは、皆さんが悪い訳でもパソコンの先生の教え方が悪かった訳でもないんだと。端的に言えばコンピューターがずっと進化しなかったのです。難しかったのです。この点の痛みを皆さんと分かち合いたいんです。

僕はこの商品売りたいと言うものではありません。コンピューターがやっとこちらに歩んで来た、ということは私達が教えるべきは、マウスやキーボードではなく、その中で何をすべきかと言う話にシフトしなければいけない。それがこれからのパソコン教育のメインだということを感じて欲しいのです。技術教育ではなくコミュニケーション教育だったり人間教育だったりするのです。そこにやっと到達したんです。

もちろんこれからもコンピューターはなくなりません。右クリックも C ドライブもあります。それは並行して勉強しながらも、この準備もそろそろ始めましょう。大切なことは中身です。何をするかです、コンピューターを使って。

さて、このニュースの発表が 1 週間前です。発売は 4 月でまだ日本で発売の日程とか出ていませんが、値段も 5,6 万円くらいだそうです。これに

各社も刺激を受けて、今後 5 年 10 年でコンピューターのあり方が変わります。もうパソコンの前に座ってではなく、歩きながら、リビングのソファに座りながら、いろんなところでインターネットに接続でき、いろんな人とコミュニケーションが出来るようになる。そんな社会で皆さんはどんなことを仕掛けていくか。そんな未来について沢山の人と話したいんです。

ネットを通じて社会を見る、変える努力を

これに近い話ですが、アメリカではアマゾン (Amazon) というパソコンで本を買うサイトが最近、キンドル (Kindle) と呼ばれる電子ブックリーダーを販売しています。これを持っているとパソコンを使わなくても、電話回線や無線 LAN を通じて欲しい本を探してダウンロードして、この中で電子書籍を読めるものなんです。



たいていの方はこんなものでは読まない、紙はなくなるとは思わないかもしれません。確かになくならないでしょう。このタイトルも「本は死なないただデジタルになるだけだ」と言っています。実際、2009 年 5 月アマゾンでは全書籍の売り上げの 35% がデジタルだそうです。つまりこのブックリーダーでの販売が非常に伸びている。

もちろんこれは問題を多く含んでいます。それも考えていきましょう。結論はありません。

ちなみに、アメリカの人は年間平均 6~7 冊読むそうですが、このブックリーダーが出て、24.8 冊と 3 倍ほど読書量が増えたそうです。つまり、デジタル化はネガティブな話ではなく、それによって新しい市場が出て来たと言えます。

それから、ブックリーダーの普及は、今まで基本的に出版社でしか出せなかった出版物を、例えば印刷のコストを考えずにできる可能性がある。著者を増やすことも出来るわけです。

日本では、大きな問題をはらんでいるので、これは今年一番の議題になると思います。これが良い悪いでなくパソコンやインターネットによって既存産業が壊れたり、壊されたりする一つの例、もっと言えばインターネットの本質なんです。既得権益といった、言葉のいい方が悪いかもしれませんが、今まで楽をしていた産業が、楽が出来なくなったということですね。一部の人の利権がインターネットで解放された。つまりは皆さんにもチャンスがあるし広く変わってきているんです。

難しい議論をする必要はないんですが、でもインターネットでは著作権やプライバシーはどうなるんだろうとか、といったことも考えてみてください。最近では政治なんかでもツイッター議員といって、国会中継中に自分で情報発信したり、鳩山総理がツイッター始めたとか、ニュースになっていますが、法的にはどうなのでしょう。

インターネットによっていろんな問題が引き起こされたことは、悪いことばかりではなく膿が出始めているともいえます。つまりインターネットで引き起こされた「問題」は何なんだったのろう？と皆さんで考えてみてください。大きな問題でも、もしかしたらチャンスかもしれないし、よりいい方向に向かうきっかけかも知れない。インターネットを学ぶのではなくインターネットを通じて私たちが社会を見る。そしてそこから社会を変えようとするのが大事なんです。

ネットで可能になった個人テレビ局

二つめ、これも2日前のニュースです。ソフトバンクの孫さんが2月2日に18億も出資してアメリカのユーストリーム (Ustream) というライブ動画配信サイト会社に出資しました。筆頭株主になるだろうということですが、これは何でしょう。この不景気な世の中に景気のいい話です。18億も一つのウェブサービスにお金を払う孫さんもすごいと思います。日本の企業がアメリカの最大手の動画配信サイトに出資したということは、何なんだと言う世論も当然起きると思います。何なければこんなお金は払わない訳です。何かの大きなもののために孫さんという優秀な方が必要だと思って動いた、と。実は僕もユーストリームを使ってやっているのですが、何をやるものかとい

うと、今この場所で話していることを、瞬間的に遠くの人にテレビ局の様に生中継で配信できるサービスです。

これはすごいです。まず、無料です。パソコン1個とUSBカメラがあればいいんです。僕のこの番組お見せしましょうね。1台のパソコンの前に内蔵のカメラとマイクでやっています。



<実演>

放送局のようなことを、もう自分達でやってしまおうということです。難しいことはありません。ただパソコンの前でしゃべっているだけなんです。これを世界中の人がみることができる訳です。世間話でも地域の情報とかなんでもいいんですが、まず皆さんもこれを全国でやってほしいんです。ちょっとはテレビっぽいので緊張するかもしれませんが、こういう体験もこれからのインターネットの勉強であり、リテラシーと思ってください。

自分もITの勉強はずっとしてきたのですが、人前で表現するという勉強は誰かも教わらなかったのが、毎日が勉強です。特に今一番やっていることが自分の殻を破るという作業なんです。

このユーストリームについては、すごさを実感してもらうために少し実演します。実は今この講演を世界に向けて配信しています。インターネットで見られるんです。

<実演>

5人しか見ていませんね(笑)。ちょっと影響力ないですね。実は、インターネット中継でちょっとした面白いイベントだと1000人2000人来る。そうすると会場にたった5人しかいなくても、ネットで1000人2000人いるとそれだけでもさまざまな可能性が広がっていきます。世界が変わりますよ。それから、iPhoneなどのスマートフォンや携帯電話からも同じようにユーストリームで配信

できるようになります。携帯電話でどこでもテレビ局が出来ちゃうんですね。これも無料でできまし、技術はいらないんです。HTML もいない、高価なコンピューターとか、高い性能の機器を持っていないとテレビ局が出来ないと言うのでなくて、携帯電話 1 個でも出来るわけですね。

アイディアの時代

あとは、皆さんがここから何をやるかが大事なんです。今年は皆さんの生の情報をもっともっと広げやすくなる時代が来ます。もしかしたら海外の人が見たくなるようなものも出るかもしれません。ここからは皆さんのアイディアです。地方に何も無い、東京の人が来たくるような情報はない。違うんです。そこにしかない資源は、東京の人でなく、海外の人が見たいかもしれません。

もう「技術比べ」の時代から「知恵比べ」の時代です。今日、早速帰ってパソコン、インターネットでできることを一回整理して、この世界でできることは何か、皆さんの地元にあるコンピューターとか皆さんの持っているパソコンで何が出来るんだろうかを考えてみてください。そんなに多大な投資もいらぬし技術もいらぬ。アイディアです。皆さんが教えたりやるべきことは、勉強ではなく、楽しむこと。この世界になにを残すか発信するか？楽しむか？そこに集中でき、より等身大に多くの人に伝えることができる時代。これがまさに今日言わんとしている「ソーシャルメディア」の時代なんです。

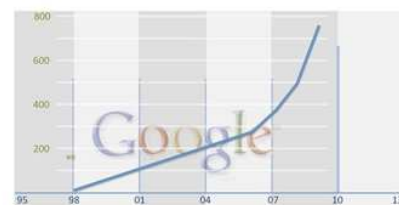
つまりインターネットが大容量の高速回線で写真や文字ばかりでなく、映像などで表現、発信できる。キーボードが苦手だったらしゃべればいいんです。家から昔のアルバムを引っ張り出してきて、アルバムの写真をかざしながら想い出話を語るだけでもいいんです。あ、おばあちゃんこんなことを考えていたんだ、顔出さなくていいんです。まあ配信じゃなくてもいいんですよ、デジタルカメラを置いて、アルバムを開いてブツブツ喋るだけでもいいじゃないですか。それが大事なんです。

ソーシャルメディアで起きていること

いくつか、ソーシャルメディアで起きているこ

とをお話しします。1ヶ月 760 億回って何か？何だと思いませんか？実は、今グーグル (Google) と呼ばれている検索エンジンでひと月に検索されている用語は 760 億あるんです。大きすぎてイメージわきませんが、実はこの数字、2006 年には 260 億回だったんです。その頃のセミナーでは、「260 億回も世界の人は何か疑問があるんです。聞きたいこと知りたいことが山ほどあるんです。すごいですね」と言っていたと思いますが、たった 3 年で急増しているということをイメージしてみてください。皆さんの情報のやりとり、インターネット活動がものすごく増えているんです。2001 年とか 98 年、グーグル (Google) とか検索エンジンが出来た前は皆さん誰に質問していたんでしょうね、こんなにいっぱい、つまり世の中の人を知りたいことがある訳です。と同時にもう一つ言えることは、調べてもちゃんと答えが出てくるようになったということです。昔は調べても当時のインターネットだとあまりいい情報が出てこなかった。

Googleの検索総数



世界で一ヶ月に検索されるクエリの総数 (260億回<06>) から (760億回<09>) に。
Googleが生まれる前は、誰に質問していたのだろう？

これは、どういうことだと思いますか？この検索エンジンの性能が良くなったということも一つなんです、大事なことは発信する人が増えたということなんです。森羅万象ありとあらゆる情報をみなさんが発信しているから書籍に載っていない情報にもたどり着けるようになったということなんですよね。つまり利用者だけでなく発信者のあり方が変わったから検索エンジンも非常に有用になってきたといえます。

2010 年、1 ゼタバイト (zettabyte) って聞いたことありますか？これはアメリカのパークレイという大学の地球上の情報量を計算しているプロジェクトがあって、そこで算出した 2010 年に発生している全情報量、つまり私達がしゃべったり書いたり表現している全部の情報量です。

紀元前 3 万年前に洞窟画が登場し、そのうち紙が生まれて印刷機が出て、聖書の普及というのはある種の印刷技術の恩恵ですよ。50 年前からテレビが出てきて、電話が出て最近インターネット、ウェブが出てものすごい勢いで情報量が増えている。これは 1 ゼタバイトがどうのという話でなく、身の回りを見直して感じてみることです。数十年間、私たちの見てきた社会の中でももう飛躍的に伸びている感じはあります。ただ人類史上考えても、100 年 200 年前の緩やかな流れとは違ってものすごい勢いになっている。情報化社会って言いますが、すでに情報過剰化社会です。多すぎんです。



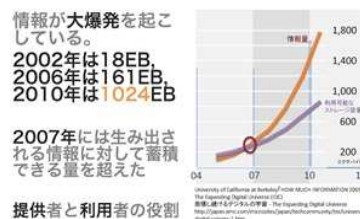
ちなみに 1 ゼタバイトというのは メガバイト、ギガバイト、テラバイト、1024 ギガバイトですね。それから、かわいらしいペタバイトそれにエクサバイト、その 1024 倍がゼタバイトです。ちなみに 2001 年から 2003 年に蓄積された情報量は、人類 30 万年かけてきた全情報量を超えたそうなんです。たった 2~3 年間で今までの歴史上すべての言葉や考え方、書物すべてを超えるぐらい情報流通量が増えている。異常な世界ともいえます。

これもあるリサーチですが、2007 年に今発信されている情報量をストレージ、つまり記録できる容量と発信されている量とを比較すると、分界点を超えてもう記録できないほどになっている。つまりはすべての情報をためようとしても、今の世の中ではためられないということなんです。

ちなみに、いろんなメディアが 5000 万人獲得するまでにかかった年数と言うのがあります。

5000 万人の視聴者を獲得するまで、ラジオは 38 年、テレビは 13 年かかったんです。インターネットって何年かかったと思いますか？・・・4 年です。

2010年に生成される情報量



あっという間に皆さんがインターネットを使い始めたということです。この速度が速いのも皆さんは多分お感じいただけていると思います。

ユーチューブの情報量

1 分間に 24 時間、なんだと思いますか。ユーチューブ (YouTube) という動画投稿サイトがありますよね。今、インターネットの世界で台風の目になっているのがユーチューブだと思います。ユーチューブ上にアップロードされている情報量が 1 分間で 24 時間分アップロードされているんです。僕らも人生かけてもすべて見きれません。1 分間に 24 時間ですからね。

あるリサーチですと、約 2 カ月のあいだにユーチューブ上に公開されている動画の量というのは、アメリカの三大テレビ局が、開局以来 24 時間休みなく配信したのと同じぐらいの情報量だそうです。ちなみに去年と一昨年とヤフーという検索サイトで最も検索された言葉は、この「ユーチューブ」という言葉です。つまりは、動画で見たい。昨日のニュースを、テレビをユーチューブで見たいとか、そういった活動が非常に増えている。これも同様に今のインターネットの大きなうねりです。

先ほどの話に戻しましょう。これも何を意味しているかということと皆さんが動画の情報をどんどん公開している時代だということなんです。テレビ局とか行政の人がやっているのではないんです。中にはグレーな話もありますが、ただ動画だと先ほどから何度も言いますように技術もいらない、ビデオカメラ繋いでアップロードボタンを押せばそれですということなんです。

簡単になっているから、これだけ情報量も増えているということなんです。一部の人ができない高度な技術だったらこんな風に発展しない

です。皆さんも結構見ていらっしゃると思います。

世界の人が見たい身の文情報

映像は、意外と言語も超えやすいんです。日本語でもいいんです。世界の人が見たい日本というのはテレビに出ている日本ではなく、皆さんの生活なんです。地方の生活でどんな花が咲いて、どんな服を着て、どんなことをしているかって、テレビに出ないですね。やっぱり事件とか芸能界のことしかテレビに出ません。でも僕らも、もしかしたらノルウェーやスウェーデンの高校生がどんなTシャツを着て、どんな学校に行って、スウェーデンにはランドセルがあるのだろうかとか、実は見たい情報というのはもっと身の丈なんです。

そんなもの出しても有名になれない、沢山の人が見ないんじゃないかと思われるかもしれませんが、いいじゃないですか。有名になったり権威をもつことだけがメディアの役割じゃないんです。本当に必要な人に届けばいいんです、無くなっていく技能があったとして、それを動画で残しておけば、興味を持った人がその町を訪ねてくるかもしれませんよね。

すでにそう言った活動をされている方も多いと思うんですが、パソコンやインターネットの社会が、今後こういう方向に行くのは間違いないですし、これができるようになってきたということを確認して、じゃあ何を発信しようかと、ぜひ帰ってからもう一回問い直して下さい。

僕のホームページにも載っているんですが、こんなものもあります。

<実演>

今、インターネット上でこの 10 秒間に何が起きているかということを実タイムに集計しているサイトがあります。

この10秒間で起きていること



僕のホームページなので、あとで興味があったらご覧ください。で、たった 10 秒間で先ほどの動画の話で 4 時間分です。たった 10 秒の間にグーグルでは 25 万回検索されています。たった 10 秒間で 125,000 件の動画が見られています。視聴率を考えたらすごいです。

それと、最近話題なのがツイッター。この 1 か月ぐらいでテレビでもよく取り上げられています。今年の元旦に鳩山総理がツイッター始めたということもそうですし、もう少し有名なのがやはりオバマ大統領がツイッターとかを使って選挙に勝った。この分析は非常に興味深いのですが、オバマさんはソーシャルメディアをちゃんと活用できたから、ある種たくさんの人に自分の主張を訴えかけられただけでなく、1 回もパーティーとかに出席せずに多くの選挙資金を獲得した。などエピソードが豊富です。

大事なことは技術じゃないということですね。ソーシャルメディアとかインターネットの人たちが今、何を見てどんなことに興味があるか、どうアプローチしたらたくさんの人たちとつながれるかということが、大事な IT リテラシーでありこれから皆さんが勉強していくべき課題なんです。

ツイッターで気軽にできる情報発信

実は、ツイッターというのは、サービスとしては簡単なんです。140 文字で書ける短歌の日記、俳句の日記、ブログみたいなものです。



でも、これだけ世界中の人、特に日本でこれだけ騒がれている理由って何かな、何が魅力で何が面白いかを積極的に議論してほしいんです。議論する時に最も大事なことは、本とか読むのではなくて、すべてにおいて言えますが、やってみることで。ユーチューブもユーストリームも全部 0 円です。投資もいりません。本とかで読んでわか

った気になっちゃいけないんです。

パソコン教育をされる皆さんの挑戦する好奇心が全ての源泉ですし、何よりも自分がやって面白くないと思えば、それは教える必要はないんです。でも面白いと思えばより沢山の人に教えますよね。アウトプットしたり表現したりすることが最大の学びです。だから僕は先生やっていて良かったなと思います。教えなきゃいけないから僕は必死に何が面白いのかを考えます。で、僕が面白くないと思うものはあんまりお話ししません。

言い方を変えれば、「なにが面白いのだろう？」という問いに挑戦することがパソコンを教える人にとって大事なスキルであり、センスです。

ぜひ挑戦してみてください。

たとえば、僕が「このホームページオススメですよ～みて下さい」と言いたい、伝えたいとします。普段のブログだと例えば、今日のシニアネットフォーラムのことは、文章を書いて写真を撮ってレイアウトしてリンクして、それだけで1時間ぐらいかかっちゃうわけです。すごく疲れちゃう。

ツイッターだと数秒で「今日、ニューメディア開発協会のこのイベントに参加します」で済みます。僕は今日やってきたんです、ツイッター。布団出てすぐ今日これから基調講演行ってきますと書いてきました。そうすると何千人か何百人かわかりませんが、それを見て、あ、どんな所に行くんだろうと。簡単ですね。影響力を言いたいのではありません。発信することは簡単ということなんです。

ブログが登場したことで飛躍的に表現が簡単になったんですが、それでも難しかった。ツイッターはここ 2～3 年のサービスなんですけど、パソコンが歩み寄ってきてくれたように、インターネットの世界ももっともっと簡単になってもっと気軽になってもっと身近になってきたんです。

ロコミで世界に広がる情報

例えば、この動画もそうです。このユーチューブの映像いいな、フィリピンの人が作った映像で、この映像すごくいい、見てもらいたいと言う時に簡単に自分のブログに埋め込むことが出来る訳ですね。それまでは、自分の動画を自分のホームページにアップロードすることはできても、他人の

動画を貼ることは出来ませんでした。

でも、ユーチューブがこれだけ非常に伸びているわかりやすい理由というのが、あ、この映像いいなと思ったら、すぐ自分のホームページやブログに貼り付けてみんなに紹介する、この動画一人でも多くの人に見てもらいたい。ロコミでみんな見て、みんな見て、と、その連鎖がふわっと広がるから、ちょっとした映像でもいい映像だというんな人が勝手に宣伝してくれるんですね。

表現・発信・伝達が容易に



ユーチューブも出てきたのがたった 4 年前の 2006 年なんですね、それ以前にはなかったんです。ご経験があるかも知れませんね、自分のホームページにクイックタイムやウィンドウズメディアビデオでアップロードして、重いのでプロバイダーからも容量ありませんよとか文句を言われてました。

これは無限です。一作品 10 分以内なら何時間なん本、何千本動画をあげたとしても誰からも文句を言われません。すでにいろんな映像を撮りためている人は、発表する場がどんどん増えてきてチャンスの時代です。

こうしてボタンリレーがしやすくなって情報量が増えているのですが、実は決して原情報が増えている訳ではないんです。複製される。つまり一つの情報をみんながコピーしていろんな人に配っている状況が起きているということも、今のインターネットの情報化が進んでいる理由ともいえます。それはデジタルのメリット・デメリットですね。

実現できる 15 年前にみた夢

まとめますね。ソーシャルメディアというのはある種、表現とか発信とか伝達が非常に容易になった。これは振り返ると 15 年前に私達が見た夢、

インターネットに思いをかけた未来です。企業もテレビ局も関係なく、個人が誰でも発信できる、平等に思いを伝えられる社会が来ると言うのはわくわくしました。それで HTML を勉強したり、デジタルカメラを買ったりしたんです。でも、やはりインターネットの社会もまだまだ一部の人しか出来なかった。だからこういう場やシニアのリーダーの方やIT教育の先生が必要だったんです。

でも、技術という意味ではもう先生はいらなくなります。自分で勉強すれば誰もができるようにやっとなったんです。僕は今、この2010年、興奮している理由はそこにあります。一部の人でなくみんなができると、逆に自分も教えている場合ではないんです。プレーヤーとしてこの世界を楽しみたいんです。自分で何かを表現したいし、自分で出来ることを考えたいんです。僕の持っている知識をもっといろんな人に与えたいし、そこから得られるものや得られる縁、それから出会い、もっともっと膨らませたい。できるんです。

また、教える教わるという関係ではなく、一緒に刺激しあったり、ノウハウを共有しながら、表現力や創造力を切磋琢磨していきたいのです。そういう仲間やコミュニティづくりがこれからのパソコン教育やシニアネットのあり方にも通じてくると思います。

ソーシャルメディア

表現 **発信** **伝達**

無料で (経済的)
簡単に (技術的)
気楽に (心理的)

なぜ、このソーシャルメディアが表現や発信や伝達を簡単にしてくれてきたかと言うと、3つあります。まずひとつは「無料」だということ。経済的な負担がかからない。だから皆さん使う。

ふたつ目は気楽なんです、心理的に。これはちょっと難しいかもしれませんが、インターネットの世界のコミュニティ(のわずらわしさ)というのもだいぶ変わりつつあります。何かを発信しようとしてもいろんな心理的な負担があったり、地域の目があったり、会社の目があったりします。

でもこうしたことも気にせず発信できる社会になりつつあります。

3つ目、最も今日伝えなかったことですが、簡単になった。特別な技術がいらなくなったということ。無料で簡単になっただけでも充分ですね。やっとなインターネットが機能し始めました。もちろんまだ過渡期なので完璧には言いませんが、できるようになった。

何をやるべきか

じゃあ、私たちは何をやるべきか。もしくはこのソーシャルメディアと呼ばれるインターネット社会で私たちはどういうことを学んでいってどういうことをしていけば、この世界でまた面白い場を作れるのだろうかということ。これは言いかえると3つあります。無料になったということの裏返し、ここは技術論ではないです。考え方です。

1つは皆さんがオープンに心を開くこと、ちょっと宗教的な言い方に聞こえるかもしれませんが、持っている情報とか自分が得てきた知識や経験とか、中には大学の先生とかはそれを自分の糧に生きてきたかもしれませんが、それを無料でお返しする番なんです。そんなことに意味があるのか？長い時間、自分が蓄積してきた情報をタダで公開するなんて...。でも無料で与える意味ってあるんです。なぜならば私達はインターネットを使うことによって、沢山の知恵をタダで手に入れています。恩返しをしましょう、これはパソコン教育やパソコンをやっている人たちの責務ですね。貰ってばかりじゃだめです。皆さんも発信する側になる、だから成り立つんです。でも大事なことは気持ちなんです。開くんです。もう惜しみなく、どんどん出しましょう。情報は出して減らないです。気付いたこと感じたことを出して下さい。

2つ目に、気楽になったということは、この世界は世代や性別、皆さんの肩書きとかは関係ありません。分け隔てなくという気持ちを持ってくださいということです。インターネットという社会は皆が情報を共有し成り立っている社会です。そこには偉いも偉くないもないんです。もしかしたら、子供さんが書いている日記に非常に大切なメッセージがあるかも知れませんが、皆さんもそうです。権威的にならないということです。ソーシ

ャルメディアの世界では、おれは偉いんだという心持ちではだめです。そういう気持ちをなくしてよりたくさんの人達とつながる楽しさを感じて下さい。

もうすでに楽しいんです。ツイッターなんかでもそうなんですよ。芸能界の方なんかも入ってきて、たまに僕が何かつぶやいたことを、あ、それいいねって・・・「それいいね」と5文字で返してくれるだけでどれだけ嬉しいか。あるとき、僕が学生時代に懂っていたミュージシャンの方が、僕のツイッターに一言返事を書いてくれたんです。指が震えました。あんな有名な人が僕のつぶやきに共感してくれた。子供のように嬉しかったですね。インターネットやってよかったな～って。

世の中が縦ではなく、横につながって助け合ったり共感しあう時代がきたんです。

それは、3つめの技術が「簡単」になることで、一部の人しか発信できなかった時代から、裾野が大きく広がったことにもつながります。

言い方を変えれば、技術力よりも表現力、そしてその根本となる、人としての生き方のようなものがよりソーシャルメディアの時代は重要になってきます。

その意味では、これまでに社会から注目されなかった人や場所。さまざまな才能や資源が注目されて、生み出される時代だと思えます。同時に、自分の中になる可能性についても自ら表現や発信することによって、再発見したり再評価される時代とも言えます。

未来の子供達に届けよう！

ソーシャルメディアを使って 地域そして個人の伝承を！

パソコンで 地域や日本を元気に！

とはいえ、あまり難しく考えずに、生活の中で何かを伝えたいという気持ちをタイムカプセルに埋めるように、50年後、100年後の誰かに届けとおもいながら、思いついたときに気軽に残したり発信してみてください。それが3つ目ですね。

簡単に共有できるんです、バトンリレーです、バケツリレーです。そうやって皆さんが共有して

いくという意識を持ってソーシャルメディアの中でどんどん活躍してほしいなと思います。

パソコン初めての日の気持ちで発信を

やはり、最後駆け足になってしまいましたが、最初にお伝えした通り、僕は本当にワクワクしています。この時代に立ち会えて、15年前のはじめてインターネットに出会った時の気持ちです。すごい時代が来るぞ、一人でもこの話が出来る人としゃべりたい、会いたい、場があれば出ていきたい、一人でも多くの人と何かできることをやりたい、残したい、お金がなきゃできない、そうじゃない、パソコンは最低限必要かもしれませんが、でも、それがあればできることがたくさんある。

人生、いつまでも生きている訳じゃなく、僕も明日交通事故にあうかもしれません。でもこうやって何か伝えてそれが何かの動きになるという実感があるからこそ、お話をしたいんです。皆さんもう一回元気を取り戻して、ワード、エクセルとかも大事ですが、でもこういう新しい動きを敏感に感じてください。

今までの経験は捨ててください。むしろそこが邪魔をする可能性もあります。皆さんがパソコンをやり始めた初めての日の気持ちを取り戻してください。多少失敗しても、非難されてもいいです。変なのと言われても、そんな動画誰も見ないとケチ付けられても、いいじゃないですか。でも発信してください。

そういった人たちが横につながって、皆さんが刺激し合ってライバルになってすごく楽しいシニアの新しい情報発信がここからうねりだして欲しいなと思います。今日、本当にお話しできてよかったです。これがスタート地点、ヨーイドンです。

もうぜひ皆さん、僕に連絡をください。地元の人により広く共有したい、行政や他の団体と活動をはじめたいという人がいたら、効果あるかわかりませんが直々に行って今やるべきだって訴えます。熱を持って一生懸命、皆さんの前でこの気持ちをお伝えしたいと思いますので、ぜひ日本全国の皆さんが盛り上がり、また次の10年、このシニアネットが残した情報すごかったね～といわれる時代を一緒に作りたいなと思います。長くなりましたが、これで終わりたいと思います。

パネルディスカッション

シニアネットはシニアの生きがい もっと楽しく、もっと豊かに

— 新たなシニア文化の創造と発信 —

■コーディネーター

佐々木 博 オフィス創庵 代表取締役

■パネリスト

秋元 竜 鳥取県企画部協働連携推進課

生部 圭助 NPO 法人自立化支援ネットワーク理事長

高橋 泰子 新陽パソコン倶楽部代表

奈良井 昌 シニアネットやまぐち代表

能田 幸生 NPO 法人トータル・サポート 21 理事長

1. 自己紹介

コーディネーター (佐々木博、以下敬称略) 実はこういう進行が1番苦手です。皆さんの活動をあまり詳しく知らないため、皆さんがどういったことをしているのか聞くのを楽しみにしています。最近のシニアネットがどんな活動で、どんな人た



ちが、どんな雰囲気の中でやっているのか、言葉だけでは分かりづらいので、何か用意して欲しいと、時間のないところ無謀な宿題を出させていただきました。前半は皆さんのプレゼンテーション、写真、動画などの紹介にあてます。

実は、まだ後ろのパソコンがうまく動いていません。コンピュータのイベントだと、こういうことがよくありますね。そこで、先に自己紹介を口頭でお願いします。僕は堅苦しいことが苦手なのでカジュアルにしていきたいので、皆さんも緊張せず普段通りお願いします。

秋元 鳥取県の秋元です。このたびは、マイクロソフトさんと鳥取県とで、一緒にシニアのIT活用をしていこうという話をいただき、1年間お付き合いさせていただきました。正直いって私はこの話をもらうまでは、シニアネットの存在すら知りませんでした。それを知って、昨年のフォーラムに参加しました。そこで皆さん凄いことをやっているのを知って驚きました。学生時代からパソコンをいじっている僕ができないことを皆さんバリバリにやっていて、やはり、知らないという事は損だなと思いました。



このような私の教訓から、活動を伝えるということの重要性を感じました。例えば、もし行政に公民館を借りたいとか、ちょっとお金を出して欲しいという要望があれば、「伝える相手」についてももう少し知っていただくといいと思っています。

生部 自立化支援ネットワークの生部です。活動の概要についてはお手元の資料で、IDNの活動

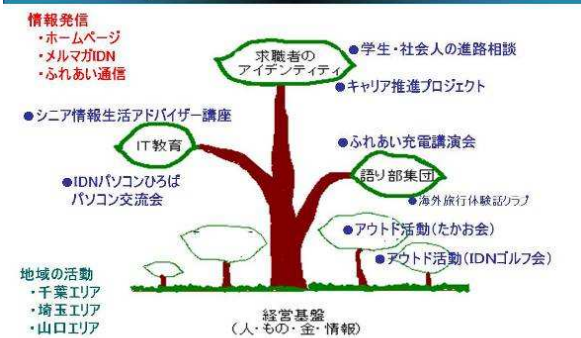
として紹介しています。

私共は2月28日に創立10周年を迎えるNPO



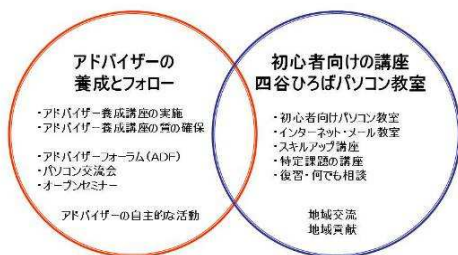
で、今度の土曜日に、70回目のアドバイザー講座の認定試験をやります。卒業者が274名、更新者は少なくなっています。

IDNの活動 IDNの樹



IDN-04

自立化支援ネットワークの活動内容の紹介



自立化支援ネットワークの活動の両輪 (ICT関連)

CS放送 朝日ニュースター「よみがえれこのボン」
【リンク先】 <http://rnpnet.sarn.in/tv/psn034.html>
Windows Media Player

IDN-07

現在、卒業生が四谷の小学校の跡地を使って初心者むけのパソコン教室をやっています。生き甲斐とまでいかないかもしれませんが、嬉々としてアドバイザーの皆さんが初心者に教えているという状況です。

先般、テレビ局から私どもに取材申し入れがあり、現場撮影をしていただきまして、CSで放送されました。そこで、最初のプレゼンでは「アドバイザー講座：アドバイザー、この方々が初心者

に教える」を見ていただきたいと思います。この番組作りには、私も協力いたしました。テレビというメディアが、私たちの活動を客観的に見ていると思いますので、まずこれをご覧いただきたいと思います。

高橋 新陽パソコン倶楽部の高橋です。私達は、地域のひと隅で「手作り」を楽しむ小さなグループでした。それがパソコンを通して、これまでとは違う楽しみ方を見つけた事が、今日こうした形でお招きを受ける事に繋がったのだと思います。

交流広場には、メンバーがWordで描いたイラストを、ドレスやセーターに転写した作品や、エクセルで描いたイラストを図案化し、編み込みをしたニットベストなどを展示しています。



ITとは一見かけ離れた作業のようですが、それが私達の思い描いた「楽しみづくり」でした。今日はそうしたパソコンの楽しみ方もある事を皆様にお伝えできればと思っています。よろしくお願ひします。

奈良井 山口県から来た「シニアネットやまぐち」の奈良井です。「シニアネットやまぐち」の内



容はビデオを皆で編集して作って来ました。何も言わなくてもわかると思ったので、特に自己紹介の言葉も用意していませんでした。

私自体はシニアネットのグループの中の、また

別の NPO 法人「たすけあいねっとわーく」というグループを持っています。それぞれの地域のグループが一緒になって「シニアネットやまぐち」を作っています。

山口県は明治維新を成し遂げた国で非常に皆プライドが高いです。高齢者でいろいろな会を作っても、わたしが大将ということになって、すぐ分裂します。たとえば「山口健康づくり協議会」とか作っても、次から次へと分かれていってしまう。そうすると県の高齢福祉部の人が健康のセミナーをやりたいと思っても、どこに参加申し込みを頼んだらいいのかわからないということになります。皆さん大将が好きなので、それぞれの地域に大将がいます。

「シニアネットやまぐち」というのは、楽しくパソコンを道具として使おうという人たちが地域にそれぞれいたので、我々がその発起人となって山口県内を回り、入らないかと誘ってまとめたものです。当初は、日本海側から瀬戸内海側まで 6 グループがあったのが、今は 4 グループに減りました。あとはビデオを見てもらえばわかると思います。

能田 「トータルサポート 21」の能田です。私共の NPO 法人は経済支援活動を主体にやっています。メンバーは企業の OB が主体です。この経



済支援活動を映像で紹介するのが難しいので、佐々木先生から宿題が出ていましたが、その辺りはこらえて欲しいです。

どうしてこのシニアアドバイザー養成事業に関わったかという、愛媛県が愛媛地域の IT リーダーを活用し、愛媛県下の情報リテラシーを高めようということで、NPO との共同事業で取り上げてもらいました。

その養成団体の 1 つとして、我々の活動の中の IT 支援部門がそれに取り組んで現在活動してい

ます。詳しい内容はあとのプレゼンテーションで紹介します。

2. プレゼンテーション

鳥取県企画部協働連携推進課

佐々木 各々の表現方法で全然かまいません。皆さんひと言ずつ、今日のテーマ「これからのシニアネットの課題」ということで、皆さんが抱えている日常的問題も紹介いただき、それを元に話をして行きたいと思います。順番で紹介いただきたいので、まず秋元さんから。

秋元 この 1 年間で 2 つの団体と活動してきました。1 つは鳥取西部のシニアネット米子という、すでにある組織と一緒にやりました。



実は、県庁がある鳥取にはシニアネットの組織がありませんで、企業から鳥取でも是非やって欲しいという話があり、頭をひねって団体を探し、シニアネットという組織ではありませんが、皆さんのように頑張っている団体と一緒にやってきました。その団体の方を見て欲しいと思います。



これはいちえ会の大林さんに来てもらったときの写真です。こういった会を、マイクロソフトさんの方から講師を呼んでいただいています。パソコンでは、ほとんど何もやっていない人が多いです。

次の写真は年賀状を作っています。



パソコン講座をやるときには必ずお茶会をします。



今回は、私たちがこういう活動をしてみたいとか、県がなぜこういう活動が必要だといった、思いがそもそもあったわけではありません。企業から「こういうことをしてみませんか？」というお話があつてのことでした。企業からお話をもらったときに、地域に非常にメリットがあると思ったので、やらせて欲しいということで一緒に活動しています。いろいろと活動して一番印象に残ったのは、このような皆さんの笑顔で、楽しそうにやっています。



「まだ次はないのか？」というパワーに押されて、また次をやるという繰り返りで1年が経ちました。そんな中で、自然と講師と生徒という構図ができてきました。そうなったときに一度私の方から「情報生活アドバイザーはいかがですか？」と言い、「先生」と呼んだら、「先生と呼ぶのは、

やめて」と言われました。皆さんの中では「先生」ではない。でも実態としては「先生と生徒」の形になっているのですが。そこで、そういう話をするのは一切諦めて、先生になる人にはそれとなく新しいコンテンツを出し、それを吸収して周りに教えられて、みんなで成長されていく。これが1年経った図です。



1年前はどうだったかという、これから見る映像は、一緒にやった企業さんが作ってくれました。なぜかこの方はシニア情報アドバイザーの資格を持っていて、その方から一生懸命ご紹介いただきました。

私もつらくと1年間撮り貯めたものを見直したのですが、やはり皆さんが一番最初にパソコン講座を受けたときの顔が一番素敵だったので、最後にこれを見ていただいて終わりにしようと思います。



こんな感じでやっています。いろいろと行政についてお聞きになりたいことがあれば、後ほどお聞きください。

自立化支援ネットワーク

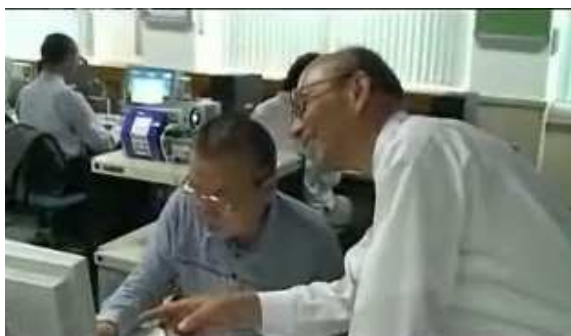
生部 自立化支援ネットワークです。アドバイザーが活躍している様子の映像を作るときに、いろいろな議論をしました。ここにお集まりの皆さんそれぞれアドバイザー養成講座をやっておられますので、ちゃんと紹介できる内容にできているかどうか、その辺も見ていただきたいと思います。

(以下、上映動画の内容)

★アナウンサー こちらは4月から名称が新たになった(財)JKAによる補助事業を皆さんにご紹介するコーナーです。馬場さん、今回は「シニアとIT」というのを皆さんにお伝えしたいのですが、番組では「シニアこそIT」というのをドンドン…。

★馬場 それは絶対必要だと思います。シニアにとって、ITはどうも使いにくいらしいです。シニアにうかがっているとちょっとわかりにくい部分もあるかもしれないと思います。マニュアルを読んでもよくわからないことが多い。実はマニュアルじゃなくて、手作りで教えられるというのがいいですね。アドバイザーがいたらどんなにありがたいかと思います。

★アナウンサー そういうアドバイザーを作っている団体があります。(財)ニューメディア開発協会という団体で経済産業省の管轄下にある公益法人。「シニアがシニアにITを教えることこそが、最もわかりやすいのではないか」ということで、資格制度を設けて普及をしています。VTRを見てください。こちらは四谷四丁目の四谷ひろば。元々小学校でしたが、再活用されて地域の方々の交流の場になっています。ここで初心者向けのパソコン教室が開かれるので覗いて見ましょう。電源の入れ方からインターネットの使い方まで教えてく



れます。この日の生徒の平均年齢は63歳。多くは孫や友達と気軽に電子メールを楽しみたいという思いで参加しています。ゆっくりしたペースで授業は進み、講師以外に数人のアドバイザーであるアシスタントがいます。

アドバイザーのポイントは、同じ質問を10回されても10回丁寧に答えるということ。アドバイザー自身も最初は初心者だったので、生徒の気持ちがよくわかるし、自分の得た知識を他の人に還元することでやりがいもあります。



★シニア情報アドバイザー 同じような年代の方にお役に立てることが、自分の励みにもなりますし、楽しい。後でパソコンの相談会を開いて、そこに来てもらって接するのも楽しいですよ。



★生徒 同じような年齢の方から教わる方が楽しいですし、安心で、心強くわかりやすい。年も年だから教室に通えたことが嬉しかったです。パソコンは私の世代では取りつきにくいので、講師が優しくてすごくよかったです。

★アナウンサー シニア情報アドバイザーになるためには様々な研修を経て、最終日には試験を受けます。この試験に合格しないとアドバイザーになる資格を得られません。今日はこのパソコンルームで試験が行われています。実技、筆記、アドバイザーになったらこんなことをしてみたいというプレゼンテーションの総合評価。こうしたアドバイザーへの講座、試験を実施しているのは、その地域でNPOとしてITの普及に努めている団体がニューメディア開発協会から請け負って、地域で活躍する方を養成し、ITの普及に努めています。全国でこういったNPO法人は現在110団体が活躍しています。受講生は年々増えていますが、悩みは尽きません。

★生徒 我々は講座を継続的にやって、今61回目(撮影日現在)、受講したい人はたくさんいるのですが、講座をやっていることを伝える方法が

うまく行っていないこともあって、少人数で開催することがあります。そのときには経費的に苦しくなります。しかし講座の質は落とさないように、メインの講師とアシスタントを必ず付けるようにしています。

★アナウンサー それは IT が広がればシニアにとっていいという風を感じられるから、意義があると感じられるからこそ、無理をしてでもやろうというのがあるのでしょうか？

★生部 そうですね。受講する人の話をうかがっていても、パソコンができるようになって生活の幅が広がり、近隣との交流の輪も広がっていくというメリットを聞いているので、それを受けとめて積極的に講座を開いています。アドバイザーの数を増やせば世の中よくなっていくと思っています。やっていくのは大変ですが、我慢ということもありますね。

★アナウンサー 志ある団体を支えているのが、アドバイザー制度を作っているニューメディア開発協会。担当の村岡さんに、シニアを囲む IT 事情の話をうかがいました。

★村岡 高齢者が情報リテラシーを向上させることで、生き甲斐につなげていただくとか、社会参加、社会貢献していただいて活力ある高齢者社会を作ろうというのが目的です。多くの人にパソコン、インターネットを身に付けて欲しい。そのためには高齢者に優しくわかるまでパソコンを教える人がいないと普及は難しい。そういうことでアドバイザー制度を立ち上げています。アドバイザーをたくさん作って多くの人に広めていくことが必要。

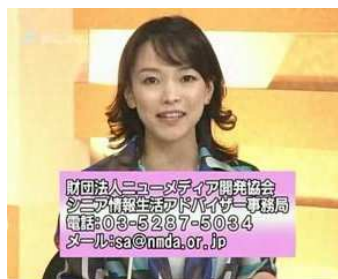
講座の開催に当たっては支払いが発生するので、受講人数が少ない場合には開きにくいですが、講座を受ける側からすれば一大決心をして申し込むということを知るので、養成団体の都合だけで講座を受けられなくなる事態は避けたいと思っています。高齢のやる気のある人の芽を摘まないということ、意志を尊重したい、是非アドバイザーになって欲しいです。

★アナウンサー アドバイザーが増え、IT に取り組むシニアが増えていけば、ボランティアとか、会社を起こす、趣味などいろいろな立場で自己実現することができます。アドバイザーの方の話で

は「社会参加を果たし、社会から支えられるのではなくて、自分が社会を支える側になれる」ということでした。



★馬場 僕はパソコンを教わったとき、講師に質問をしたいのだが、そんなことも知らないのかという顔をされた。そうするともう質問できなくなってしまった。だから今回いいなと思ったのは、どんなことを聞かれてもちゃんと答えてくれる、我慢強く教えてくれるというのがすごい。こういふことに JKA がお金を出すのは素晴らしい。どんどんアドバイザーを増やして欲しい。



★アナウンサー VTR を見て興味を持った方は、シニア情報生活アドバイザーの連絡先まで連絡して欲しい。アドバイザーになる人もそうなのだが、アドバイザーが教えている初心者教室は全国各地で開かれています。

(上映動画終了)

★生部 今はもう 70 回目の講座をやっています。私が思うことは、こういう放送を CS でなく、地上波のテレビでやってくれれば、全国でアドバイザー講座の受講者が増えると思います。そういう機会があるといいなと思っています。

新陽パソコン倶楽部

★高橋 私達は「シニアタイムを一緒に」というコンセプトのもとに、集まったグループです。その事をまずお伝えし、新陽紹介を進めたく思います。では、画面をご覧くださいませ。こちらが新陽パソコン倶楽部の活動拠点、新陽会館です。



地域住民の生活・文化・教養の向上を目的とし、3つの町内会が力を合わせて建てた会館です。札幌駅より北西に5kmほどの距離に位置し、近くには、北大・短大・高校・小学校があります。玄関前は町内会の皆様によって、季節ごとの花が飾られます。ですが今は冬。特に今年は大雪です。車を会館の前に止める場合は、ワイパーが窓ガラスに凍りつかないように、はね上げておきます。また、これだけ雪がふると、除雪の為にダンプカーが出動です。人の力では、とても無理。それではなければ、会館に集まる皆さんの駐車スペースを確保できません。大雪のこの日、宿題の動画作成の為、集まって下さったメンバーをYouTubeでご紹介。



赤い服の彼女は、三線が得意。その奥にいる眼鏡の彼は、北海道森づくりのスペシャリスト。お隣りの写真に鎮座ましますのは、会館の会長さん。その下、4人で何やら相談している写真の中には、三角山から富士山、キリマンジャロと、山登りの猛者が二人もおります。また学生時代は応援団長さんだったメンバーが後ろからそっと、パソコン画面を眺めていますね。新陽のパソコン繋がり、メンバーの皆様のような日頃の力強い活動から生みだされ、培われてきたものと言えましょう。

では、新陽パソコン倶楽部の活動をご紹介しますので、活動の柱は、シニアIT推進活動・



地域コミュニティ活動・社会貢献活動の3つです。今後の課題は2つ。キーワードは、安全とエンジョイです。では、それら個々の部分について、画面をみながらご説明申し上げます。

まず、最初の柱はパソコン教室や、アドバイザー養成講座が中心となるシニアIT推進活動です。昨年、新陽パソコン倶楽部設立時からのメンバーが、養成講座を受講され、そのご努力に胸打たれた事を思い出します。彼女の学童期は戦時中。ローマ字教育を受けた記憶がない。「ローマ字がわからないとパソコンは習得できないのか？」と自問自答しながら、新聞の折り込みチラシの裏を利用して、ローマ字の練習に励んだそう。その彼女が、「パソコン・お絵かき表現」という楽しみをみつけられ、さらに養成講座にチャレンジ。私は、地域におけるこうした広がりの中、新陽仲間からアドバイザーが誕生する事に大きな喜びを感じました。また、こうした仲間が主流となりシニアのIT推進活動を盛り上げてくれます。

2つ目は、地域コミュニティ活動。こちらは新陽メンバーがそれぞれの趣味を活かしながら、繰り広げる活動です。例えば1年に1度のワイン会や新ソバを楽しむ会。また、夏限定。真っ赤なミニトマトが自慢の週末農家や、その日・その時風任せの「三角山に登り隊」もコミュニティ活動に入るでしょう。

このコミュニティ活動ですが、北海道で活躍している人のお話しを伺う、knock-knockフォーラムが最初にありました。2002年より5回ほど続け、6回目より総務省の情報通信月間行事への参加活動に移行したのです。これを機に、アドバイザー養成講座を始めるようになりました。

柱の3番目となる、社会貢献活動は後にして、地域コミュニティ活動の中で育まれてきたオー



トシェイプ作品を紹介させていただきます。

オートシェイプ創造その1、イラスト転写です。市販の転写シートを利用し、Tシャツや帽子に転写しました。サマーセーターへのイラスト転写は、メーカーにお願いして、オリジナルの転写シートを作成してもらいました。そうそう、パソコン仲間のお船屋さんの暖簾も作ってしまいました。文字はワードアート利用で、サイズを最大限に拡大したものです。メンバーがそれぞれのパーツを受け持ち、出来栄に大喜びしたものです。



その2は、デコパーフェクト手法。パソコンの切り取り、貼り付けと似た手法で、暮らしのシーンにパソコンお絵描きを取り込むようになりました。ウズラの卵でイラデコネックレス。市販の木枠を利用したイラデコ時計。さらに、3D発想の壁掛けなど思いつくまま・気の向くままに楽しみました。

その3は、「Myデザイン」です。オートシェイプの曲線を駆使したデザイン画に、イラストを配置。これを原版として、服飾メーカーにプリント生地を発注。描いたイラストとデザインが立体へと変化しドキッ。

ハマナスの図柄をあしらった生地は、フラドレ



スとなり、夏の定番として今も愛用されているそう。試みは大成功。嬉しかった。

オートシェイプ創造その4は、描いたイラストに沿った形で創造服をイメージ。例えば、着古したセーターと、ダンスに眠る着物とを組み合わせたエコ服など、イラストから思いもよらぬ効果が生まれた事もありました。



でも、楽しんでばかりもいられません。課題は、ICT利活用による地域「安全」ネットの構築です。インターネットやパソコンの国内普及率が75%を超えた今、健やかに暮らすために「ICTで身の備え」をしておくことも必要です。新陽はこの課題に町内の皆様と手を携え取り組んでいこうと思っています。ですが、それだけでIT繋がりとはなりえない。そこで課題の2は「エンジョイ」。これからはICTをベースに、映画・音楽・写真など、コンテンツの充実と表現を楽しみたいと思います。冒頭の動画に挿入したBGMが、オフ会メンバーにより作曲されたのもその流れです。最後になりましたが、新陽メンバーが語る「風に色あり。そよ風になれば望外の喜び」を肝に銘じ、若い人々に少しでも希望の風を送る事ができるよう努力してゆきたく思います。ありがとうございます

ざいました。

シニアネットやまぐち

奈良井 「シニアネットやまぐち」です。ビデオを作りましたが、素人なので、内容がわかりづらいので、映像の前に少し解説をいたします。ビデオは「シニアネットやまぐち」の活動について、また所属団体についてと、ふたつに分かれています。

「シニアネットやまぐち」は、シニア情報生活アドバイザーの養成講座はもちろんのことですが、数ある活動例の中で、2006年に山口県の国民文化祭に参加したことを紹介します。

国民文化祭とは、国体の文化祭版のようなもので、各県が持ち回りで担当し、1年に1回文化の総合祭典が開かれます。その中で「シニアネットやまぐち」も協力し、山口県の文化に関することでクイズを50問作りインターネットで発信しました。



クイズ作成に当たり、「シニアネットやまぐち」のメンバーでそれぞれ問題を考え、50問作りしました。1問につき1スポンサーを募集して1万円ずつの出資を得、ネット上で企業の名称を入れてクイズを流しました。各地方の方からも応募をもらって、50問正解者には賞品を贈り、秋の国民文化祭の本番のときに山口県まで来てもらって、クイズのチャンピオンを決めるという企画です。山口県内の4つの会場を、NTTにも協力してもらいネットでつなぎ、映像を実際に映しながら同じクイズを各会場で行いました。その内容もビデオに載せています。それ以外に各団体の紹介もしています。

私の所属する「たすけあいねっとわーく」では、今家庭の生ゴミのリサイクルに取り組んでおり、

その内容を載せています。

「シニアネット光」は光市と協力して生涯学習をやっています。もう1つは周南市老人クラブの新南陽にある支部ですが、全国の老人クラブの会員減少の中、会員数が飛躍的に増えています。なぜ増えたかという解説がビデオに載っています。全国の中で唯一会員数が増えた老人クラブということで表彰されています。

それぞれの内容をビデオとパワーポイントを合わせて解説していますので、声が聞きにくいところがありますが、見てください。(以下動画)

★解説者 シニアネットやまぐちの特徴。少子高齢化がますます進展する中で、シニアが生涯現役で生き生きと過ごせるよう、自ら培ってきた技術や人生経験を地域社会に役立てることが期待されています。一方高度情報化が進む中で、ITを活用した情報提供や、活動参加の機会提供が必要となって来ています。このため、県内各地のIT活用グループと連携し、シニアグループの活用支援や、グループの交互の連携強化を図るために、シニアネットやまぐちが設立されました。



★解説者 第22回、国民文化祭やまぐち2006、きらめき公募事業、エンジョイ、山口の文化クイズで丸かじり、byマルチメディア開幕です。

★解説者 こちらは段ボール箱を活用して、生ゴミを肥料に変える取り組み。光市で段ボールを使った堆肥作りのモニター制度が始まりました。

こちらは説明会の会場、たくさんの方が来られています。ほとんどの方は女性ですが、男性の姿もあります。段ボールコンポスト。

市民に実際にやってもらうモニター制度は、ゴミ減量の一環として光市が始めた取り組み。説明

会には公募で選ばれた市民モニター約 100 人が集まりました。



★モニター 環境問題に興味を持ったから。家庭菜園をやっているの、それに合わせてどういう風にやるのか聞いてみたいと思ったので。



★解説者 県内で家庭ゴミ処理に使われる経費は年間 150 億円、1 人 1 万円無駄にしている計算。生ゴミを加熱するのにかなり重油を使う。燃えるゴミの 60% が生ゴミ、それを肥料にして土に返すことでゴミの量を減らそうというもの。参加者には段ボールに入ったキットを配布。中にはピートモス、靱殻くん炭、温度計が入っています。作り方は簡単、ガムテープで補強した段ボールにピートモスとくん炭を入れてよく混ぜる。虫よけのため T シャツなどで箱を覆う。この中に生ごみを入れて混ぜ込むと、細菌が分解を始める。三ヶ月間、毎日生ゴミを投入できる。1 ヶ月程熟成させれば肥料となる。モニターは生ゴミの内容等の記録を提出する。その結果を元に生ゴミの堆肥化マニュアルが作られ、ゴミの減量計画に活用される。

★解説者 私たちは生ゴミリサイクルを推進している。NPO 法人「たすけあいねっとわーく」は生ゴミを有機肥料に変えています。県内ですでに広がっています。生ゴミを資源活用しよう、詳し

くは「たすけあいねっとわーく」まで。

★解説者 この講座は、市民が中心になって地域活動を行うことで、地域との関わりを深めていこうと開かれたもの、今回で 3 回目。この日は光市内でボランティア活動を行っている団体や個人など約 50 人が集まった。初めに主催者の NPO 法人「シニアネット光」代表理事の福森氏が挨拶。続いて地域デビュー 5 箇条「できることより、したいこと」をテーマに、宇都宮大学、生涯学習教育研究センター教授の広瀬氏の講演。



★字幕 参加した子供達には紙芝居を上演したり、パソコン相談会、マンツーマンでの対応。老人クラブ。会員減少には魅力度アップが大切。情報、連絡の徹底。会長研修会、ふれあい手振り大会、親睦旅行、パソコン学習会。「シニアネットやまぐち」の今後。アドバイザーの養成、地域貢献、行政との協働。(動画終了)

奈良井 これで終わりです。早速の反省。大きな会場だから大きな映像で解像度を上げましたが、重たすぎて CPU が負担で止まってしまいました。今度は少し小さめの画像で。ありがとうございました。

トータル・サポート 21

能田 今回は、松山からスカイプで結んで、松山からの話をここで見てもらうということを計画していたのですが、確定申告の時期のため担当がいなくなってしまったので、今日はこのままの形でプレゼンテーションをやらせていただきます。

NPO 活動で生涯現役というテーマで、自己紹介を兼ねて説明をしたいと思います。自分は神戸で生まれて、薬品製造会社に入り 40 数年間会社生活。定年で退職後の 1 年間は、大いに遊ぼうと、テニス、旅行、美術鑑賞に没頭しましたが、これ

だけでは駄目とむなしさを感じました。趣味のために生きることは個人の中のもので、社会活動の価値創造が低いことに気づいたからです。そこで私たちは会社人生活で得た知識財産を現在活動中の社会に活かすことができれば、社会への恩返しになると思い、それが NPO 法人を設立した原動力です。



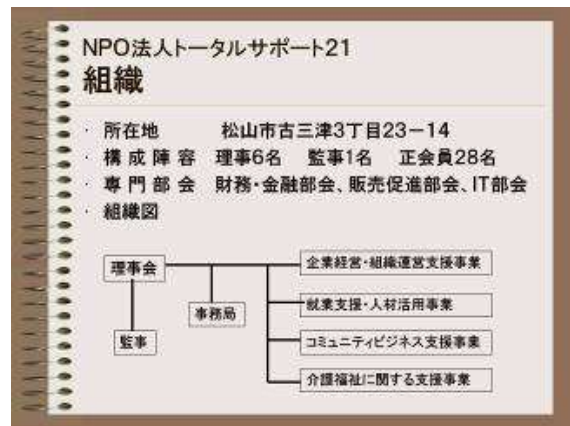
2003 年 4 月中小企業経営サポート事業に参加し、中小企業の実態に触れ、企業卒業生が持つ知的財産活用の可能性に気づきました。経営サポート事業は 6 ヶ月で終了しましたが、継続の必要性を感じました。そこでボランティア志向で、企業卒業生で、知的財産で社会貢献したい仲間を集め、2003 年 11 月に NPO 法人トータルサポート 21 を立ち上げ、現在 28 名の仲間と活動しています。

トータルサポート 21 は経営支援を主体とする NPO。経営支援については、多くの経営コンサル初め、商工団体が支援活動をやっています。昨今は中小企業基盤整備機構や、新現役チャレンジ事業に見られるように、少しは活用しやすい組織も拡充されていますが、本当に支援を必要としている零細企業、個人経営者への支援は、まだまだ十分な助けがないのが現状です。そこで私たちが生き甲斐を感じて活動する場ということで、このように企業支援の法人を運営しています。

我々の基本理念は、豊富な職業経験を保持する者が集まり、行政、企業が埋めきれないサービスを側面からサポートして、独自の総合的な支援サービスを提供するということ。

組織は松山市に本拠を構え、理事 6 名、監事 1 名、正会員 28 名。専門部門は財政・金融部会、販促部会、IT 部会。組織としてそれぞれの企業形態なのですが、企業経営・組織運営を支援する事業、就業支援・人材活用を支援する事業、コミュニティビジネスの支援事業、介護福祉関係に関する

支援事業です。正会員の所属していた業種は金融機関支店長、デパートのバイヤー、自動車販売業ディーラーの社長、商社マン、製造業、ホテル業など。出身母体が様々なので、自由な発想ができる仲間が集まっています。保有資格は税理士、社労士、中小企業診断士、情報管理士、販売士、アドバイザー、デザイナー、カウンセラー、介護福祉士など。非常に専門性の高い能力の持ち主の集まりなので、種々の問題に対して適切なワンストップの処理が可能な NPO です。



運営方針は、明確なミッションを持って、継続的な事業展開を図る。特定の経営資源に依存せず、財政面で自立するという一方で、会員の会費、支援した活動から得た収益で運営、紐付きではありません。

事業計画、予算の意思決定において、自主性を堅持。事業報告、会計報告も積極的に公開。組織が市民に開かれ、その支持と参加を求めています。最低限の事務局体制。新しい仕組みや社会的価値を生み出すメッセージの発信に努めています。

事業の実施事例は、経理・財務に関する支援、補助金・助成金活用の申請支援、経営革新計画の申請支援、後継者育成に関する支援、工程改善に関する支援、廃業に関わる申請関係手続きの支援。廃業の部分に関する支援は、一般経済界からは全く野放しの状態です。企業を精算するに当たっては、企業人として今後も社会に顔向けができるような状態にしてあげることが大切だと考えています。

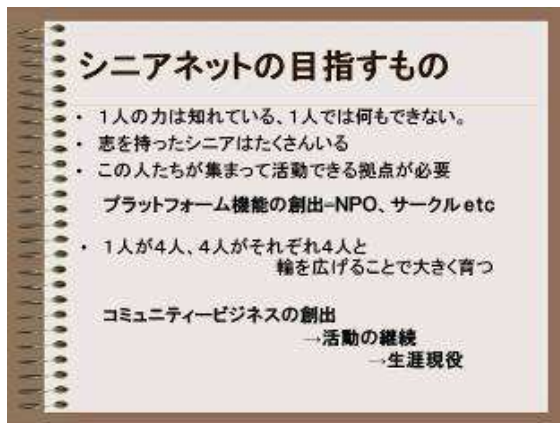
それから情報化推進に関する支援、企業内の情報化推進の支援を進める上で、パソコン活用に関わっている方々の矛盾点が明らかになってきました。パソコンは使っているけれど、基本のオフィ

ス活用を知らない、基礎活用を十分に理解していない方が多数いることが明確になりました。やはり従業員教育の一環として考える必要を認識しています。

それから企業運営・活動に関する支援、従業員教育に関する支援。これらの中から、IT 関連に関わった経緯について述べ見たいと思います。

IT 専門部会のテーマとして、愛媛県が NPO との共同事業を手がけた、えひめ地域 IT リーダー養成に参画し、シニア情報生活アドバイザー養成団体となりました。2004 年から昨年までに 71 名の認定アドバイザーを養成しました。今年度 8 名の認定試験を終えました。

また、養成したシニア情報生活アドバイザーの活動拠点の改革にも積極的に取り組んでいます。シニア情報生活アドバイザーの養成活動。就業者、求職者やシニアに対するオフィスの基本活用講習会。ここではワード、エクセル、メール、インターネットの辺りを主体にした講習会を開いています。3 番目に、シニア情報生活アドバイザーの活動拠点の創出。現在は各地のシルバー人材センター内、商工会議所、法人会事務所、公民館などで IT 講習を実施しています。シニア情報アドバイザーへの研修活動やイベント活動により、集団で楽しめる講習会の運営などをやっています。



シニアネットの目指すものは、「1 人の力は知れている、1 人では何もできない。」「志を持ったシニアはたくさんいる」「この人たちが集まって活動できる拠点が必要」だと考えます。プラットフォーム機能を作り出すことを担うのは NPO やサークルが当たるべきだと考えます。人数の輪を広げることで大きく育つ。そして、コミュニティビジネスを創出し、活動の継続し、生涯現役で「もっ

と楽しく、もっと豊かに」を目指す。こういうところに関わって行けたらと思っています。

「パソコン社会は人間関係の希薄化を助長する傾向にある。これからは人間関係を作り出せる場作りが緊急の課題。「このためにキーワードは？」これを今回皆さま方と一緒に考えて行きたい。

3. シニアネットの課題と展望

自治体をどう活用すればよいのか

佐々木 ありがとうございます。5 組 5 色の表現方法をしていただきました。同じような活動をしていると思っていますが、いろいろな視点の方からのお話があり、いろいろな立場から議論をするにはいいバランスと思いました。残り時間は課題と展望ということでやって行きましょう。

5 組の方々の話を初めて聞き、世間一般から見たらパソコン教室の先生達と思われがちですが、今日のような話を聞く機会是一般の人にはほとんどありません。

コミュニティビジネスや起業支援という IT 利活用をしていたり、地域のコミュニティとしてパソコンの教習をしていたり、自治体という視点からも IT に取り組んでいる方もいらっしゃる。大きく 1 つの問題は、そういう活動が一般の人に伝わらないことだと感じました。伝える方法をどうするかというのが、これからの課題と思います。これからどうやって皆さんの活動を、より広く、人に伝えていけるのか、その方法、アイデアを考えて行きたい。1 つ目はそれです。

2 つ目はインターネットの世界はわかりやすい教科書があります。インターネットの先生がよく使う言葉で、自律分散協調という言葉です。インターネットの社会は自律分散協調の社会だと言われる。それぞれが自律していて、各地に分散しているのですが、それが協力し合いながらインターネットは成り立っているという、ある種の概念です。皆さん、たくさんいらっしゃる中で、横のつながりはどうなのでしょう？

横のつながり、いろいろな地域とシニアネットの方々同士がつながる活動は今まであったのか？これからそういう展望の中で助け合える仕組みは

今どうなっているのか？というのをうかがってみたい。そういうことがあるべきなのかどうかということですね。

3 つ目に、事業的な持続性を考えたときに、シニア情報生活アドバイザーの活躍の場は、パソコンの先生なのか、その先に何かあるのか？10年前だとパソコンはブームでしたが、これからの社会ではパソコン教室の先生を超えたものが必要なのではないのでしょうか。アドバイザーの活躍の場を地域でどう作っていくべきなのか、どういう風に地域の人たちと連携すればよいのかをうかがいたい。残り 30 分くらいなので、たくさん話はできませんが。

最初に、ですね、自治体の方から、NPO 活動をしたり、パソコンシニアネット活動をされている方が、地域の方や違う団体、自治体とどんな風にもうまく活用していけばいいのかというアドバイスを。自治体側から見たときに、もっと「こういった活動をサポートするやり方は、こんなものがあるよ」というような意見、アドバイスがあればいただきたい。秋元さん、お願いします。

秋元 その前にちょっと質問です。皆さん、県でも市町村でもいいのですが、お金が欲しいという相談をしに行く時期を知っている方はいらっしゃいますか？ いい時期があるのですが、そんな時期は知らないという人がほとんどです。このことを伝えるということが1つです。これは行政の責任でもあります。行政は行政の仕組みややり方を民間に知らせていません。私は先週まで半分徹夜のような状態で予算を組んでいました。ということは今の時期に要請を持ってこられても、こちらに受ける余裕はないのです。それは、この4月からできないということです。来年の4月からの話しか今からではできないというのが基本。

そういう話を含めて、お互いがお互いをまだ知っていません。私たちの周りの人は知っていますが、私はシニアネットの存在自体を1年前は知らなかったのです。でも知ったら逆に「そういう団体があるんだ、それだったらこういうことがお願いできるかな」という発想になって行きます。そういう意味で、活用をどうしていくかという話もあるのですが、知らないという活用する選択肢の中にまず入ってこないということ、知っておいて欲

しいのです。これについて行政が悪いということなら行政を叩いていただければいいです（笑）。

それから、私共が「お金をください」「一緒にパソコン教室をやりましょう」という持ち込みの話をもらったらどうするかというと、インターネットで必ずその団体のことを調べます。そこである程度その団体の評価をします。私が調べた中で困ったのが、ホームページはあるのですが、住所や電話番号が載っていない。こうなると困ります。本当にその団体が作ったものかどうかわからないからです。

ホームページである程度の情報があると、その団体がある市町村に電話して、付き合ったことがあるかどうかを聞きます。そうやってある程度情報を得た上で、「是非、やりましょう」という電話をすることになります。そういう流れ、行政の流儀があります。それを変えろという言い方も1つですが。待っていたら寄ってくるのかもしれないが、時間がかかります。今やりたいことに対しては、ある程度シニアネットという団体の方から「こういうアプローチがありますよ」と。この水は天然水という面をそちら側に向けるか、こちら側に向けるかというお話です。

こちら側から「こうです」と提案をしてあげると、向こうはこれが天然水ということに気づきます。私たちからすると、皆さんと一緒にやりたいという気持ちはあるのです。ただ、皆さんを知らないという活用ができない。ですので、皆さんからドンドン情報を出して、行政の人が見たらどこを見るのか？ということを考えて情報を出して欲しい。それだけで行政との距離が近くなります。そこから先は行政によっても違いますが、まず知ってほしいのです。

私はこの1年でいろいろな団体を見て「本当にこんな団体なら」と思ったことがあります。企業との1年間の活動で1つの団体を育て上げるだけで精一杯でした。でもそんなことをしなくても、皆さんのような団体をお願いすればよかったです。そういった意味で、行政にも皆さんと一緒にやりたいというニーズは必ずあります。あとは内容次第だと思うので、まず行政にいろいろな形で知ってもらって欲しいというのが、行政の立場からのお話です。

団体は自治体をどう見ているのか

佐々木 連携のしやすさが大事。自分達がやっている活動を外から見たときにどうなっているのかという話です。昨今 IT 業界は、個人情報保護法を意識しすぎて、ホームページ上にあまりプライバシーのある情報を載せたくないというのは、逆にリテラシーが高くなればなるほど、そういうことを気にすることになります。

ただ逆手に取られると、すべてバーチャルの話、本当に存在するのかわからないような団体的なホームページになるのはもったいない。連絡、連携のしやすさ、ウェルカムな状態ということで、すぐにでも連絡が取れる表現の仕方が、最低限のホームページのあり方としてもう一度見直されるべきでしょう。

逆に団体の方から自治体にアプローチをして取り組みをした人はいるのでしょうか？団体側から見た自治体はどう映っているのでしょうか？

奈良井 私から見た自治体は、情報を持っているようで持っていない。たとえば我々の活動を県、市、町に説明にいくと「そんなことやってたの？」という反応が随分ありました。それでもめげずに何度も「これをやりましょう」という話を持って行くと、今度は向こうから話が一杯出て来る。でも行政は他の団体のことは知らないという状態。IT 活動以外でも、市民活動団体、市民グループの情報を、行政が正確に握っているのは未だかつて見たことがありません。

いろいろ付き合い出すと、予算の時期に、9 月頃に来年こうやりましょうという話を持って行けば、「考えておきましょう」となりますが。年度が替わったら、直に話がたって、その事業を協働でやろうという話になりますね。行政との付き合いが大事、自分のグループの活動を PR することは大事だと感じています。

秋元 その通りです。それ以上言うことはありません。

佐々木 自治体の方が秋元さんのような方ばかりならよいですが。中々 IT というだけで面倒臭いと言っている人は自治体に多い。むしろお荷物だ、IT 関連事業とか、上からは言われるが、自治体としてはやりたくないというのが本音という現実。

他にありますか、どうぞ。

能田 持って行く行き先を考えないと、相手にされない。最初にコンタクトする場所をきちんとサウンドしてからそこに適切な情報を持って行く。我々が考えていることに、行政がのっかってくるような話の仕方をしないと。窓口を間違えてうまくいかないことも往々にしてあります。

秋元 そうですね。窓口の話だと、私たちがやる時は、いくつかの部署をまとめて呼びます。そうしないと能田さんのお話のようになってしまうので。いくつかの部署に話をすると、大体行政は話を聞きながら横を見て、最後は「私が」という話になる。どこの部署がいいというのは正直外からではわからないと思います。

逆にそういう話をするときに、こういう部署とこういう部署。たとえば皆さんの活動を端的に言うと、IT をやっている情報系の部署、生涯学習の部署、長寿社会・介護保険をやっている部署の辺りと、私共のように団体支援をしている部署。その辺りに皆まとめて話すと、1 回で済む。そういう形を心がけるといいと思います。

佐々木 いろいろな部署にまとめて話すというのは、具体的にどういうふうなプロセスになりますか？

たとえば IT の NPO をやっている、これからパソコン教育をやって行きたい、地域の自治体に行こうといったときに、具体的にはどこが入口になりますか？ 市役所に入ったときに。

秋元 そうですね、最近だと NPO 支援、ボランティア支援といった活動をする部署を作っているところが多いと思います。あるいは NPO 活動支援センターを持っているところもあります。その辺りに最初に話を持って行く。逆にその人達もノウハウがないとしないから、こちらから「こういう部署が関係あるのではと思うが、話をさせてもらえないだろうか？」とまで言うと、集めてもらえると思います。

佐々木 シニアネットの中でも自治体とどう連携すべきか。情報を持っていないという前提の中でのアピール方法、資料の作り方、どの窓口からどう行くのかなど。

個々で頑張っていますが、横のつながりがなく、情報交流がない。全体的にはホームページの作り

方などは共有しているのですが。実際地域の中で活動を持続的にやっていくためにある、具体的なノウハウを、こういう場を通じてもっと交流するとよいと思います。

団体同士の交流について

佐々木 2つ目の質問です。横で団体同士の連絡を取り合ったり、情報共有をしている団体はありますか？ こういったところで出会って自発的に情報交換をしている方はいらっしゃいますか？ 今日、ここにたくさんの方が集まって来たので、こういう機会が1年に数回あって、これが大きなうねりになっていないのが不思議だと思います。

生部 昨年この会の事務局をしました。最後にまとめの挨拶をしました。シニアネットは節目にあって、次のステップを考えたいという動きがあります。昨年私が言ったのは、それぞれの団体はそれぞれにすごく頑張っているのですが、横につないで相対的にお互いにレベルアップしていこう、アピールしていこうというところがあまりみられません。

このオフ会、毎年地方と東京と2回やっているのですが、ここが顔合わせの唯一の場です。こういう場を踏まえて次のステージを考えるときに、その横のネットワークをどうするのか。たとえば今までの活動も、データベースがしっかりあるとか、各団体の活動状況がインターネットの世界で、より正確にたくさん、わかりやすく表現してもらえるかとか。シニアネットは100以上あり、それぞれのホームページはあります。そういうものを活用しながら、横のつながりをどうやって行くかというのは、これからの大きな課題だと思って、私も何か協力したいと思っています。

奈良井 お互いのいいところを認め合うのが最初だと思います。皆さんICTを活用して活動しているので、それぞれプライドもあり、技術もあり、誇りたいところはある。それはお互い認め合って、それ以外の活動で、ICTを利用して福祉方面、障害者支援をやっているなど、そう方面でいろいろなグループとして情報交換していくと、すごいなということになる。じゃあその情報をもう少し欲しいなど。事業型のNPOをしている方には「ど

うしてそんなに事業が取れるの？」と交流しながら教えてもらう。それぞれのグループの特徴があると思うので、その特徴を自分のグループに吸収したい、そのためにお互い交流していきたいというのが、お互いを補い合えるという精神なら交流が深まると思います。

佐々木 ここにいる人同士の連携は急務だと思います。せっかくITを使っているのに、メールでもスカイプでも何でもいいわけですね。今やることができるという意味では、障壁は技術的にはないはずですが、皆さん自身の気持ちが1つにならない限り、議論だけで終わってしまうのは問題。

今のお話をうかがっていて思ったのですが、つながりやすさというのは、それほどないのかもしれないですね。こういう皆さんの志が近い団体同士だけではなくて、たとえば地域の中の障害の団体とか、学童とか。皆さんの団体が地域の中でよく認知されれば、つながり方はいろいろあります。実際ITを教えて欲しい人は本当に多いです。シニアだけでなく、これから中小企業の小さな個人の方も、子供も大人も、ITを教わりたい、でも教わる場所がないといったときに、シニア情報生活アドバイザーの枠組みをもう少し大きく超えて、地域にとっても必要な団体になっていただければ、今度は地域内の連携ができるのではないのかな。

ただ、外から見ると、これはシニアの人同士のただのパソコン教室なんじゃないかと思われたら、もったいないかもしれない。皆さんとしてのアピール、シニア情報生活アドバイザーは一体どんな人たちなのかというのを、地域の人とかもっと遠くの人にも。テレビもそうかもしれない、いろいろな媒体を通じて個々の人が活躍していくと、「こんな人がうちの地域にもいるんだ」という意味では、連絡を試みよう。そのときにつながりやすい間口があれば、今度は自治体じゃなくてシニア情報生活アドバイザーに相談すると、うちの商店街のPRをやってくれるんじゃないかという可能性もあるかもしれない。シニア情報生活アドバイザーの目指す物は一体何なのか？ どういうふうに見られたらいいのか？ ということ。資格を得た人の活躍する場作りをどうしていったらいいのかというご意見をうかがいたい。

生部 活躍の場として四谷に教室を持っていま

す。2008年に始めたのですが、四谷地区で小学校の生徒が減ったせいで、1つの学校が空きました。活動の知らせ方、活躍する場の2つについてお話しします。我々は四谷に事務所があり、地域との交流があまりなかった。そういう問題意識を持ったときに、初心者に教える教室をやりたいと思って。NPOで担当者を決めて、その人は自分の住んでいる区にアプローチしたら、けんもほろろだった。いくつかやっていく中で、新宿区の教育委員会にアクセスしたら、空いている学校があって、地域住民に公開する場にしようとしていると紹介してくれました。私も行って、地域でパソコンを教える場があったらやりたいと言ったら、推進協議会というものがある、その仲間に入れてもらえました。そこではパソコン教室を開きたいが講師がいないで悩んでいました。

教室をやるといのは、場があって、装備があって、講師がいて、生徒がいるということ。この4つのことがトントン拍子でうまくいった。

270名を越すアドバイザーがいますが、教えませんかと声をかけたら、25名集まってグループができています。立ち上げ時には、教室を我々の目的に合った教室に置き換えるためのいろいろな作



業がありました。教室自体はアカデミーということでソフトなど縛りがかかっているものがありましたが、それはずして新しいものを入れるという大変な作業もありました。今はうまくいっています。

新宿区の区報に開催案内を載せてもらえるので、活動の知らせ方に大きな効果になっています。2年くらいするとリピート利用が出て来て、広がりが出ています。

佐々木 今、廃校が増えている。そういったものの利用は行政も求めているのか？ どのように

すればそういう場作りができるのか？

秋元 小中学校は市町村が持っています。場作りの場所としての活用としては喜ばれるのですが、どうしても文科省の補助金が入っているものなので、改装とか活用法などに制限があります。その辺は率直に市町村に聞くという課題が1つ。もう1つの課題は、地域にはいろいろなシニアネット以外の団体があるので、活用する協議会を作るなどして、そこに入ってみんなでどうやっていくかという話をしないと市町村としてもOKするのが難しい。逆にそういう形できちんと話をすれば、活用する小学校はいくらでもあると思います。

佐々木 場はあるのですが人材がいないというのは大きい。IT推進事業をやりたいけど、地域の人で教える人がいない。本当はあるのに知らないという状況がありますね。四谷の場合はトントン拍子に進んだわけですが、アプローチをかけたからであって、黙っていたら行政から連絡は来ない。皆さん、帰ったら積極的に地元市町村に働きかける必要がありますね。そういった情報も共有できたらいいですね。新宿区ではあそこが空くらしい、今ITを教える人を探しているみたいな情報は、意外とブラックボックスの中で、そこにたどり着

ける人は少ない。横のつながりがやはり必要。うちはこうやったとか、こういう提案が通ったとか、こういうふうに行っているということ。また、こういう経営系事業も最近増えてきているので、ある地域ですごく活性化した例があれば、他の地域でも同じ

ようなICTを使いたい。これも各地域縦割で知らない、知っていてもやりたがらないのかもしれませんが。本当は横の情報交換をすれば、すごく活用できる。事例共有をしてやるべきだと思います。

シニア情報生活アドバイザーの目指すもの 垣根を越えて

佐々木 高橋さんがスカイプを使って札幌と他地域をつなげて活動していますね。そういったつながり方の例として紹介してください。

高橋 風サロンメンバーが中心となり地域FM局で、番組の企画をしています。月に1度ですが、原稿書きにあたふたし、時間配分に一喜一憂。右往左往しながら、3年が過ぎたところです。

番組の特徴は生放送中に沖縄・松本・東京・札幌の四元中継を試みる「ボイスセッションコーナー」を設けている事。1月はいちえ会の大谷さんに、SNFのご案内をして頂きました。12月は松本から雪の記録と題して、各地域の降雪量の違いについてお話しを伺いました。日本の北から南から、互いの居住区が遠く離れてはいますが、スカイプ交流による横の繋がりを番組の中で実感しています。

そのほか、社会貢献活動として札幌市内の大学と連携をとりながら、ボランティアに励んでいます。昨年12月のXmasフェアトレードには新陽も参加し、バングラデシュ・札幌を繋ぐ、スカイプ交流をお手伝い。残念ながら双方の会場に難があったようで繋がりませんでした。同年の6月に新陽地域で開催したフォーラムでは、バングラデシュ・エクマツラと札幌・新陽会館がすっきりと繋がりました。その時の映像はYouTubeにアップ。

地域からの情報発信に目を見開きながら、緩やかな思いを込めて、私達はバングラの子供達への支援活動を始めた所です。小さな「つながり」を、「ゆっくり・ゆっくり」育ててゆきたいです。

佐々木 素敵ですね、地域を越えて、国を変えてできるんですね。東京にしようが地方にしようが、インターネットにはそういう可能性があります。ゆっくり、そこと交流を深めることで、できることが模索できる。スカイプ、地域のコミュニティFM。皆さんの地域にコミュニティFMかFMがあれば、それに積極的にアプローチして欲しいですね。インターネット教育は技術教育ではない、メディア教育です。

今あるメディアで、どうやって自分たちの活動や、社会資本と言う地域の中にある良いものを、どうやって他の地域にアプローチしていくか、こういうことができる術を持っている人が、パソコンやインターネットの技能者だと思っています。

皆さんの地域に眠っているものをアピールするというのは、今の話だとインターネットを超えて

地元のFM局にアプローチしたり、区報や市報を活用したり。やはり中心はホームページやYouTubeとかを使っています。今日、たったこれだけの人の中の話ですが、この内容はもっと世の中に知られてもいいと思います。僕も知らなかった。札幌の一NPOのシニアネットの方がそういう交流を始めている。こういう事例が、来年、再来年、会う度にいろいろなところから増えてきて、バングラデシュやハイチなどいろいろなところとつながっていることが共有できて、そういううねりがきつと、もう少し大きな目を見たときに、シニアネットの活動はいろいろやっているし、可能性はあるし、僕らにもできるのではと言えば、今度は学生、若い子も一緒にやりたいということになっていきますね。

5年後には、ここの半分が学生になって、垣根を超えてやれるようになればいいですね。

4. 質疑応答

佐々木 なにかここで、ご質問ご意見等がある方はいらっしゃいますか。

質問者 皆さんに質問です。今、パソコンは人に寄ってきたという話がありました。私はまだまだ難しいと思っています。もっと簡単に、もっと安くということで皆さんから情報を得たいと思います。これからますます高齢化社会になります。



たとえば私の母は80歳、神戸の施設に入っています。その母と連絡するのに電話ぐらいしかありません。私はスカイプを使いたいと思うのですが、80歳超えるとそれを覚えてもらうのは無理だと思います。そうすると、もっと簡単な機械がなぜできないのか、と。高齢者で初めてパソコンやる人でも、パソコンのスイッチを入れるだけで、

あとはものを言うだけでコミュニケーションが取れる機械はないのかと思います。

先ほどのiPhoneでもビデオ通信できますが、通信料がものすごく高い、フォーマでも10分で何千円。インターネットを「光」でつなぐとタダ同然なのに。それを利用するためにパソコンを使うのに、高齢者に教えられないし、向こうも覚えられない。じゃあもっと簡単な機械を知っていませんか、と。スイッチを入れたら遠くにいる人と話ができる機械をご存知の人がいたら教えて欲しい。なおかつ無料ならなお結構です。

佐々木 今の1つのポイントは、その人がインターネットの接続環境にあるかどうかということ。今の議論は3~5年後には解決されます。ただ、インターネットがないというのは2つの流れがあります。今もしインターネットがあったら、老人ホームとかで、こういったスカイプの中身が内蔵されている電話とか実際にあります。これぐらいの大きさで、コンピュータにつながないでインターネットに、無線LANが前提ですが、この中でスカイプフォンになる電話が売っています。どこだったか、後でホームページを見ようと思います。それだったら、パソコンがなくて何時間でも話せます。ただ、今はそれが音声通話だけ。

もう1つは、インターネットが施設にないという前提だと、携帯電話です。最近携帯とインターネットの接続性が良くなってきて、月額の設定額料でインターネット使い放題という形になります。

実はiPhoneにはスカイプがあり、スカイプ通話ができます。ただ、電話事業社さんが、携帯電話で何十時間もタダで話したら問題になるのですが、すでになし崩し的に入ってきています。そうするとその施設にインターネットがなくても、通話料でもものすごく請求されるテレビ電話というのは、この数年でなくなります。

これから注目して欲しいのは、携帯電話はコンピュータ化していくということ。とはいえ、来週からはまだ使えません。ただ、うまくやると、そういったことができ始めている。あとは国の行政機関の方達が、無線とか携帯通話の中で、そういうサービスを推進してくれるとよいと思います。

また具体的な情報はあとでHPを調べてご紹介します。パソコンも100円パソコンとか安くなっ

てきています。でもセットアップとかが必要で、電源だけですぐ使えるとはなっていないですね。来年にはその状況がもっと良くなってきているのではないかと思います。

質問者 私は都内でITを中心にしてNPOを立ち上げています。四谷の方が廃校利用でIT教室をやっているということでした。私共のところも小学校合併が続いており、その後利用という問題が出ています。ただ、それをやろうとすると、普通のパソコン教室は今成り立たない状態で、どんどんやめて行っている。そういう中で行政とそういうことをやると、民間の教室の方から「民業圧迫ではないか」という問題が起きてきます。四谷はうまくいったと思いますが、そういう壁が実際あります。

皆さんの話で参考になったのは、我々はIT中心ですが、ITだけでは駄目だと思いました。ITを活用して洋服の生地を作るとか、他の趣味に活用するとか、生ゴミ活用とか、他の部門も一緒になってやらないと、ITだけでは成り立たない、簡単には社会に溶け込めないと思いました。

生部 公的に教室を開くと民業圧迫というのは、四谷でやるときもかなり気にしました。教室の質の問題もありますし、受講料の決め方も相当気にしました。私どものNPOにはアドバイザーがたくさんいるので、いろいろな地域でパソコン教室をやっています。民間の教室や、生涯学習センターの教室でやっていたりします。市が主催の教室は無料でやっておりますので、時間単価をどうするか相当悩みました。そこと比べながら今やっています。今までは圧迫という声は聞こえていません。そういう現実が発生する恐れはありますが、気をつけてやっていけば、それなりにやる方法はあると思います。

秋元 民業圧迫ということなら「じゃあ、あなたがシニアに教えられますか？」と言えばいい。私が1年やって思うのは「同じことを10回聞かれても、ニコニコして10回教えます。これを実際あなたはできますか？」とはっきり言えば、8割方はできる人はいない。それぐらい、皆さんがやっている活動に誇りを持って欲しいです。

佐々木 続きは懇親会でお話しましょう。長い時間ありがとうございました。

男性も女性も、みんなが楽しむ 魅力あるシニアネットを目指して

■課題提供者

中島敬也 熊本シニアネット代表

■司会 渡辺昌彦 いちえ会

■書記 小口静江 田村明照 いちえ会

1. 趣旨説明

司会 今日はテーマが『男性も女性も、みんなが楽しむ魅力あるシニアネットを目指して』ということで、中島敬也さんに話題の提供を頂きます。熊本シニアネットでの活動と、どうやって活性化しているのかお話し頂き、そのあと皆様と討議に入りたいと思います。

2. 課題提供



創立 11 年目

中島 熊本シニアネットは今年で 11 年目に入ります。1999 年に 21 名で始め、去年はちょうど 10 周年にあたり、10 周年記念事業で「シニアネットフォーラム in 九州」を熊本で行いました。『シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、シニアパワーを集結してシニアネットの輪を広げよう』というテーマで行いました。おかげ様で北海道から沖縄まで 240 名の方が参加してくださいました。シニアネットの会員は、ほとんどの方が第一線を退職した方達ですが、それぞれが豊富な人生経験をお持ちですから何か役に立つことができないかと始まったわけです。

熊本シニアネットが目指すもの

「高齢者の孤独をなくし高齢者が ICT を活用していつまでも生き生きと楽しく暮らしてほしい」、「高齢者が充実した生活を送ることによって社会発展のために自立して参加型の情報社会を作ろう」、ということを目指してやってきました。最近では老人クラブも孤独死をなくそうとか、一人暮らしの人を見守りましようとかいろいろやっておりますね。私も今、老人クラブにも所属しておりますが、老人クラブではひとり暮らしや高齢者世帯を訪問する、友愛活動があります。シルバーヘルパーさんがいまして、訪問しているわけです。さらに情報社会に役立つように一人きりにならないようにしようということで、ICT を利用しながらやっているというのがシニアネットの活動です。

登録会員番号ですけれども、1,347 番になっています。だいたい 1 年に 100 名ぐらい増えていきます。1 年に 1 回、「新入会員歓迎交流会」をやります。そこで新入会員さんを紹介して、古い人達と一緒に交流を図ってもらうということでやっています。

さらに県内に 15 の支部、私達はサロンと呼んでいます。それを各養護老人ホームや公民館、学校などに作りまして皆さんに集まっています。そのサロンによって特徴がありデジカメ・山登りなど好きな人達がそれぞれ集まって来ます。その連絡方法はメールでやるわけです。1,340 人もどうして増えるかという、やはり楽しいからではないか、楽しくないと外出しませんね。

私もボランティアで南京玉すだれやマジックをやっていますが、自分が楽しいから続いているん

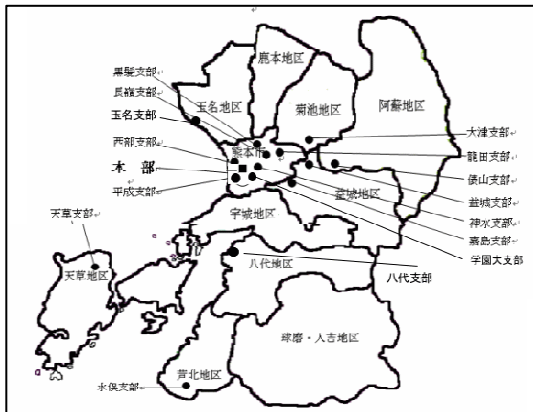
ですね。9年か10年続いています。そのような芸を持って養護老人ホームとか保育園とか小学校に行きます。自分も楽しみながら相手も楽しんでくれたらいいなということで長続きしていますので、やはりICTも自分が楽しくなければ続かないと思います。



あなたが先生、あなたが生徒

楽しむためには、インターネットがあるし電子メールがあるわけです。みんなが楽しんでやるのが一つのテーマでないかと思っています。私達の特徴は「あなたが先生、あなたが生徒」です。知っている人が知らない人に教える、お互いが先生であり生徒であるという関係が続いています。先生も生徒もサロンにいるわけですからサロンに行けば会えるわけです。

新しく入った人達のきっかけを聞いてみますと、「私は、メールはできないけれど、ゴルフはできそうだから入りました」ということで、まずゴルフクラブに入るんですね。で、ゴルフクラブに入ると毎月例会があり、どこで何時からやりますと



いうのはメールでくるわけです。それでメールを覚えるようになります。また、いろいろな事がホ

ームページに載っています。各サロンの行事も全部ホームページに載っているわけですから、ホームページを見るとということが大事になり、ICTに近づいてきます。ボランティアの仲間に「シニアネットがありますよ」ということを聞いて入ったり、ちょっとICTをかじっているんだけども

ICTの先生になりたいと、ITリーダー(シニア情報生活アドバイザー)を受けたいから入った人もいます。入会のきっかけは様々ですが、それがもう10年も続いています。では仕組みはどうなっているかということですが。

特徴は、歩いて行けるところにサロンがあるということ

です。今県下に15のサロンがあります。その場所は介護老人福祉施設・大学の構内・公民館・民間施設や個人の住宅といろいろです。例えば龍田・長嶺・平成・西部支部などは介護老人施設ですが、介護老人施設は建てる時に地域に開かれた施設であれば補助金がもらえます。割と借りやすく全部タダです。学園大支部、黒髪支部は大学の構内にあります。熊本学園大学も地域の自治会長さんと住民の人たちとの交流会を年に一回やっています。今度はICTを使って報告書の作り方を地域の皆さんに教えようということで許可になりました。大津支部・益城支部は公民館です。公民館はパソコンが98と古いので人が減っています。お客さんがVistaのパソコンを持ってくると全然



平成サロン例会…大型鮮明なスクリーン、和気藹々と楽しんで居ます



画面が違うということではなかなかはやらなかったのですが、最近は公民館も力を入れてきました。新しいVistaに全部買い換えたところもあります。人は殺到してくるのですが今度は

先生がいません。熊本の東部市の公民館などが、シニアネットに講師をしてくださいと向こうから頼んできます。もちろん今までは民間の講師を頼んでいたのですが、その点、シニアネットは安いですね。交通費程度でやっていますので、公民館も熱心になってきます。サロンでも公民館を貸しましょうということになってきたわけです。NTTの会場を借りているところもあります。

会則は？

1,300人もいるクラブならば会則はさぞかし厳しいのではないかとされるかもしれませんが、会則は10条までしかありません。一応緩やかに縛りはありますが、支部もクラブも自主運営です。本部は何もタッチしません。毎年活動史を作りそれが10周年たっているわけですから、10年史はすぐできました。各サロンの今年のやりたいことなどを載せておくと、次の年からどっと人が増えます。どこのサロンに行ってもいい、好きな所へ行きなさいということで、割と分裂しないのではないかと思います。300~500になると意見は対立しますよというクラブを聞きましたけれども、本会が分裂していないのは分散しているからではないかと思います。勉強は本部講習やサロンで、楽しむのはクラブで好きなことをやればいいわけです。このように自由に行っているから長続きしているのではないかなと思っています。

高齢者の孤独をなくそうということですが、今でもシニアネットは元気な人が多いです。

62回KSNハイキング(二ノ岳、三ノ岳)



元気な人が各サロンやクラブに集まって、山登りをしますよ、ゴルフをしますよ、と楽しめます。10年たってくると、どこか体に異常がでてきて外に行けなくなってしまったとします。その時に昔の顔見知りの人とメール交換することによって、

自分の生きがいを求めてというか、余生を楽しんでいけばいい、とそういう感じで長続きしているのではないかなと思います。10年前に立てた「高齢者の孤独をなくそう」という目的は、達成しつつあるのではないかなと思います。そのためには会員相互の研修、知識の交流を図ろうということです。それから世代間の交流と相互理解ということ言えば、例えば私もボランティアで保育園とか小学校に行きますし、養護老人ホームにも行きます。



天草支部との交流会



サロンの中には、子供達に田植えをさせ、稲刈りをさせて、餅つきをしてというクラブもあります。世代間の交流になっています。

活動

ホームページとメーリングリストがあります。ホームページにいくとシニアネットの活動内容や各支部の紹介が載っています。メーリングリストはもう10年前から熊本学園大学のサーバーを使っており、メーリングリストの更新状況も載っていて、年間に何千通ものメールが行き交っていま

す。本部講習は Word・Excel の講習から始まって、最近ではセキュリティーの問題や、ウィンドウズ7が出ましたので7の説明などをやっています。誰が講師になるというのではなく先にやった人、詳しい人が勉強してそれを皆さんに教える、という形で研修をしています。年に2回ずつぐらい、6ヶ月でだいたいワンクールです。その時の講師はシニア情報生活アドバイザーです。

また興味に応じたコミュニケーションを図る交流会、これは交流企画部というのがあります。



例えば新入会員歓迎交流会、総会の後の懇親会、お花見の会などがそうです。

福祉観点から高齢者ネットの研究ということで熊本学園大学に福祉学部があり、その生徒さん達と交流を図りながら高齢者のことを勉強しようというグループもあります。逆にシニアネットの中にお医者さんや看護婦さん、介護福祉士もおりますので、いろいろな質問を出すとネットで返事してくれるメーリングリストもあります。これがホームページですね。



例えばシニアネットの入会方法・やめ方、最近の動きなどがわかります。機器管理部というのがあり、古いパソコンのメンテナンスもやっています。各サロンの紹介、誕生日情報なども流しています。シニアネットの愛称歌もあり、山登りでは

山の頂上で歌いますよ。

会員

会員には二通りあります

「正会員」は年間3,000円納めて会の運営に参加でき、各部の要員になれます。「メール会員」はメールだけでお金はいりませんが、メーリングリストは使えます。運営にはタッチできません。クラブに参加できますが、有料です。中の運営には執行委員会があります。代表・副代表・顧問・事務局長・次長・事務局員・各部部長および副部長がメンバーです。月1回会合をします。

また評議委員会というのがあります。総会にどういふ議題を出すかという評議委員ですが、各支部・クラブを作る時は評議委員会の承認がないと作れません。メンバーは各支部長副部長、各クラブ部長、副部長がなっています。各支部各クラブの活動報告を2カ月に1回行います。

【知って得するシニア情報室】

「知らずに損するシニア情報室」知っていたらいいなということがありますね。



一例として「前立腺がんを宣告された場合、摘出手術・放射線治療・投薬治療のいずれがいいか」という質問を投げた場合は一斉に、自分の経験などからその日のうちに匿名で返事がきます。その他テーマがいろいろあって、痛風の治療はどこかの病院がいいか、認知症の自己判断方法などの質問などが来ます。介護保険の認定と施設の選択などは介護士さんやケアマネージャーさんが「シニア情報室」で説明してくれる場合があります。固定資産税の問題も市役所に行かなくても説明してくれます。MLに寄せられた質疑応答をまとめて皆

さん伝えてあげられるわけです。

シニア情報アドバイザー

平成15年11月に養成講習実施機関に認定されました。募集は県の広報誌を使って募集します。実施機関は熊本シニアネットですが、毎年20名近くが認定され更新し、今118名が登録をしています。

熊本県のITリーダーの養成

パソコン教室の先生になりたいのだけれどどうしたらいいか、また自分でパソコン教室を開いている人も「認定証」がほしいという人達があります。「熊本シニアITリーダー」の講座を終了すると熊本県知事の「終了証」がもらえ、熊本県から1人5,000円の補助がでます。またシニア情報生活アドバイザーの「認定証」を取得できます。資格が取れたら、熊本シニアネットの「教育普及部」に所属しアフターケアを受ける事ができます。月1回本部講習会を受けたり、グループごとに勉強会を開き、事前講習をうけたりしてアドバイザーのスキルアップを図っています。またサロンのために講師を派遣します。デジカメ講座などがはやっていますが、教え方がいいからでしょうか。

講習項目などのグループ講座

Word・Excel・メール・デジカメ・ホームページやブログ作成などがあり最近ではWindows7講座が増えました。またセキュリティでは知っているようで知らないことが多く、USBでウイルスをばらまいたりしないようにチェックを徹底しています。実際の活動として様々なオフ会で、メールだけで顔を知らなかった人達が顔を合わせる事によって交流ができています。

個人のお宅でパソコンはなく玄人はだしのお料理を楽しんでいるグループもあります。

終わりに

これからも思いやりのあるネット交流で、孤独死を防ごうということややっていこうと考えています。グランドゴルフに、一人暮らしの人達を呼んで長生きしてもらおうという話も出ています。シニアネットが高齢者の孤独をなくそうというテ

ーマにあげたのは良かったのではないかと思います。お互いにお互いを気遣う仲間として機能して行けばいいなと思って毎日頑張っています。

3. 質疑応答

司会 熊本で地域での活動をなされているわけですが、皆さんからお聞きしたいことや皆さんのところではこういうことをやっているということを何かお話しただけであればと思います。二羽さん、日野市で同じようなご活動をされているということですが、いかがですか。

二羽 われわれはパソコン教室からスタートしました。当時は有効に使われていない機材、倉庫に入れてしまったパソコンを有効に使おうと、日野市が場所をタダで開放してくれました。使うのはグループ団体で、それを振り分け自由に使っているということで、その取りまとめ役に指名されました。連絡協議会を作り自主運営で町内会の市民団体の人達を集めてやっているわけです。やはり講師になる方の横の連絡がとりにくかったです。

発展的に考えて、人を集めてやろうということで始めました。町のパソコン教室に通っても分からず置いてきぼりにされてしまうので来た、という人がいます。繰り返しやっていたら面白くなり、毎週来ることが楽しみにになり、友達もできます。宣伝もしないのですが、口コミで増えてきたというのが現状です。

団塊の世代について言えば、パソコンの操作そのものは分かるので、スタート時点から教える内容も変わっています。今後は高齢者世代になるわけですから、今来ている人達を楽しませて、なおかつあとから来た人たちとどう仲良くやっていくか、という大きな課題を抱えています。その辺のお話しをうかがいたいです。

司会 ありがとうございます。どこでも教える方を作るということからスタートしていると思うのですが、自分のところの経験談や何かご意見はありませんか。

津田 我々IDN(NPO法人自立支援化ネットワーク)はどちらかというと、シニア情報生活アドバイザーの資格を持った人がメンバーです。主にパソコン教室の運営や、会員相互のゴルフの会・登山の会などもあり、さらに勉強会・資格養成講

座などがあります。私は、千葉で資格を取ったものが集まりまして「千葉パソコンアドバイザーの会」を作りまして、市のパソコン教室とか公民館を中心にした教室などの活動もしています。最近では、幼稚園の先生に夏休みに集中講義をやったところ好評でして、またやってほしいということでした。

アドバイザーの資格の無い人達も会員としておられます。またパソコン教室を卒業された方々もいらっしゃいます。そういう方々を巻き込んで何かを作っていくのか、それともアドバイザーだけの会で運営していくのか、ちょっと転機になっているのではないかと思います。また別に私は江東区でもパソコンを教えられる人達を8人ほど集めまして月火水と1日3時間、1日3回の授業をやっています。地域の人たちが多くので、卒業生をどうするかが悩みの種になっています。グループができて「Word、Excelが終わったら次は何をやるのですか」ということで、しおり作りなどの教室をやっていますが…、卒業生をどう取り込んでいけばいいのかということでも頭を痛めているところです。そのような事を教えて頂けたらと思っています。

司会 ありがとうございます。他にも活動をされていて困っている点や解決策について、皆さんのご意見をお聞かせ願えませんでしょうか。

島本 ここにいらっしゃる方はアドバイザーとか資格を持っていらっしゃる方なので、パソコンに関しては積極的なのですね。私は地域のパソコンということでおうかがいします。もともと我々のグループはシニアが会社を辞めてアナログで地域の仲間作りと社会貢献をとということで作ら

れました。男の人達は会社から離れたので「今さら」と役をやりたいがりません。途中で趣味のグループとして入った人達と、社会参加として入った人達に分かれました。結果、別にNPO組織を作ってしまうと、社会参加型が放り出されてしまいました。

自分の目的で入った人達もまとめ役がいないと動きません。会員としては50名くらいいますが、10年も経っているのに万年初心者の域を出ません。知っている人は知っている、知らない人は知らない、何回も教えているが育っていません。行事をやっても参加してきません。月1回パソコン講座には出てきますが、動いてくれず役員にもなりません。行事としてはたくさんあるのですが参加者が少ないです。高齢者も増え、運営が難しくなってきました。パソコンクラブ解散の話も出てきましたが、外部の講師を呼んで教室を開くなど、誰かが犠牲になって続けています。皆さんの会の運営の仕方などをどのようにされているのかお聞きしたいのですが…

中島 熊本市のシニアネットの場合は「楽しいことをやろう」と誰かが何かを決めてきます。

10年ぐらいやると行事はマンネリ化してくるので、新しい人に考えてもらいます。楽しむ場所を作っていくと変わると思います。サロンも得意なサロンがいろいろあり、どこのサロンに行ってもいいですよと言うと、新しいニュースが入ってきて、新しい企画が出てきます。執行委員が企画を決めるのではないんですね。

島本 委員会も、なりたくてなった人がなっているわけではないので、皆さんに伝わっていかないんです。ワイワイ倶楽部は女性だけなので走りながらやっていると言われます。15年たっているのに過渡期にきているとは思いますが、新しく会員を募集しても入ってくる人が限られます。パソコングループは続いてほしいのですが、どのような企画をしたら皆さん喜んでいただけるのか、運営委員としても分かりません。何やっても反応がない、かといって参加しないわけでもないんです。

中島 パソコンはあくまでも道具



であって、高齢者が楽しんでくれればいい、と考えを変えれば割とできるのではないですか。あまりパソコンを表に出すと、もういいということになります。会を運営するにしても役員を決めこれをしなさいと言わないで、もっと楽しいことをやりましょうと呼びかける。楽しくないと続かないです。たまり場の場所を作っているわけで、それで人が自然に集まるのでしょうか。

島本 地域にそのような場所ができればよかったです。グループとして存在してしまい、グループが独立しているみたいな形です。私は広報の仕事をやっていましたが、年会費を回収の時に自分はカラオケしか出ていないので、年会費の4,000円は高いから下げろと言う人がいました。集まる目的が一つだけなので大きな講演会を企画しても会員が集まらないんです。

都築 豊島区の場合は廃校になった学校で公民館活動をしています。そのパソコン教室に区がVistaを用意してくれました。先生が必要になりますが、毎週生徒は勉強しているのですぐ生徒から先生ができるようになります。講義をやって教えながら成長していき報酬がもらえます。その報酬が大事で報酬をもらっているからきちんと教えます。シニアが出せるお金は1回がワンコイン500円ぐらいで月3,000円の講習料を払います。

会計は毎年変わり執行部というのではなく、みんなが係を決めて順番に役員を経験して行きます。午前は長くいる人、午後は新しく入ってきた人達が勉強しています。先生は与えられたところへ教えに行き、先生どうして毎月勉強会などもやっています。テキスト作りが大変ですが、得意分野を担当して教えながら勉強しています。

パソコンの世界は奥が深く毎年変わりますので、楽しみながらやっています。公民館ですから場所取りはします。半分ちょっと区が支援してくれていますが、たくさんの人たちがIT化して行っています。

島本 シニアの人達はだんだん年をとって外へ出られなくなりますし、パソコンは必要でないかとは思いますが、iPodみたいなものがでてくるといいなと思います。親が必要に迫られて80過ぎぐらいでパソコンを始めたのですが、セキュリティの問題ができました。離れている親にセキュ

リティを教えるのは無理ですね。ネットを諦めて年賀状作りなどになってしまいました。

また、私達はパソコン教室の会場を借りるのに10,000円近くかかります。借りる金額が高くて運営が大変です。回数を増やすにも先生が古いアドバイザーに固定してしまい、新しい先生のなり手がありません。パソコンに10数年かかっていますが、自分が疲れてきて、自分の勉強もしたくなりました。新しいことを覚えたいしハードの勉強もしたい、雰囲気として新しいことができにくい。皆さんのお話をうらやましく聞いています。

中島 自分がつかれたら休むといいです。無理していただめです。執行部も時々新しい人と変わってもらわないと続かないです。それから皆さんにお聞きしますが、講習会のテキストをどうされていますか？ 沖縄はいさいネットでは、企業と協力して作ったそうですが、皆さんのところはいかがですか？ 我々はシニア情報アドバイザーが作るのですが、難しい問題です。

二羽 スタッフが70名いるんですが、まったく統一するという事は無理です。市販品を使ったこともあります。しかし、シニア向けには帯に短し襷に長しです。初級コースからカリキュラムを作り、講師が相手に応じて選択する星取表を用意して、ステップごとに階段を上がっていくようなノウハウを作成しています。

清水 先ほどちょっとセキュリティの問題でインターネットを諦めたとお話がありましたが、私共はウイルス対応などのセキュリティやパソコンの不具合などをサポートするメンバーがおります。費用は1回3~4,000円です。受講生の方からの要望でできたシステムで、ガイドラインを作って金額を決めています。

島本 羨ましいと思いました。自分のところも組織化しないといけないなと思いました。セキュリティの問題で離れて暮らしている母のところに行ってもらえる、地域で自宅へ来てくれるようなボランティアの出張サポートがあるとありがたいです。

中島 それこそシニアネットの連絡網を使ったらどうですかね。地域にこんな人いませんかとネットで聞いてみる必要はあると思いますね。

二羽 アナログ人間が生活のツールとしてパソコンや携帯電話を使えるようになると、一人でも生きていかなければいけないという人達のバックアップになる訳です。最初に教室に入ってきた人達が、いろいろできるようになり、階段を上ってくるわけです。アシスタントをやりたい、講師になりたい、講師になると自信がつき、アドバイザーの資格を取りたいと全部クリアしています。自分が苦勞しているからその人は教え方がうまいです。相手は人間ですからそんな教科書だのスキルアップの技術だのと教える対象に比べたら微々たるもの、いかにそのような方をうまく扱っていくかというのも大事です。

司会 ご意見ありがとうございます。

質問者 私は熊本シニアネットで2年目です。なぜ会員が増えるかということなんですが、先日こういうことがありました。息子さんから高いパソコンを買ってもらったが、インターネットの繋ぎ方がわからないのでゲームしかやっていないのです。たまたま近くの方だったので訪問してインターネットやメールができるようにしましたらとても喜ばれました。なぜパソコンを買ってもらったのかという話を聞きましたら、体調を崩したので息子さんがプレゼントしてくれたのだそうです。半年以上も家の中にこもりっきりにならないといけない状態だったので、ゲームでもやったらと息子さんがいいパソコンを買ってくれたそうです。

メールができればシニアネットの会員になれるすよとお話したら、早速会員になるということに発展しました。どうも熊本シニアネットの場合は口コミが多いみたいです。皆さんメールができる方達がホームページを見たという訳ではなく、各サロンの口コミの影響の大きさはすごいと感じました。もし皆さん運営に困ったら今いらっしゃる皆さんにコマーシャルしてもらおうということも一つの方法だと思います。パソコンをやりたいとできないと埋もれてしまっている人もいますので。

都築 確かに年寄りにこそインターネットが必要だと思います。私の母は88歳ですが、最近ツイッターを始めました。またスカイプで友達と聖書の1章ずつ読むことを続けています。それだけ

でも頭も活性化するし、安否確認にもなります。ツイッターは携帯からでもできますから、つぶやいてくれるとお母さん元気なんだわという事がわかります。お年寄りでも丁寧に教えてあげたらわかるんですよ。母もわくわくして嬉しいと言っています。パソコンの技術も必要ですが、先生もそのような楽しみ方を持っていると生徒さんも、わくわくして若くなるのではないかと思います。

亀井 我々は全国ネットで交流をしています。趣味の部屋を作って俳句や川柳は毎月1回やっています。また植物園での珍しい花を紹介したり、写真の面白いものを公開しています。会員の多い地区、東京・千葉・大阪・名古屋などは月1回集まって勉強会をしています。集める工夫はしています、俳句が好きだから入ったという人もいます。

司会 いろいろなご意見、困っていることをお話いただきありがとうございます。必ずしもここで問題がみな解決するわけではございませんが、いろいろな悩みなどを共有できればと思います。人が集まれば組織になってしまうわけで、対人関係など難しい運営が求められます。中島さんがおっしゃったように、楽しくなかったら続かない、少し休んでみるのもいいでしょう。資料はどのようなかというお話もありました。手作りも必要かもしれませんが、ある程度組織であれば分担してできるかもしれません。積み重ねだと思いますのでリファインしていけばいいものになっていくのではと思います。

中島 皆さん、ありがとうございます。どなたの悩みも一緒だと思います。私達も10年やってきまして、10年やっていけば穴が見えてきますし、またその穴をふさいでいけば続いていくのではないかと思います。リーダーの方たちもしんどい時は充電期間を作っていただけたらいいでしょう。パソコンは手段ですから それを使って老後を楽しんでいただきたいと思えます。お疲れさまでした。

4. まとめ

- ・パソコンの楽しみを口コミで集めましょう。
- ・つかれたら休むことも大事です
- ・遠隔地支援、地域のボランティア・ネットワークの取りまとめを協会に。



男性も女性も、みんなが楽しむ
魅力あるシニアネットを目指して

熊本シニアネット
代表 中島 敬也

フォーラム21in熊本2010

2 創立11年目

昨年、10周年記念事業の一環
「シニアネットフォーラム21in九州」を
熊本市で開催！
「シニアが変わる、地域が変わる、
シニアネットはシニアの生きがい
シニアのパワーを終結し、輪を広げよう！」



北海道から沖縄まで240名が参加

4 熊本シニアネットの会員は

多くが第一線を引退
しかし
知識、技術、豊富な人生経験を持っている

5 熊本シニアネットが目指すもの

高齢者の孤独をなくし
高齢者が情報技術を活用して
いつまでも生き生き、そして楽しく
充実した生活を送り社会発展のために
活躍できるよう「高齢者自立型・参加型
情報社会」

6 登録会員番号が1342番

わが国でも最大級の会員数を誇り
県内に15もの支部を有し
男性も女性も生き生きと活動している

7 何故か？


楽しいからです。
情報技術の習得も、ボランティアも
楽しくなければ続きません。
楽しむためには！
インターネットが、電子メールが必需品

8 あなたが先生、あなたが生徒 わたしが生徒、わたしが先生

そこで
あなたが先生、あなたが生徒

先生も生徒もサロンに行けば出会えます。

フォーラム21in熊本2010

<p>9</p> <p> 入会のきっかけ?</p> <p>新入会員は 「メールは出来ないがゴルフが出来るから」 「ボランティア仲間に聞いて」 「ITリーダー養成講習を受けたいから」 と 入会のきっかけは様々 でも続いている その仕組みは?</p>	<p>10</p> <p> メンバーと組織</p> <p>1. 特徴 歩いていけるとところに支部(サロン) その場所は 介護老人福祉施設 大学校の構内 公民館 民間施設や個人住宅</p>
<p>11</p> <p> 会 則は?</p> <p>紳士淑女の集まりだから一応会則はある ただし、第10条までと緩やかな縛りはあるが 支部もクラブも自主運営 どこのサロンでも、好きなところに</p> <p>2. 目的 高齢者の孤独をなくし、生きがいの創造を図る ため、新たな文化的、人的交流の場を提供する</p>	<p>12</p> <p></p> <p>3. 活 動</p> <p>1、HPとMLを開設し、会員相互の情報交換 2、パソコン教室を実施 3、興味に応じたコミュニケを図る交流会 4、福祉観点から、高齢者のネットの研究</p>
<p>13</p> <p></p> <p>4. 会 員</p> <p>「正会員」は年会費を納めて会の運営に 「メール会員」は会費は無料、運営には× MLは利用できるが、その他は有料</p>	<p>14</p> <p></p> <p>5. 執行委員会(月1回)</p> <p>総会及び評議員会が決議した事項の執行 企画立案及び業務執行 構成 代表、副代表、顧問 事務局長、次長、事務局員 各部部长及び副部长</p>
<p>15</p> <p></p> <p>6. 評議員会(隔月1回)</p> <p>総会に付議すべき事項の評議 各支部、各クラブの設立承認 各部、各支部、各クラブの活動報告 構成 執行委員会メンバー 各支部長及び副支部長 各クラブ部長及び副部长</p>	<p>16</p> <p> 知って得するシニア情報室</p> <p>もう一つの特徴は、知って得する、知らずに損する「シニア情報室」がある。</p> <p>・前立腺がんを宣告され、摘出手術・放射線治療・投薬治療いずれかを明日までに選択せよと言われました。 どうしたらいいでしょう?</p>

17

シニアネット会員の回答

その日のうちに、摘出、放射線、投薬それぞれの経験者から投稿がありました。無記名ですから、患者、医療従事者、介護者からの投稿もたくさんあり、それを参考にして、治療されています。

18

その他の事例

- ・脊柱管狭窄症、通風の治療と病院の選択
- ・認知症の前兆と自己判断法について
- ・介護保険の認定と施設の選択
- ・固定資産税はどうして決まるのか
- ・登山時の引きつりの予防と処方

MLに寄せられた質疑応答を整理してHP「シニア情報室」で紹介している。

19

シニア情報生活アドバイザー

平成15年11月 養成講習実施機関認定
 平成15年度 8名
 平成16年度12名
 平成17年度59名 シニアITリーダー
 平成18年度39名 シニアITリーダー
 平成19年度25名 シニアITリーダー
 平成20年度21名 シニアITリーダー118名登録済
 平成21年度20名 予定シニアITリーダー

20

熊本県ITリーダーの養成

自己実現の場を求めて得意のITを生かし、社会で活躍したいとする高齢者を対象に、熊本県・熊本さわやか長寿財団とのコラボレーションで、平成17年6月から「熊本県シニアITリーダー」の養成講習を始めました。

21

シニアITリーダー シニア情報生活アドバイザー

この講座を終了すると、熊本県知事の「終了証」とシニア情報生活アドバイザーの「認定証」が取得できます。講習関係の活発化が図られ、そこで学んだことを地域に広めていく核となり、そうしたシニアの教育は、地域の活性化にもつながり、自身の生きがいづくりに役立っている。

22

アドバイザーのスキルアップ

教育普及部の一員となり月1回の会議に！

- 1、本部講習の講師や日程の調整
- 2、講師の事前講習、事後講習
アドバイザースキルアップ
- 3、講習項目ごとのグループ化
- 4、サロン支援のための講師派遣

23

講習項目ごとのグループ

- | | |
|--------------|------------|
| 1、Word | 6、ホームページ作成 |
| 2、Excel | 7、ブログ作成 |
| 3、電子メール | 8、インターネット |
| 4、デジカメ | 9、セキュリティ |
| 5、Windowsの操作 | 10、パソコン自作 |

24

おわりに

今後、思いやりのあるネット交流、あるいはオフ交流によってシニアの閉じこもりをつくらず、孤独を解消してお互いを気遣う仲間として、本物のネットワークとして機能するようになると確信しております。

コミュニティ・ビジネスで シニアの知見を地域に生かす

■課題提供者

大熊 勇雄 NPO 法人シニア SOHO 横浜・神奈川

■司会 木村隆道 いちえ会

■書記 鹿 浅子 渥美てる子 いちえ会

あいさつ

私は横浜で NPO 活動を始めて 6 年～7 年になります。問題提起をするという事は、きれい事だけを言っても意味がありません。しかし正直あまり恥を曝しても……と思っています。でもある程度は言わないと話が発展しないと思うので、できる範囲でお話してみようと思います。もちろん個人名は出さず、今までに起こった問題等をお話ししたいと思います。(文末図 1、以下同)

自己紹介



私達団体のホームページは、今までホームページビルダーで作っておりました。今何をしているという生の発信がなかなかできない。もっとシニアが発信力をつけないといけない。その辺の事も話していきたいと思っています。

趣味は、絵を描く事と旅行、Web サイトで作る「横浜とスケッチ」ということで、Google や

Yahoo で検索するとページの一番上位に出てきます。

アドバイザー講座の講師を横浜でしていますが、生徒さんが私のホームページを見ていると聞いて、嬉しかった思い出があります。「旅とスケッチ」というタイトルでブログの方もやっています。(図 2,3,4)

コミュニティ・ビジネス

コミュニティ・ビジネスですが、地域の課題を地域住民が主体的にビジネスの手法で解決する取り組みです。ビジネスの手法とは、効率的、責任を持ち、継続的、安定的に行い、そのためには収益も必要です。

交通費も当然かかるし、たとえばパソコンの場合、持っている知識だけではすぐに陳腐化してしまうので、本や新しいものを買わなくてはなりません。そのため多少は収益が必要だと思います。それによって継続すると思うので、有償ボランティア(とい形が必要)だと思っています。ボランティアというのは、普通無償と思われている事が多いようですが、今は有償という形で、堂々とボランティアとしてお金を頂いております。

SVYK (シニアベンチャー横浜・神奈川) 活動として、コミュニティ・ビジネスと SOHO ビジネスとに大きく二つに分けています。特にコミュニティ・ビジネスは、どちらかというボランティア的に、地域の役に立つという、自分達の生きがいとやりがいの範囲かと私は思っていますが、そうじゃないという方がいるかも知れません。(図 5,6)

SOHO ビジネス

SOHO ビジネスは、どちらかというと働きがいに入ると思います。よく生きがいと言いますが、生きがいは大勢でやらなくても、孫がかわいければそれが生きがいになります。仲間とやる事で、そこに達成感を分かち合い、コミュニティ・ビジネスとしてやりがいになってくると思います。

参考事例

委託事業的なものは行政と協働・協力しながら、「お金をこれだけ出すからやってください」という形であり、今もそのような時期です。横浜市の公募事業で、テーマが決まったのもあり、自由テーマでやってくださいという事もあります。行政に頼らずに自分達だけでやるものもあり、そちらのほうが楽しいと思っています。

昨日、生部さんと理事長から「次のステージに向かう時期ですよ」というお話がありました。今までは各団体個々にシニアネットと言いながら、地方に百以上ある団体が、横の連携が取れていなかったと思います。これからは横の連携を取りながら、今日ここで話することが、次のステージにつながればと思います。政策というと大げさですが、提言できることが、ここで出るといいと思います。

設立の目的

SVYK（シニア SOHO 横浜・神奈川）は、一般的に他の団体と似ていると思います。会員間の情報交流や行政、団体、企業との協業の仕組みを作り、創業のための自己と全体が助け合っていく活動の場ということです。個人では動きづらいので、それを NPO の名で動くという考え方で、コミュニティ・ビジネス活動のためのインフラというのを提供するのが設立の目的です。

もちろん会員が自主的に活動し、楽しく生きがいを持って社会貢献できる部分が必要だと思います。お金だけではなく、周りの人が喜ばば、それが自分の喜びになる。そのような考えで、平成 15 年の 6 月創立で現在会員が 70 名程おります。(図 7)

インフラ

インフラは、金物の部分ですが、パソコン 12

台、プロジェクター、無線 LAN 等自主的な活動・講座等をするために、用意しております。

活動拠点として ECN プラザをオフィス（事務所）とは別に月 8 万円で借り、そこで研修や営業をしています。今のところ一切 SVYK（シニアベンチャー横浜・神奈川）からお金は出ておりません。自分達がやりたいことのため、自分達でお金を出してやっているのを見ていて厳しいです。なんで必要なかは後で出てくると思います。そこまで SOHO ビジネスとしてこだわるのかという部分では、ちょっと違う考え方もありますが、10 名以上が賛同し使っています。

Web サイトは、広報と会員間の情報交換という目的で、ネットコモンズという国立情報学研究所が開発したオープン・ソース・ソフトウェアを使っています。簡単に言うと商用のホームページレベルのデザインは、テンプレートが数十種類用意されているのですぐできます。かつ、その作成がどこからでもできます。インターネットに繋がっていれば、今すぐここからでもデザインを変えることができます。

会員登録することにより、その人の権限の範囲内で情報を発信することができます。簡単にいえば、事業所ごとにブログを作り、その中で今日はどこに行って何をしたというのも発信することができます。7 年ぐらい前から文科省の管轄で作っており、種子島辺りでは全島がこれを使ったサイトに作っています。無料ですがメンテナンスもきちっとやっています。(図 8)

SVYK(シニアベンチャー横浜・神奈川)の体制

体制は、理事会があり、代表理事、副代表理事、理事がいて、合計 6 名です。

日々の活動について運営委員会が毎月一回、報告や承認事項等を行っています。各ワーキンググループ単位で動いていて、そのリーダーと希望者で活動報告、予定、決定を行っています。事務局はインフラを整備し、経理をやっています。

協働ワーキンググループは、行政とワーキンググループ間の調整をし、いろんなワーキンググループを、SOHO ビジネス的にビジネスリーグという名前呼び、そこにいくつかのグループが入っています。(図 9)

ビジネスリーグとファームリーグ

コミュニティ・ビジネスリーグという少しだけボランティア的考え方で、企業と一緒にやるのではなく、行政と地域社会といったことでこのワーキンググループに入って活動しております。この二つのビジネスグループの他にファームリーグがあります。ファームリーグ、これは親睦を兼ねたもので、デジカメやスケッチ等楽しいことをやろうというものです。(図 10)

コミュニティ・ビジネスリーグ

地域情報化ワーキンググループ、港北区の地域情報化推進のグループ、講座をやるワーキンググループ等をやっています。私は「絵を楽しみましょう」というワーキンググループを担当しています。そのほかシニアドの養成講座等の活動をしています。(図 11)

これまでの活動 (1) 【委託】

ワーキンググループは、この指とまれの考え方で、まずリーダーがこんな事をやりますと手を挙げて、賛同した人にやってもらいます。行政とやる場合は、契約書などが出てくるので、この内容でいいか、問題なくできそうか等、理事会で判断して最終的に実施するか決めます。場合によっては、始めたが「まずいよ、これは」ということがある場合は、強制的に理事会で決め、「あなたはこのプロジェクトから外れてください」ということもありました。事業の一つとして、「新たな担い手創生事業」という横浜市の経済観光局から公募があり、提案して採択されてやりました。

2006 年から 3 年間、合計 600 万円で、我々シニアが持っているスキルを生かし、地域の経済活性化に協力して、何かやる事はないかという事で、こちらからは交流拠点のセッティングということで場所を用意して 3 年間、横浜市の中小企業に伺って情報化の部分でできてないところを手伝う等、動いています。

就労相談ですが、人材派遣会社と連携して、相談コーナーを開設しました。仕事を斡旋することは、免許が必要なのでできないが、相談して実際には派遣会社が動くということです。企業支援として受注管理システムの開発をしました。CAD ソ

フトの講座もやり、そのほか中小企業がチラシをもっと安くできないかということで、有料でやりました。(図 12,13)

(成果と課題)

成果ですが、企業支援 9 件、就労支援 32 名・6 名を派遣会社に登録、NPO 協働で 2 団体と連携、これを進めたことで他の団体とも知り合え、お互い交流が続いています。今他の団体とも協働でプロジェクトを進めております。

横浜市が 150 周年記念のライフデザインフェアということで、シニア世代をもっと地域に呼び戻し、活躍してもらおうと、ライフデザインフェアを 3 回やり、そこで活動の様子を展示したりしました。それを見て、何をしたらいいかわからない人が内容を理解し入会してきたことが一つの実績かと思えます。

企業支援ですが、横浜市からの他に 630 万円程の企業支援の売り上げがありました。協賛企業ということで、もっと手助けをする提案をしましたが、それはほとんど成果が出ず、経済的余裕がないという感じでうまくいきませんでした。(図 14)

これまでの活動 (2) 【委託】

「Open School Platform(OSP)」プロジェクトという、コンピューター教育開発センターの委託を受け、リナックススペースのシステムを 3 種類位コンピューター教育開発センターで作っていて、それを学校に導入し、とにかく使えるようにして授業を支援することを、企業と NPO 共同で提案し採択されてやりました。そこでは、コンピューター教育開発センターが経済産業省と文科省の団体と、インターネットを学校現場でいかに使うか、先生方を支援し、学校の校務を支援するという研究をしております。NPO が学校現場でどうしたらうまく協力してくれるか、そのビジネスモデルを検証したかったようです。

本当にできるのか先方が心配していましたが、とにかくやらせて見ようということになり引き受け、リーダーが実施計画書を出しました。私の感想・評価は、NPO としての参加については成功、プロジェクト管理能力、サポート範囲、教師要求レベル、技術レベル、現役時代の専門知識等についてはもう一歩ということところです。(図 15,16)

（成果と課題）

NPO として参加したことは、向こうからすれば非常によかったと思います。リーダーが最後に成果発表会で体験した内容を話しました（資料の URL 参照）。

メンバーが抜ける場合があり、プロジェクト・リーダーが「やめちゃ困る」と言っても「おれはやめる」と言ったら引き止められない。やめる理由はスキル不足や体調不良等です。もちろんそれに対する解決策等（「一人ではなく複数でやりましょう」等ということ）も書いてあります。

作業場が自宅にある場合、情報やノウハウの共有が困難で、受託能力ということで共有できなかった問題もあります。あとは機材を持つ資金が乏しいことです。

これまでの活動（3）【委託】

エールカード（市民活動推奨カード）事業というのを、横浜市市民活力推進局が進め、「市民活動を応援します、横浜市が応援します」というと行政のお墨付きになるので、その推進団体を作り、間に入って市民活動をしている一人一人にエールを送るカードを発行し、それをうまく使ってやってくださいということで、20 団体 200 人位のカードを発行しています。

地域情報化サポーターとして、シニアの地域版という感じで、カードを持って活躍しています。（図 17）



（成果と課題）

成果としては、市民活動ネットワークが広がり、このエールカードを持っていることで優良団体と

して横の連携が取れてよかったと思う。ここでは事務局、講座、カード発行等もやりました。

Web サイトを使おうと思いましたが、市民活動をやる団体は、IT を使わなくてもできると言い、一つのことを教えようとしても「要らない」といわれました。無理やり IT を勧めるのもどうかと思いました。（図 18）

これまでの活動（4）【委託】

シニアコーディネーター養成講座事業、これも横浜市の教育委員会生涯学習課の委託を受けてしています。（図 19）

（成果と課題）

内容的にはコミュニティ・ビジネスとか、地域デビューをするきっかけを作る各種講座をやり、参加した方が地域に戻り活躍しています。これは良かったと思います。（図 20）

これまでの活動（5）【協働】

新たな創生事業として、ワークライフバランス向上を目指したテレワークの実施・推進ということで、経済観光局の委託事業で、SVYK が複数の事業を出来ないの、他の団体の応援という形で活動しています。（図 21）

（成果と課題）

ここでは、「ウェブタウン横濱 3.0」や「あったかハート横濱良品館」等 Web サイトを作って、これを手伝いました。楽天（株）と組んで、楽天（株）

も応援してくれて、私からすればうらやましい位うまくいっていると思いました。

障害者施設の製品をこのサイトで売っているが、当初は 1 千万位売れると喜んでいましたが、現実はいまうまいっていると言いつつ、たくさん注文が来ると逆に施設はそこまでは売

りたくないと言いつつ、だから「あまり売れるのもどうか」と言っています。（図 22）

これまでの活動 (6) 【自主事業】

各地にある地区センターに講座を売り込みに行きました。講座の PR は区報に載せてもらって成果が出ています。そして中途障害者地域活動センターですが、シニアドをとった方の活躍の場作りにもなり開拓しながらどんどん進めています。そういうところのホームページ作成も行っています。

NPO 法人「都市防災研究会」の web サイトは私が 3 日間で作りました。できているものをベースにして、カット&ペーストしながら貼り付けるというようにやりました。

「まちの電気店 わくわくサロン」は、地域の電気屋さんが「お客が来ないので何とかできないか」と言うので、いろいろなイベントをしました。

(図 23,24,25)

(成果と課題)

成果としては、協力的という事と新規会員の活動の場を提供できていること、シニアド講座修了者の活動の場ができています。問題はマーケットの開拓、講座会場、サポートスキル、責任感などがあります。サポートスキルということは、ここだけの問題ではないでしょうが、サポートのためのスキルとか、ボランティア活動とは何かということをもっと少し講座の中で出来ればと思います。たとえば、シニアドを受けた方がサポートに行き、結局対応できなかった例があります。相手の方は今まで使っていたパソコンを Windows7 に乗り換え、全部同じ環境にしてほしいという要求でした。しかしその人のスキルではできませんでした。

一例として、G メール全部の転送設定をサーバーに全部残す設定にしていたため、過去のメールが 3 万通位残っていて、それが新しいパソコンにどんどん来るようになり対応できなくなっていました。サポートに行った人が解決できないため、「あなたの使い方が悪い」と言ってしまう、クレームが来ました。ボランティア活動で出来る範囲、出来なければどう対応したら良いか等、テキストの中で触れてもいいと思います。(図 26)

これからの活動を考える

団体活動を維持していくうえで家賃の問題もあ

ります。うまく PR できていないため何かやろうとしてもうまく纏まらない。活躍の場をうまく作れないということも多分あると思います。PR の仕方、仲間をどのように集めたいか、もっと集めるにはどう情報発信したらいいか等があると思います。

あとはモチベーションの違いがあると思います。何がしたいか、仕事なのか無償ボランティアなのか社会貢献なのか、自己実現を求めるにしても、何を持って自己実現なのか、あまりきれいごとではなく、生の声を出しても良いと思います。(図 27,28,29,30)

課題提供のまとめ

一つの提案は、シニアド認定者のためのポータルサイトのものがあると良いと思います。今は個々の団体単位で活動していると思いますが、「そういう事ならうちでもできそう」とか「うちでこういう事をしたいが、できる人がいないので、他の団体にいないか」と投げられるような仕組みや、「うちはこういう事できるよ」等、サイトにあげると、「じゃあやってくれないか」というやり取りができるのではないかと思います。次のステージに向けて、他の団体に言えばやってくれそうだという感じを受けていますので、その辺をこれから話し合っていきたいと思います。(図 31)



<質疑応答>

参加者 NPO 法人のマネジメント講座に参加したが、そこで次のような話を聞き共感しました。「NPO 参加者に居場所がほしい、ビジネスになる等多様で全て正解だが、リーダーはメンバーとは別に自分のモチベーションは何かをはっきり

させる必要がある。」

NPOの活動は自分の活動で精一杯で、団体の連携はなかなかできていません。提案のあったポータルサイトもよいと思いますが、マクロの連携は難しいので個々の局面で個別の連携が必要と思います。

大熊氏 シニア SOHO 横浜・神奈川では、住み分けをして、事務局を設けて企業等と組んで連携をとっています。

参加者 「ビジネス助人会」を作って退職した人々を集めて活動しています。メンバーは県内・市内に点在しているので、メーリングリストで連絡しているが、横浜はどのようにしているのでしょうか。地元の中小企業を支援する際、大企業に勤めていた時の経験や人脈は実際に役に立たないことがあります。そのようなときはどうしているのでしょうか。

大熊 横浜市は、広いので難しい面があります。メーリングリストや掲示板を使っています。現場で言うのはできるが、事前に会って話し合うことは困難です。現役の時の経験だけではだめだと思います。

参加者 地域で活動したくても、地域的なこともあり困難です。グループの人と模索中だがアドバイスを頂きたいと思います。自己のスキルを上げなくては難しいと思います。

参加者 コミュニティビジネス（売上）についてどのような経緯、たとえば収益を分配しているのかお聞かせください。私のところでは1,500円



収入の場合個人に1,100円等としていますが、一律にすると個人差が出るので難しいと思っています。

会員のスキルの管理について工夫があれば教え

てください。スキルシートを作っても、実際に役立てるのが困難です。

大熊 行政の仕事は1件で300万等大きいのが、企業と一緒にやり半分になりました。マネージメントと仕事に分けて事前に了解することが必要です。20%や30%等、必要経費を引いて分配します。とくに、成果物の見にくい仕事の場合、時間を計算して配分しないとトラブルになることがあります。はじめに決めることが大切です。スキルシートはあまり役に立ちません。実際によく見極めて決めることが必要です。

参加者 メンバーはそれぞれ得意な分野があり、何にでも対応できる人が不足しています。勉強してくださいと言えるのでしょうか。

大熊 勉強してくださいと言う必要はないと思います。自分で自覚してスキルを磨かなくては駄目でしょう。スキルのある人が不足ならPRして人材を広げていくしかないと思います。

参加者 当初はお金はいらないという人もいますが、交通費等をもらう事で個人の考えが変わってくる人も多いと思います。

参加者 14名位いるが、教室で講座をするとき、どの人が教えてもいいように、できる人がスキルアップの講座をやり、皆のスキルアップを目指しています。

大熊 これから講師をする人に、どのようなことを目指すか、日誌やシート等書いてもらっています。レベル合わせは必要だと思うので、(レベル合わせの研修に)出たくない人には辞めてもらうことも必要だと思います。

WS参加者 各々モチベーションが違うし、変化するものだと思います、それを見極める人がいることが大事だと思います。また 需要にあうスキルがあるか見極める人がいるといいと思います。

参加者 メンバーがオートシェイプの絵が認められて企業からパソコンをもらい、当クラブに置いて楽しんで貰っています。「習うより、慣れる」で、各々が好きなことをやってみればよいと思います。アドバイザーの資格を取る時(初期の頃)、パソコンを使うのはどういうことかと言うだけだったが、マスコミに書いてもらうことにより知ってもらえることができました。何かをやりたいと思ったら、メディアを巻き込むかどうかだと思います。

す。そしてまず体験することが大事だと思います。

大熊 きれいな事だけでなく、ビジネスとして、結果を喜んでもらうことが大切です。ホームページのサイトでソフトを売っていますが、メディアの取材を受けたことがあります。役に立つ情報をホームページで検索して知ってもらい取材を受けました。私の経験では、フランスの国鉄の切符を日本で買う方法を書いたブログに多くのアクセスがありました。このように How To 的にやってみるのもよいです。

参加者 生きがいを持って活動できる場が必要だと思います。自らリーダーシップを取る人、面白いことがあれば協力する人、面白そうだったら参加する等の人がいます。できれば自ら仕事を開拓する人がほしいと思っています。NPO 本体で提案してとってきた仕事と、メンバーが独自に自治体等と交渉してやっている人の割合等、バランス等についてお聞きしたい。

大熊 NPO 本体には理事会と運営委員会があるが運営委員会は活動報告の場で、提案活動を行うことはなかったと思います。会員の何名かが行政等とやっていく中で、仕事や楽しいこと等企画書を書いて、できる人やスキル等それぞれ話し合っていてやります。そのような活動ができる方は結局 2~3 名、5 名以下位しか提案する人がいないのが現状です。

参加者 市と協働でパソコン相談をしているが、協働でやる意義は NPO 法人という公益的な活動をやることで情報公開をするということが必要なわけです。行政に市民の広がり等話しているが、情報の共有が困難です。NPO の中で共有できないのが悩みです。

大熊 行政の仕事は報告書を書いて終わりではなく、行政が NPO に「あなた達が継続してやらなくてはだめですよ」と言いますが、必要な文書を作り上げて終わるのがほとんどです。

参加者 先程からポータルサイトの話もでていますが、1 年に 1 回のワークショップで終わるのではなく、一年間継続してコミュニティ・ビジネスをテーマにして、5 団体 5 人位で情報を出し合っていて、シニアネットの人が誰でも見ることができるようにし、その結果をワークショップの場で話すことができたらと思います。

参加者 Twitter で呟いて、誰でも参加するとういと思います。

大熊 Twitter はまだよくわからない部分もあるので、見極めてからにしたいと思います。Twitter は誰でもはいるので個人の連携はできるが、団体間の連携にどう使うかが問題です。発信する団体がリンクをして、うまくやっている団体を表彰する等して盛り上げてもいいと思います。

参加者 ニューメディア協会の中で連携はとれているのですか。

大熊 次回のやり方は、どのようにしたらいいか、ニューメディア協会の中で考えていると思います。意見の吸い上げはしているので、次に生かすように考えていると思います。

参加者 プレゼンテーション資料と発表の仕方が良かったと思います。

参加者 各氏が言っていたポータルサイトの立ち上げ等、検討していくことを付け加えるようにしてほしいと思います。

参加者 ポータルサイトの立ち上げを、大熊氏に音頭をとって頂くようにお願いします。

参加者 コミュニティ・ビジネスをどのようにしたらよいかを知りたくて参加しましたが、社会貢献するうえで参考になりました。ポータルサイトができたなら、参加して発信していきたいと思います。

参加者 趣旨と違う話の内容としましたが、各々違うという難しさを感じました。個人差をどうしていくか、教えるテキストを作りやっているといいと思います。IT を知らない地域の人達にどのように普及し、仲間作りをしていったらよいか等感じました。

司会者 コミュニティ・ビジネスに関して、プロジェクト管理能力、スキル管理、モチベーション管理等いろいろ問題があり、この問題に関して継続的な議論も必要というのが皆さんの一致のご意見かと思えます。方法論はいろいろあるが、ニューメディア協会が中心となり、一年を通して継続的に議論していくのも大事というのが、本日のディスカッションのまとめということでしょうか。ありがとうございます。

全員 (拍手)

1




シニアネットフォーラム21
in 東京2010

**コミュニティ・ビジネスで
シニアの知見を地域に活かす**



NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川
副代表理事 大熊勇雄
平成 22年2月5日

2



自己紹介

- 名前 大熊勇雄 isao-ok@e-arts.jp
- 所属団体 NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川(略称. SVYK) <http://svyk.jp>
- 住所 横浜市磯子区 海に近い
市民ヨットハーバー、磯子火力発電所
- 趣味 絵(水彩画、アクリル画、PC水彩画)と旅行
- Webサイト 横浜・鎌倉スケッチウォーキング 旅とスケッチ(ブログ) e水彩画

3



市民ヨットハーバー




4



絵と旅行




5



コミュニティ・ビジネスとは

- 地域の課題を、地域住民が、主体的に、**ビジネスの手法**で、解決する取り組み
- ビジネスの手法とは
効率的、責任、継続的、安定的→収益、継続→有償ボランティア
- SVYK CB活動、SOHOビジネス


6



ワークショップの内容

- SVYKの紹介
- 活動の紹介
- SVYKの活動から参考事例
委託事業、協働事業、自主事業
- これからの活動を考える
誰 リーダー、実践している、これから
要望、期待、困っていること
アドバイス、提案→まとめ


7



「シニアSOHO横浜・神奈川」設立の目的

- 会員間の**情報交流**、行政、団体、企業との**協業**の仕組み
- 創業のための自己と全体とが互いに助け合っていく活動の場を提供
- CB活動のための**インフラ**の提供→
会員自ら自主的に活動
- 楽しく、生き甲斐を持って、社会貢献を
- 平成15年6月創立 現在、会員70名

8



インフラとは

- 事務所 事務局機能→事務机、会議スペース、電話、Fax、インターネット環境、コピー機、PC12台、プロジェクタ、無線LAN環境
- 営業活動拠点 ECNプラザ→研修、営業
- Webサイト 広報、会員間情報交換→SVYK会員ルーム、SVYK会計ルーム
ネットコモンズ(NetCommons) 国立情報学研究所開発、次世代情報共有基盤システム(オープンソースソフトウェア)

<p>9</p> <p>SVYKの体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ■理事会 代表理事、副代表理事、理事 ■運営委員会 WGリーダー＋希望者 活動報告、予定、決定機関 ■事務局WG 経理、広報、規則、総会 ■協働WG 行政窓口、WG間調整 ■ビジネスリーガー→SOHOビジネス ■コミュニティビジネスリーガー→コミュニティビジネス 	<p>10</p> <p>ビジネスリーグ</p> <p>シニアの持つ知識・経験・ネットワークをSOHOビジネスとして活動するグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■サビビジネスサポート ■教育情報化WG <p>ファームリーグ</p> <p>SVYK会員間の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ■わかば会 新会 ■デジカメ・スケッチ 
<p>11</p> <p>コミュニティビジネスリーグ</p> <p>シニアの持つ知識・経験・ネットワークをコミュニティビジネスとして活動するグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域情報化WG シニアド養成講座、Webサイト制作、運営、ネットワーク保守等を団体向け支援、個人向けPCサポート ■港北区地域情報化WG センター等のWebサイト制作、運営支援、機器の保守 ■綱島地区センター講座WG 地域向け講座 ■eアートライフWG PC活用講座(水彩画) 	<p>12</p> <p>これまでの活動(1) 委託</p> <p>新たな担い手創生事業「横浜ECN-Plaza事業」→横浜市経済観光局</p> <p>産業支援型NPOの、新たな担い手(シニア)のアイデアやノウハウを活用→中小企業支援、人材育成→経済活性化事業を市と協働で推進</p> <p>期間 2006年11月～2009年3月 金額 300万円、200万円、100万円 テーマ名「団塊の世代」交流拠点の設置・運営 http://www.city.yokohama.jp/ine/keitai/koyo/taisaku/</p>
<p>13</p> <p>これまでの活動(1) 続き</p> <ul style="list-style-type: none"> ■就労相談 人材紹介会社(テンプロス)と連携、相談コーナー開設 ■企業支援 受注管理システム開発、業務パッケージ導入支援(カスタマイズ制作、CADデータ作成、パ) ■実用講座 CADソフト応用講座実施 旭鋼金工業(株)のパソコン 	<p>14</p> <p>これまでの活動(1) 続き</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業支援 9件 就労支援 32名、6名派遣会社登録 NPO協業 2団体と <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎会員のスキル活用 ト、産業カウンセラー、 △事業として採算 事 ○交流会の開催 他国 
<p>15</p> <p>これまでの活動(2) 委託</p> <p>「Open School Platform (OSP)」プロジェクト →財)コンピュータ教育開発センター 学校教育現場へのオープンソース・ソフトウェアベース(Linux)のIT環境導入を支援→6校(高等学校、盲学校)→教師サポート 簡易パッケージ 生徒用PCのみ導入 標準パッケージ 生徒、教師、PC管理、データ管理 拡張パッケージ 校務、PC監視、遠隔サポート</p>	<p>16</p> <p>これまでの活動(2) 続き</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスモデル検証→民間企業、NPO団体のサポート、有償サポート、非営利でのコスト比較、遠隔サポート体制 <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> △プロジェクト管理能力 △サポート範囲 教師の要求レベル △技術レベル 現役時代の専門知識 ONPOとして参加 http://e2e.ccc.or.jp/osp/ 

17

これまでの活動 (3) 委託

エールカード(市民活動推奨カード)事業→
横浜市市民活力推進局
市民活動にエールを送ろう!!
運営主体→市民活動推奨協議会
実施団体→SVYK、I Loveつづき等約20
団体 エールカードを発行



市民活動
元気になれ

17

18

これまでの活動 (3) 続き

地域情報化サポーター養成講座→41名
シニアド養成講座縮小版、サポート技術、
市民活動ノウハウ

成果
市民活動ネットワークの広がり

感想

○推奨協議会事務局運営→ノウハウ蓄積
△3年間実施→制度、運営、効果の見直し
△Webサイト活用→?

18

19

これまでの活動 (4) 委託

シニアコーディネーター養成講座事業→横浜
市教育委員会生涯学習課

シニア世代の地域回帰と社会貢献を手助け
地域活動のノウハウを取得、シニア・コ
ーディネーターとして地域デビューのスキル取
得

基本研修コース

横浜の今とこれからを知る→データでみ
た横浜の現状と地域の変化、横浜市の協働
の取り組み

19

20

これまでの活動 (4) 続き

成果

CB活動実践例
地域デビューのきっかけ

感想

◎講座運営ノウハウ取得
◎CB活動体験→スキルアップ
◎コーディネート能力

<http://svyk.jp/senior-cod/no1-koza.htm>

20

21

これまでの活動 (5) 協働

経済の新たな担い手創生事業「ワークライフバ
ランス向上を目指したテレワークの実施・推
進」→横浜市経済観光局
女性・団塊の世代→人材活用、業務の効
率化・コスト削減、テレワーク実践

NPO法人 I Loveつづき

21

22

これまでの活動 (5) 続き

ウェブタウン横浜3.0

<http://webtown-yokohama.com/>

あったかハート横浜良品館 障害者施設製品

<http://www.rakuten.co.jp/yokogoo/>



22

23

これまでの活動 (6) 自主事業

綱島地区センター PC講座 4年間
港北区地区センター PCサポート 半年
市民塾みらい関内教室 PC講座 4年間
同 和田町教室 PC水彩画講座 4年間
中途障害者地域活動センター PCサポート、
PCお絵かき(リハビリ) 5年間
わくわくサロン 住民とボランティアが一緒に企
画運営、事務局機能を担当、5か所 3年間
シニア情報生活アドバイザー養成講座 80名

24

これまでの活動 (6) 続き

PCサポート 個人、団体、企業

Webサイト制作 NPO法人、地区セ
ンター、コミュニティセンター

城郷小机地区センター



24

25

これまでの活動 (6) 続き

市民憩みらい和田町教室
町の電気店「わくわくサロン」

わくわくサロン
Community Day

わくわくサロンへようこそ

26

これまでの活動 (6) 続き

成果
継続
新規会員 活動の場を提供

感想
◎シニアド講座終了者の活動の場
○リーダー、メンバーのやる気
△マーケット開拓
△講座会場確保
△サポート スキル、責任感

27

これからの活動を考える

誰が
①これからCB活動を始めたい人
②実践している人
③リーダーとしてCB活動をしている人

どんな事が満たされると、より楽しく、有意義な活動になるか
困っている事 ③団体活動維持費、家賃
あったら良い事 ②情報(想い)発信の場

28

これからの活動を考える 続き

CB活動の拡大 PRの仕方
Webサイト、各区民活動センターチラシ配布
<http://svyk.sakura.nc.jp> <http://svyk.jp>

情報を持っている人が、何処でも、いつでも、簡単な操作(ブログ)で、発信
チラシ→時々、効果有り

29

これからの活動を考える 続き

仲間の集め
シニアド前
Webサイ
LDF(ライ
新たな括

横浜ライフデザインフェア
2009 1024~111

30

これからの活動を考える 続き

■個々のモチベーションの違い
何したいの? → 仕事、無償ボランティア、社会貢献、自己の目標実現にNPOブランドを
→ 集客効果、コスト削減
楽しくやろうよ! → 趣味のグループ

■お互いに理解 → 入会時、動機の確認、得意分野 → 営業、技術、コンサルタント、企画、マネジメント

31

まとめと提案

まとめ
①モチベーションの相互理解
②発信能力の向上
③責任能力 実現できるか見極める能力

提案
①シニアド認定者のための「CB活動ポータルサイト」を立ち上げ

以上、発表は終わり

シニアへの IT 講習で生き甲斐づくり 人に喜ばれ自分も喜ぶ

■課題提供者

若井光也 「シニアネット刈谷」代表

■司会 石本幸作 いちえ会

■書記 江頭美弥子 村上恵子 いちえ会

1. 趣旨説明

司会 昨日は、樋口先生や佐々木先生の講演、パネルディスカッションと、シニアネットに関わる話題、最近の動きをいろいろ学ばれたと思います。皆さんはどのような感想をお持ちでしょうか。本日は、こちらにおられます若井さんに課題提供を行っていただきます。テーマは「シニアへの IT 講習で生き甲斐づくり、人に喜ばれ自分も喜ぶ」です。では若井さん、課題提供をお願いいたします。

2. 課題提供



若井 シニアネット刈谷はローカルでマイナーな 1 市民団体であります。今私達が抱えている問題を皆さんの前に提示して、それを話し合うなかで、皆さんから解決のヒントをいろいろ頂いて帰りたいと思っておりますので、よろしく願い致します。

ワークショップ 3 のテーマは、「シニアへの IT 講習で生き甲斐づくり、人に喜ばれ自分も喜ぶ」であります。IT を勉強する方々も喜び、そしてそれを手助けする人の方にも喜びがある、講習や勉

強会、学習会をそのようなものにするにはどうしたらいいかということだと解釈しています。

刈谷市の紹介

それでは準備しましたパワーポイントに従って説明させていただきます。

シニアネット刈谷は愛知県にあります。刈谷市は愛知県のほぼ中央にあり、南北にちょっと長い形をしています。昔の著名な方には、徳川家康の母親の於大の方が刈谷城主の娘さんであります。また機織り機を発明した豊田佐吉が最初に豊田紡織という会社を作ったのが刈谷市であり、トヨタ系企業の本社や主力工場が集中している人口約 15 万の町です。お陰で刈谷市の財政はかなり豊かで、世界同時不況前のデーターですが、全国で 12 番目、市単位では 4 番目くらいです。

生涯学習センターは市に 3 ヶ所あり、南部が 2001 年、北部が 2007 年に開設し、中央が今年の 4 月から使えるようになります。市民がそれらを自由に使えるという意味では、私達は恵まれていると思います。それぞれの学習センターにはパソコン研修室があり、受講者用パソコン 12 台と講師用 1 台、そしてプロジェクターが設備されています。私達シニアネット刈谷は、南部の生涯学習センターができたあくる年の 2002 年から南部生涯学習センターを中心に活動しています。

刈谷市の IT 講習

刈谷市の IT 講習について少し申し上げます、「ふれあいカレッジ市民講座」の一つとして『「IT 講習」 in かりや』というのがあります。2001 年

と2002年は総務省の音頭で全国一斉にIT講習をやった時期かと思いますが、その後もご覧の通り2003年からずっと実施されています。

シニアネット刈谷の活動

私達のシニアネット刈谷は、HPの頭に設立趣旨として「パソコンは感動をあたえてくれます。学ぶ喜びを得られます。パソコンは自分に必要な情報を与えてくれます。たくさん情報があるなかでそれを受け身に使うのではなく自主的にそれを活用していく喜びが得られます。パソコンは人と人との新しい繋がりを作ってくれます。仲間と集う喜びが得られます。」と記載しています。

1クラスは12名で6クラスありまして、各クラス毎週1回2時間、1クラスだけは月に2回4時間で、6クラスが活動しています。クラスには世話役と会計がおり、世話役の方が集まって世話役会を作り、各クラスの情報交換、クラス間の調整などをしております。

一方、シニアネット刈谷も、これで出来てから7年になるわけで、シニア情報生活アドバイザー養成講座を受けてアドバイザーになられた方が何人かいます。そういう人たちが集まってアドバイザー会を作り、その中には会計、会長、研修担当がおります。

ここではクラスの枠を超えた活動の企画や運営、具体的に言いますとアドバイザー養成講座、アドバイザーのスキルアップ研修会など、また外部からも講師を呼んで研修会、暑い時にどのクラスも1ヵ月夏休みにしていますので、その間に夏期講習会を行ないアドバイザー会がその講師を務めております。

また市主催のイベントである「福祉健康フェスティバル」などに参加し、各クラスの活動発表をしたり、名刺を作って希望者に無料で配布したりしています。その他に1年おきに周年記念総会と、親睦旅行、バス旅行などをやっています。

司会者 ありがとうございます。刈谷の地理、歴史背景から始まり、設立されたシニアネット刈谷は7年間着実に運営され実績も付けられています。

それでは若井さんからまず課題を提供していただき、その後皆様からご意見、ご提案をいただく

討論スタイルで議事を進めてまいります。



3. 質疑応答

課題1「修了型と同好会型」

若井 シニアネット刈谷は、勝手につけた名前ですが同好会型です。一方、修了型というのはパソコンスクールのように、10回でエクセルの基礎講座とか、何回やると修了という形のもので。私どもは、いったんグループを作ったらそのグループをずっと続けていくということで、もう7年ですが同好会型の形をとっています。始めた時からずっと活動している人も半数位いるかもしれませんが。皆さんのところは、どちらなのでしょう？それぞれメリットとデメリットがあると思うのですが、そのへんのお話をお聞かせいただきたいと思えます。

あいてい塾ぐんま 公民館の修了型講習の後、希望者がサークルを作り、公民館の場所を予約してもらい月2回サークル運営をしています。NHK文化センターや障害者センターの講師もしていますが、こちらは修了型です。それが終わったら地域のサークルを紹介しています。

修了型、同好会型の他にもう一つ、Q&Aで相談する場を月1回決められた曜日・時間で開催しています。定期的に来られないが分からないことで相談したいという方のため無料でやっています。3つのパターンで臨機応変に、あまり枠に入れる必要はないと思うのです。

若井 同好会型だと途中から入ってくる人とのレベル差があって、欠員ができた時に新しい人が入りにくいということがあります。入れたけれども付いていけないで結局辞めてしまったり、そのへんが難しいですね。

あいてい塾ぐんま サークルが 50 位あるので、レベルに合わせたところを紹介しています。

若井 サークル自体の運営は、各サークルが担当しているのですか。

あいてい塾ぐんま そうです。サークルでも運営する資金があるので、私どもは 10 名を最少限として 10 名だけの謝金分をいただき、10 名を超えた分についてはサークルで運営費に使ってもらう形にしています。多ければ多いほどサークルが運営しやすくなる仕組みをとっています。

シニアネット八王子 私のところは教室型です。月曜から土曜日まで毎週教室をもっています。八王子・日野・多摩の 3 教室で生徒数は 700 名位、講師は 70 名で、勉強の仕方は統一されたものでやっています。また市から委託を受けて、一人親のための就職支援を年 3 回やっています。



つくばパソコンボランティアサークル 私達は同好会みたいな集まりで、会費制でやっています。参加する人が年 1,000 円を払っています。私の方で修了型と考えるのは、市でもっている各公民館で講師が有料で教えている講座です。その他にボランティアで、エクセルの勉強をしたけれど忘れてしまった方などのサポートをしています。

収入は社協から年間 2 万円位のサポートや、システム等の若干の援助はありますが、基本的にボランティアの形でやっています。

同好会型といったとき、会費はどうなっているのですか。

若井 クラス毎の独立採算でやっています。月 1,000 円か 2,000 円、そのほとんどは施設利用費にあてています。指導していただく方には、夏休みに入る前とお正月の前に、印刷費や資料作りな

どいろいろありますので、1 万円ずつ、お礼という形でだしています。

とかちシニアネット 私どもは自前で教室をもっていて、パソコン 47 台所有し、毎日講座を開いています。入会費 3,000 円、会費 12,000 円、受講するたびにパソコンの使用料で 200 円をもらう形でやっています。講座の企画は 2 ヶ月位前に企画して皆さんに提示し、年間延べ 3,500 名位の方が受けています。

課題 2 「学習会のテーマの選定とマニュアルの作成」

司会 それでは次のテーマに移ります。

若井 2 つ目は「学習会のテーマの選定とマニュアルの作成」です。うちでは、クラスから今度こんなものを作ってほしいという話がでたらそれを取り上げるとか、講師が自分の関心や得意分野で決めたり、シニアネット刈谷の HP に資料室を作っておりまして、そのものを使い印刷して勉強する形をとっています。

皆さんのところでは、講座のテーマはどなたがどのように決めているのでしょうか。シニアにはどんなテーマが喜ばれるとお考えでしょうか。

シニアネット八王子 中級まではテキストを使っています。マウスの持ち方など、テキストもきちんとしてよいものがあります。そういうものから入って、ワードやエクセル講座のなかで、名刺・カレンダー・クリスマスカード・年賀状などをタイムリーに作ったりしています。中級以上、応用については各講師がテキストを作っています。講師でありながら、よそのクラスのアシスタントもやるので、テキストも共有できるメリットがあります。

若井 テキストを使うと簡単ですが、シニアの方はテキストを使うとマンネリ化するとか、やはり 1 回毎にこれをやったという、例えば今日は名刺ができたとか身近なところに達成感みたいなものがあつた方がいいようです。そのためテキストを使わずに毎回小さなテーマを決めてそれをやっています。今日は何をやらしてもらえのだろうとわくわくした気持ちが大事かと思っています。始まるまで受講者には今日何をやらしてもらえ

わからない、テキストを使うとそれがわかってしまうので、そのようにやったりしています。

テキストを使ってやっていくと体系的に勉強ができ、新鮮味がやや薄れるが、タイムリーなテーマを選んで、同時に並行してやっていくという点が大変参考になりました。

とかちシニアネット IT 入門編についてはテキスト、ワード・エクセル初級編は「500 円でわかる……」テキストを使用しています。

それ以上になりますと、講師の方がそれぞれテーマをつくって資料を作り、その資料は 1 ページあたり 10 円で受講者が払います。資料作りは講師の勉強にもなり、他の講師への刺激にもなりと理解しておりますので、受講する人にもお金を払うということにご理解をいただいています。

司会 活発な意見交換とご提案有難うございました。

課題 3 「マンネリ化の打破」

若井 3 つ目の課題としてずっと同じ顔触れで何年も続けていると、どうしてもマンネリ化してしまいます。私達のところでは、講師の交流といいますか、ある 1 人の講師がずっとそのクラスをみるのではなく、隣のクラス、他のクラスへ行き、クラス間を渡り歩くということもあります。また会員が輪番でミニ講座を担当することもあります。

以前希望者を募ってスカイプを利用した勉強会をやりました。これはマンネリ化の打破には非常に可能性のある方法だと考えています。

他地域との交流についてですが、埼玉県のあるシニアネットからお話をいただいたことがあります。しかし、交流の仕方のいいアイデアがなく、そのまま立ち消えになってしまいました。皆さんのところでマンネリ化の傾向が見られませんか。もしあればどんな工夫をしていますか。

とかちシニアネット ワードの講師を 2~3 年やっていた方に、今度はエクセルに回ってもらったり、エクセルを担当していた方がワードに、あるいはパワーポイントのベテランの講師が今度は次の人を講師にして、サポートにまわるということで、講師のローテーションを図っています。すべての講師が必ず 1 年間でワード・エクセルを担当するというので取り組んでいます。

あいてい塾ぐんま 私のところでは、テキストは自前で作っています。どの講師も全部のテキストをやれるということを前提にしています。講師が入ってきたばかりの時には、まずは 3、4 回見習いで先輩の教え方を勉強して、それから実践にでます。ボランティアでやっていますので、都合の悪い時には欠席がでるわけで、その時には誰でも応援に行かれるような形をとって運営しています。

マンネリ化を防ぐことについては、季節に応じて花見に出かけたり、忘年会をやるなどで普段話のできないことを話題にして、それをキャッチアップして次回に活かしていくというような進め方をしています。

司会 マンネリ化の打破にご苦労されておられる皆さんのご意見や提言大いに参考になるところだと思います。それでは次のテーマに移らせていただきます。

課題 4 「初心者への支援」

若井 初心者への支援ですが、皆さんはどのようにお考えですか。募集の仕方などをお聞かせください。また、シニアネット刈谷の会員のなかには、外部で障害者へパソコン支援をしている人がいます。その泉恵子さんに参加してもらっていますので、お話いただきます。



泉 私は若井さんの「パソコンを通じ、パソコンは一つの道具であって、それにより皆がもっと生き生きできるのではないか」ということにとっても共鳴を受けました。リハビリを兼ねた生甲斐づくりができないかと、4 年前に障害のある方を対象にパソコン教室を開きました。リユースパソコンを障害がある方に提供してくれる企業がありまして、毎年 3 台ずついただき、今は充分揃いまし

た。車イスだったため学校に行けずにローマ字を知らないという方、仕事中に倒れて脳に障害を持ったためリハビリで指を動かしたい方、鬱の病気で外へ出られないご主人に代わってパソコンを習っている方、そうした方々と一緒に楽しくパソコンを使っております。

シニアネット八王子 市の広報には1回しか募集を載せてもらえません。それだけで人を集めるのは大変なので、あとは公民館や福祉センターなどに、手作りの紹介状を持参して、おいてもらったり掲示してもらったりしています。全戸配布の地域新聞にもたまに掲載しています。1時間あたり500円と他の講座と比べて安いので、年2回募集していますが、それでなんとかやっています。

司会 時間の設定もありますので次の課題テーマに移ります。

課題5「行政との協働」

若井 行政との協働ですが、今のところ私達はNPO法人ではありませんので、行政から話がきけません。私達を使ってくださいと市に行きますと、市がやっている講座は必ずしもシニアを対象にしていなくて、若い人たちもたくさんいるので、そういったところであなた達シニアを講師として使うわけにはいかない、シニアを対象にした講座を企画することがあれば、皆さんのところへ話を持っていくことも考えてみますといわれました。

IT 未来塾ぱらっと三茶 シニアネット刈谷さんはNPO法人化について何かこだわりがあるのですか。

若井 実は愛知県半田市に「NPOシニアPCマザーズ」というシニアのIT支援のNPOがあり、私も何度も法務局に行ったりしてその立ち上げに関係しました。確かにメリットもあるのですが、毎年の会計報告などNPOにした場合のあれこれを考えると、一気にNPOということに踏み切れないでいます。

司会 こちらのワークショップの最終テーマの課題提供をお願いいたします。

課題6「魅力ある講座と生き甲斐の得られるシニアネット」

若井 「魅力ある講座と生き甲斐の得られるシ

ニアネット」ここが一番皆さんにお聞きしたいところなのですが、どういう講座を開いたら魅力的になるか、また生き甲斐を得られるようなシニアネットというのはどういうものなのか、皆さんはどのようにお考えですか。

ちばインターネット普及会 私達はイベントと称するものを年間6回やっています、担当の講師にグループを作ってもらい、全部任せるといってやっています。

うちは主婦が多いので、今迄やったことのない事をして達成感を得られるということで、何とかしのいでいるのが現状です。長く12年も続けている方もいて、その方達は学ぶことはないのです。でも先生をするのはいやなのですね。時たま何にも分からない方がみえることがあって、そんな時には、リーダーさんではないのですが、傍に行き話を1対1で目配せしていただくという方式をとっています。ご参考になればと思います。

IT 未来塾ぱらっと三茶 これがまさしく私どもで抱えている問題なのです。どういう講座を持てれば多くの受講者に来ていただけるのかいつも考えています。最近「面白パソコン教室」みたいな形で、ITの活用の分野でラベル作りをしたり、年賀状を作ったり、名刺を作ったり、作品作りの場ということで皆様に提供しているのですが、幸いいろんな形で皆さんに参加していただいています。



そんなホットな話題提供ができるようなIT支援活用団体でありたいと思っています。それには使命感をもったリーダーが求められているのですが、やはりリーダー不足なのです。私どもの団体も、シニア情報生活アドバイザーの資格をもった

ものが中心に活動をやっているのですが、講師の意見がいろいろ違って、単にボランティア的にやればいいのか、もうちょっと社会貢献したいとか、なかなかコアになっていただけるプロジェクトリーダー的な存在の方が集まらないのです。役員自らいろんな講師をやって会をなんとか維持している現状なのです。

若井 シニアの講座ですから私はまず気楽に安心して参加できることが大事だと思います。



シニアネット刈谷では、現役の時には何をやってきたとか、女性にも何歳になるかなど一切聞きません。クラスの中に権威だとか遠慮などがでくるといけないと思います。

情報セキュリティについても安心してパソコンを使って参加できるように、また成果物があるとシニアの方はそれだけで達成感が得られますので、成果物の得られるような講座、これが結局喜びを見出す環境になるのではないかと思います。不安を抱かせないようにゆっくりやって、自分も付いていけるという安心感を持ってもらえる講座が大事だと思います。

あいてい塾ぐんま 新しい先生にはテキストから脱線しないように指導しています。テキストは受講生が自分の家に帰って復習ができるような形にし、予習はしなくていいから、復習はやった方がいいですよと教えています。新しい事を覚えたら、必ず1冊の決められたノートに日付順に書いておき自分で分からない時には、自分のノートを見なさいと言っています。教え方はやさしく親切に、ここに来て良かったという気持ちをもってもらえるよう、受講生と一体になった雰囲気を作ることを心がけています。

しながわシニアネット 私はアドバイザーに成り

立てなのですが、今日のテーマの「人に喜ばれ、自分も喜ぶ」ためにはテキストを使うことも含めて受講者がどのように感じ、満足したかを確認するためにアンケートは大変有効だと思います。

若井 ありがとうございます。指導を受ける側の喜びはわかるが、指導する側の喜びはどこにあるのかということを最初にいわれたと思いますが、私は喜びとはこういうふう考えているのです。

人は生まれると、やがてハイハイができる、お座りができ、やがてよちよち歩きができる。昨日までできなかったことができるようになり、分からなかったことが分かるようになる。赤ちゃんは体中でその喜びを表現します。それは人間本来の喜びだと思うのです。

学校へ行くようになると、早く覚える子は頭がいいとか、たくさん覚える子が優れているとか、人間評価の基準になってしまい、さらに受験や就職など打算と結び付くと、本来の学ぶ喜びはだんだん薄れてしまいます。ですから、その喜びを忘れ自分には無縁だと思っているシニアがパソコンに触って、こういうこともできる、こうするところなのだと思わずに喜んで、それは人間本来の喜びを再び取り戻した姿だと思うのです。

これは赤ちゃんの喜びだけではなく、赤ちゃんの進歩を喜んでお母さんの方にも満足があるわけで、教える側の喜びは、そのお母さんの喜びと重なると思うのです。シニアがパソコンで再びそういう喜びを感じられる、それが根底になれば魅力的な講座やシニアネットにならないでしょう。こういうこともできるのだよと、だんだん引っ張って行ってあげる、そういう喜びが教える側にはあると思います。



4. まとめ

司会 昨日の基調講演では教える方から今度は発信する側へ時代の流れにあることを体感する中で我々はどうしたら良いのだろうかとなります。

先程、八王子の方からツイッターなど新しいテーマにも取り組まれているとのことですが、私もいちえ会も同様に宇宙からの野口飛行士のつぶやきも連日受け止めております。そして新しいことに関心を持ち、教える心つもりとしてはおごらず、教えたことがどのように受け止められているかアンケートなどで確認します。そして、これらを反映して自己研鑽してレベルアップさせる心構えも必要です。

さらに、シニアネットのリーダーとしてホットな話題とか、テーマに取り組んで使命感を持って教えられるリーダーやコアになるスタッフ作りが大事であるという指摘は、大変意味のある重い発言でした。



課題 1「修了型か同好会型か」

- ▶ 毎回テーマをきめてすすめる講座とテキストを使いそれにそって進める講座にはそれぞれにメリット、デメリットがある。
- ▶ どちらか一方に決めるのではなく、テキストを使いながらタイムリーなテーマを織り交ぜて講座を進めるのが効果的ではないかとの意見が多かった。
- ▶ いずれにしても、基本は習う人達が楽しく、かつそれをもとにして触れ合い、友達作りができるようなそういう修了型、同好会型であってほしいと思う。

課題 2「マンネリの打破」

- ▶ 講師を固定化するのではなく、ローテーションを図る。

- ▶ オフ会などで意思疎通を図ることも大切。
- ▶ 他地域との交流を図ることも一つの方法だが、やり方などは今後の課題である。
- ▶ シニアネットの組織がうまく機能していくことに期待。
- ▶ 時にはアンケートをとって、受講生の満足度を確認することが必要。

課題 6「魅力ある講座と生き甲斐の得られるシニアネット」

- ▶ 常にタイムリーでホットなテーマを取り上げる。
- ▶ 具体的な成果物を作ることによって、満足感を得られるようにする。
- ▶ 使命感を持ったリーダー、コアになってくれるプロジェクトリーダーの育成が望まれる。

終わりにあたって

司会 最後に課題提供された若井さんからご感想を頂戴いたします。

若井 長時間にわたっていろんなことをお聞かせいただきました。私達が困っていることを解決するヒントをたくさんいただきました。生き甲斐とか喜びということが、このワークショップのテーマでありましたが、よく生き甲斐とは何かと言われますが、常識的にはお金と健康と仲間だなどといわれます。

この段階で止まっていると満足感はあるけれども充実感がないのではと思います。それにプラス自分が成長し進歩しているという実感、それがパソコンを学ぶことによって得られる喜びではないかと、その喜びというのが人間本来持っている喜びであり、それが生き甲斐に繋がっていくのだと思います。アドバイザーなど手助けをする側はパソコンの習得を通してそういうことを感じてもらいたい、それを絶えず頭に置きながらシニアネットを運営していきたいと私は思っております。今日は本当にどうもありがとうございました。

司会 本日は少々遅れてのスタートでしたがこれだけ多くの皆様にお集まりいただき、若井さんの提供された課題に誠に積極的に論議を展開していただきました。皆様のご協力に感謝しつつ閉会といたします。

1

ワークショップ【テーマ3】

シニアへのIT講習で生き甲斐作り、人に喜ばれ自分も喜ぶ

課題提供
「シニアネット刈谷」若井光也

2

刈谷市の紹介

- 刈谷市は愛知県のほぼ中央に位置し、トヨタ系企業の本社や主力工場が集中している人口約15万人の町です。



3

刈谷市の財政力



「自治体ランキング」平成19年度

4

刈谷市の生涯学習センター

南部 2001年開設 中央 2010年開設 北部 2007年開設



たんぽぽ みなくる かきつばた

5

刈谷市主催のIT講習

～ ふれあいカレッジ 市民講座の一つとして ～

「IT講習」in かりや
・2002年までは1講座＝4回、1回＝3時間
・2003年以降は1講座＝12回、1回＝3時間

2001年	152回	2006年	168回
2002年	84回	2007年	168回
2003年	168回	2008年	120回
2004年	168回	2009年	96回
2005年	168回	2010年	

6

シニアネット刈谷

設立趣旨

- 1) パソコンは感動を与えてくれます。(学ぶ喜び)
- 2) パソコンは自分に必要な情報を与えてくれます。(情報を活用する喜び)
- 3) パソコンは人と人との新しいつながりを作ってくれます。(仲間と集う喜び)

7

世話役会

- 各クラスの情報交換、等

ひよこクラス	各クラスの世話役六名 + 世話役代表・会計
フレンズクラス	
ウェンズクラス	
ジュニアクラス	
ドキュメントクラス	
さくらネットクラス	

8

アドバイザー会

「シニア情報生活アドバイザー」で構成

会計 会長 研修担当

☆ クラスの枠を超えた活動の企画運営 ☆

- ・アドバイザー養成講座
- ・スキルアップ研修会
- ・夏期講習会
- ・市主催のイベントへの参加
- ・周年記念
- ・親睦旅行

9

課題 1

修了型と同好会型

- 1) **修了型**・・・実施期間(回数)を決めて、大きなテーマ(エクセルの基礎、ホームページ作成、など)についての講座を開き、受講者を募集し、修了したらクラスを解散する。
- 2) **同好会型**・・・毎回小さなテーマ(写真を縮小する方法、名刺作成、など)について学習し、退会しない限り同じクラスで活動する。

皆さんのところでは実施されている講座はどちらのタイプですか？ そのメリットとデメリットをどのようにお考えですか？

10

課題 2

学習会のテーマ選定とマニュアル作成

- 1) クラスから学習したいテーマを募る。
- 2) 講師が自分の関心、得意分野で決める。
- 3) 「シニアネット刈谷」のHPにある「資料室」から選ぶ。

皆さんのところでは講座のテーマは何方がどのように決めていきますか？シニアに喜ばれるテーマはどんなものとお考えですか？

11

課題 3

マンネリ化の打破

- 1) 講師交流
- 2) 会員が輪番でミニ講座(15～30分)
- 3) オンライン勉強会(Skypeを利用)
- 4) 他地域のシニアネットとの交流

皆さんのところではマンネリ化の傾向が見られますか？ もしあれば、どのような工夫をしておられますか？

12

課題 4

初心者への支援

- 1) 行政の支援
- 2) 魅力ある(喜ばれる)講座作り
- 3) 生き甲斐の得られるシニアネット作り

皆さんは初心者への支援(ITの普及)をどのようにお考えですか？ 具体的な方策があったら教えて下さい。

13

課題 5

行政との協働

```

graph TD
    IT[IT講習] --> Admin[行政]
    IT --> Learning[学習会]
    Admin <-->|協働| Senior[シニアネット刈谷]
    Admin --> Learning
    Senior --> Learning
  
```

皆さんのところでは行政との協働をどのように進めてみえますか？

14

課題 6

魅力ある講座と生甲斐の得られるシニアネット

- 1) リーダーの使命感
 - ・シニアへのIT普及に情熱と奉仕の精神を持ったリーダー
 - ・仲間との成長、進歩を共に喜べるリーダー
- 2) 使命感を持ったリーダーの確保
 - ・シニア情報生活アドバイザー養成講座の内容

皆さんは「講座を魅力的に」「シニアネットを生き甲斐を得られるものにするためには何が必要だ」とお考えでしょうか？

15

生き甲斐

・お金 ・健康 ・仲間
+

成長、進歩の実感(学びの喜び)

↑

パソコンの習得

↑

シニアネットの支援

16

有難うございました。

行政との協働を促進し 地域社会のために

■課題提供者

千品雅彦 NPO法人 つれもてネット南紀熊野

■司会 小原洋一 いちえ会

■書記 南部淑子 前田幸子 いちえ会

1. 趣旨説明

司会 『行政との協働を促進し、地域社会のために』というテーマで課題提供の千品雅彦さんをお願いいたします。千品さんには冒頭に「NPO 法人つれもてネット南紀熊野」代表理事としてのご経歴等をお話ししていただいてから本題に入らせていただきます。

問題提起として PowerPoint で資料を用意していただいていますし、皆さまの方にもお手元に資料を配布してあります。

2. 課題提供



私が活動しております紀伊半島の和歌山県南部、資料では温泉マークを付けております。世界遺産の熊野古道があり、西の方には白浜温泉地があります。羽田から南紀白浜空港まで片道1時間で来られるところで、時間的には東京から短時間で移動できるところで活動しています。

本題に入る前に、“「日だまりサロン」のいとな

み”という一文をお読み願います（次ページ囲み参照）。行政との協働でやっております事業ですが、これにタッチしていますシニア情報生活アドバイザーが地域の広報紙に投稿したものです。これをお読みいただくことで、活動の様子がより理解しやすいのではないかと思います。

私どもが活動している地域は田舎なので、皆さんの活動なさっている街中と違って文化が違ったり、目線も違うかも知れません。そのあたりをご了承願えればと思っております。また、「日だまりサロン」はこの地域のシニア情報生活アドバイザーによるネーミングです。みんなが集まって「井戸端会議をやりましょう」という感じで作られました。

この活動では IT とか ICT という言葉をできるだけ使わないようにしています。横文字を入れることで山村集落の人が近寄ってこないのではということで、多少ニュアンスが違ってもいいかもしれませんが、あえて入れないようにしています。

私どもが活動しています地域は第一次産業農林漁業を中心に生活しているところです。世界遺産がありますので、観光情報を発信などして、でき



★「日だまりサロン」のいとなみ ★

(NPO法人つれもてネット南紀熊野)

「それってバーですか、それとも飲み屋ですか？」と尋ねられました。

バーでも飲み屋でもありません。これは田辺市が総合計画の中で掲げている「魅力あふれるまちづくり～活力ある山村づくりの推進～」事業のひとつなのです。本宮、龍神、中辺路、大塔地区は、インターネットやテレビなどに関してはよい環境が整えられています。これらの情報・通信技術を使って生活を便利に楽しくできないかと始められた事業と聞いています。それぞれ、龍神サロン、本宮サロン、中辺路サロンと呼ばれているのですが、大塔地区（三川）では「日だまりサロン」と呼ばれています。

昨年十月からのサロンの様子をお知らせします。サロンには、パソコンが二台、四十六型のテレビが一台、プリンタ、スキャナ、ゲーム機とそのソフト、テレビ電話があります。一台のパソコンはテレビに接続されてインターネットの画面や文章などがテレビの画面いっぱい大ききで見ることができるようになっています。「インターネット」を使って見ようということから始まりました。サロン利用者の中には、すでにインターネットで買い物をしている人もいましたが、初めてだという方がほとんどでした。最初は、私たちがヤフーやグーグルの地図でサロンのある合川付近を検索したり、また訪問されている人の家の周辺などを検索して「こんな事もできるんだ」と説明したり、びっくりしてもらったりでしたが、すぐに数人で釣りの情報や野球選手のことなど興味のあることを調べて賑やかなサロンにしてくれました。インターネットは、人それぞれが持っている願いに応えてくれるすぐれたツールですね。ディサービスでカラオケをなさっている方が「なかなか歌を覚えられない」と言っていたのでユーチューブで一緒に探したり歌ったり、テープに入れたり、韓国からこの地域に嫁いでこられている女性が長い間毎晩夜なべを作ったという手芸品（ねつけ）をもってきて、「売れる場所を探して!」「日本語を教えてくださいるところはどこに無い?」「黒文字の原木を買ってくれる所を探して!」と訪問されました。インターネットでフリーマーケットを探したり、チラシを見たり、行政局で探してもらったりと、いろんな情報から何とか要望に応えることができました。文章を打つ練習をしたいという人も何人かサロンを利用してくれました。「ワープロで年賀状を作ったことがある」「全く初めて!」、高齢者にとって「ローマ字を使って」というのはちょっと抵抗があります。何しろ、日常生活の中ではあまり使うことがありませんから。けれども、ローマ字とカナの変換表をとにらめっこをしながら熱心に取り組んでいただきました。次は、スキャナに驚きました。古い小さな写真を、A4やA3の大きさにまで引き伸ばしてきれいに見せてくれたのです。昔の大事な写真をもっと見やすくします。ゲームも結構楽しいものでした。ゴルフ、ボーリング、テニス、野球、卓球、ほとんどのボールゲームを楽しむことができます。ヨガ、筋肉トレーニング、体操、ジョギングなどもできます。漢字など国語の勉強、算数、社会科理科などの学習もできます。このゲーム機一台とソフトがあればみんなで楽しむことができます。新しい試みとして「テレビ電話」です。市では、五十数台のテレビ電話を区長さんや地域サポーターのお宅に設置しました。このテレビ電話はインターネットに接続されていますので、お互いに通話できるし、また、この電話の画面でインターネットを楽しむことができます。画面が小さいことがつらいところです。この電話でインターネットを楽しんでくださっている区長さんもおられます。いま、私たちの身の回りには本当にたくさんの情報があふれています。しかも、ほとんど一方的に流されてくるものばかりです。テレビも、新聞も、ラジオも、インターネットもたくさんの情報を私たちに投げかけてきます。すべての情報をただ受け入れるのではなく、情報を選ぶ力が必要になってくるのではないのでしょうか。サロンが、そんなお手伝いができれば最高です。

るだけ多くの人に来ていただき、山村集落の活性化を図ろうという取り組みもしています。

数人しか住んでいない山村集落にもブロードバンドが行きわたり、また、立派な道路も近くまできております。この環境を利用すれば先進的な生活ができるので、つまり行政がインフラ整備して、それを利用する仕方をシニア情報生活アドバイザーが中心になって山村集落に出向いて行き、パソコン教室的ではなく、マンツーマンでケアしていく取り組みをしています。

「田辺市 情報交流サロン」のようす(1)

「田辺市情報サロン」のようすを写真にしたもので、4ヶ所ご紹介します。龍神サロンでは、地域のシニアの方が集まってお茶を飲みながら世間話をしたり、パソコンを使って料理レシピ、短歌集、アルバムなどを作っています。地域のシニア女性が元気になるサロンです。

「田辺市情報交流サロン」には、46インチのテレビが設置してあります。ここ本宮サロンでは、お父さんはパソコンを、一緒に来られた娘さんはゲームをしているようです。

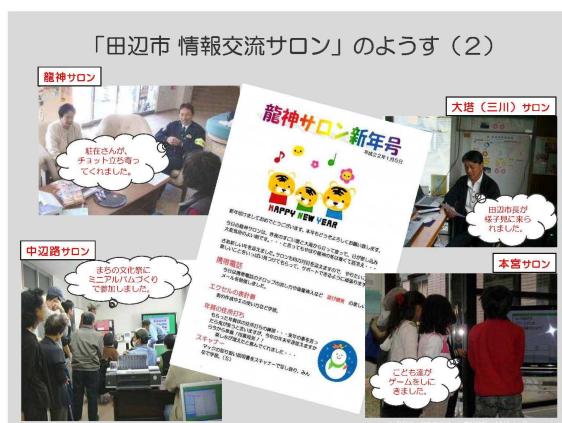
サロンがある地域のモデル家庭には、テレビ電話が設置されています。中辺路サロンでは、区長さん宅を中心に約10軒に設置しています。

田舎の高齢者にはパソコンのキーボードやマウスがなかなかなじめないようです。でも、テレビのリモコンや携帯電話は日頃からよく使っています。家庭には地デジ化の流れもあって大画面テレビが仏壇の間に鎮座しているのをよく見ます。



テレビを見ながら元気づけられているとか、テレビの音で泥棒に入られないといったところ。ここ大塔サロンでは、テレビ番組を見ているのではなく、テレビでインターネットを見ている。

「田辺市 情報交流サロン」のようす（2）



駐在さんが集落の中を見回りをしています。駐在さんが来てくれて、名刺の作り方を教えるということもあります。また田辺市長が、我々の設置しているサロンに来てくれました。そんなことで地域が元気になってくれています。

各地域では文化祭があります。中辺路サロンではミニアルバム作りをやるというって、現場にシニア情報生活アドバイザーが入り込んで活動しています。子供たちもゲームをするために遊びに来ています。子供がゲームをすることで、お父さんやお母さんも来てくれます。行政の施設に子供たちがゲームをしに遊びに来るといことは、都会的感覚で言うと成長の妨げになるのではないか、あるいは個人情報の問題がでてくるのでは、といったことが気になるのですが、ここではわりと寛容です。

「田辺市 情報交流サロン」のようす（3）



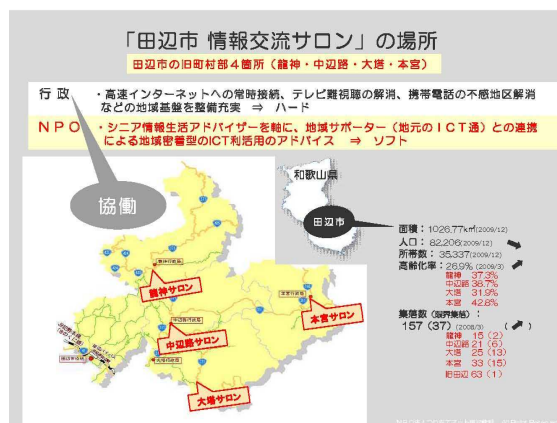
それぞれの地域では、地元の地域サポーターがいます。その方たちがブログでいつも地域の様子を発信しています。

市の広報紙の中に私たちが作ったチラシを挟み、

全市民に行きわたるように行政も一緒に動いてくれています。こういうやり方で行政との協働を進めることについての意識の啓発を図っています。

「田辺市 情報交流サロン」の場所

田辺市は旧町村部4ヶ所が統合してできた新制の市です。田辺市全体では面積は約1,000K㎡で、東京の山手線の内側ほどだと思います。人口は約82,000人です。所帯数は約35,000戸で、高齢化率は田辺市全体では26.9%ですが、赤で書いてある地域では高齢化率が40%近くになっています。市の157の集落のうち約30%近くの集落が限界集落になりつつあります。



主にハード面の地域基盤の整備を行政が担当しています。高速インターネット網をはり、地デジの環境を整えて、携帯電話の不感地帯を解消するなどしていますが、ほぼ終えたようです。

シニア情報生活アドバイザーの役割は、地域基盤が整備された山村集落で地域サポーター（地元のICT通）と共に、その地域のICTリテラシーを向上させることです。高齢化が進んでいますので、シニア情報生活アドバイザーの目線はますます大切になっています。

「田辺市情報交流サロン」の機器設置イメージ

情報交流サロンの機器設置イメージですが、これを一つの集落と見ていただければよいのですが、それぞれの地域には行政局（地域の連絡拠点）と公民館があります。そこに社会教育担当や産業政策担当の職員などが地域支援要員として配置されています。

「情報交流サロン」はそんな地域の連絡拠点の役割をもつ施設の中に設置されています。ゲーム

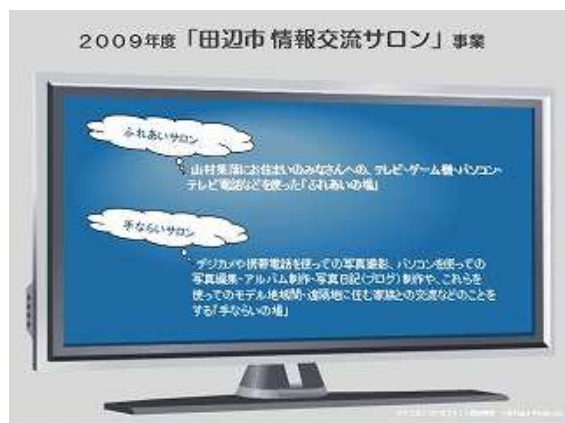
機、テレビ（46インチ）があり、これらはインタ



ーネットに接続されています。又、テレビ電話は集落内の連絡をとるために設置されています。

生活の中でICTを身近に感じる世界を作り上げねばなりません。テレビのリモコンはパソコンのキーボードよりお年寄りには馴染みやすいようです。

2009年度「田辺市 情報交流サロン」事業



この事業には「ふれあいサロン」と「手ならいサロン」の2つの柱があって、それぞれの雰囲気作りをしています。

「ふれあいサロン」では、テレビを使ってインターネットをする。ICTに慣れてもらうためにWiiなどのゲーム機の使い方を教える。日常雑貨品など買い物のお手伝い、いろいろな調べ物をするお手伝いをシニア情報生活アドバイザーがしています。

「手ならいサロン」では、地域ではパソコンに精通した方が結構いらして、そういった方にはブログを一緒に作ってみるとかして、情報を受ける側から情報を発信する側としてのスキルアップのお手伝いをしています。

「ふれあいサロン」のことを

もうすこし具体的に言いますと、シニア情報生活アドバイザーがお手伝いします、といっても「インターネットをテレビに繋ぐのはどうやってするのか」とか「テレビのリモコンを使ってインターネットをどのように見るのか」いろいろ聞かれます。このような問題でも、シニア情報生活アドバイザーがしっかりと押さえています。

ゲーム機もそうですが、ICTに慣れてもらうために、また、お買い物のお手伝いや料理のレシピを調べることなど、ものすごくレベルの低いことですが、シニア情報生活アドバイザーがお手伝いしています。

「手ならいサロン」では

情報を発信する側としてのスキルアップに取り組んでいます。たとえばブログ制作は、シニア情報生活アドバイザーの得意とするところですので、一緒に作業をしています。ただ、教えるのではなく一緒にブログを作っています。

「いくつかの気づき」(1)

今回のテーマは「行政との協働」ということです。私たちは、行政職員が私達と一緒に汗をかいて欲しいと思っています。

行政の若いパワーをいただかないと成り立たないという部分もあります。例えば、行政職員が直接、各家庭のテレビ電話の設置作業をしています。広報紙に我々のチラシを折り込んでもらうことで信用性が高まり、効果が大きく、行政の目線にも近づくことができます。



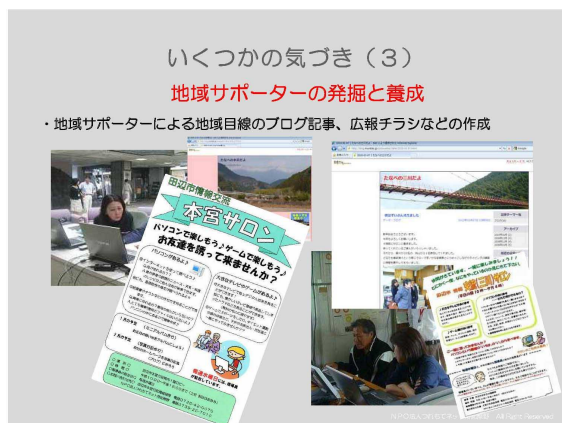
積極的に地方紙にチラシを入れることを行政がやってくれますので、私どもNPOが広報活動やるより効果が大きいのです。

「いくつかの気づき」(2)



シニア情報生活アドバイザーが、「やりがい」を感じるサロン運営に持っていかなくてははいけません。市長も見回りをしてくれるのですが、テレビ電話を利用して「どうですか～」と声をかけてくれます。そんなとき、町全体が一生懸命やっているという意識をもつので大事なことだと思いました。また隠れたお宝（付加価値のある情報）を地域サポーターと一緒に再発見し、情報を発信するお手伝いをするのでやりがいが出てきます。

「いくつかの気づき」(3)

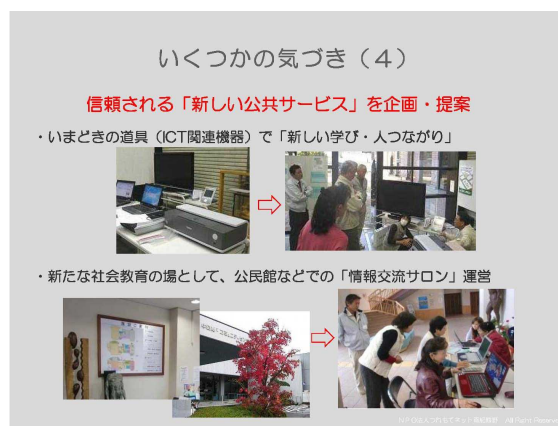


地域サポーターによる地域目線で、お隣さんに声をかけていくような感じでブログやチラシを作成しています。地域サポーターの発掘と養成は大事なことで、これからもこういう人たちを地域に作っていかなくてはいけないことに気づきました。

いくつかの気づき (4)

信頼される「新しい公共サービス」を企画・提案することこそ、私も NPO 市民活動側の役割だと思います。町の人がこんなことをやってくださいということを企画立案していかなくてははいけ

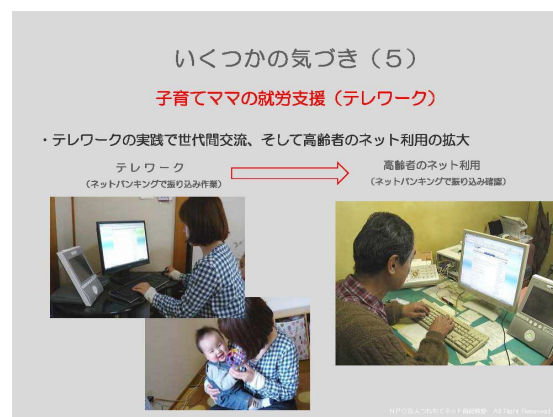
ません。その一つにテレビやパソコンなど ICT 関連機器で、「新しい学び・人つながり」の場を作っていく必要があります。



そうした場所は公民館や公共施設の入口の第一等に置かせてもらっています。パソコン教室ではなく、みんなの目に触れる場所で、みんなが気楽に来てくれる場所が必要です。

いくつかの気づき (5)

行政との協働で行っていることで、行政から委託金をいただきます。そのお金をシニア情報生活アドバイザーに配布するにあたってはネットバンキング（テレワーク）を利用しています。また、ネットバンキングで送金したものを、シニア情報生活アドバイザーは自分の家でやはりネットバンキングでの入金を確認しています。現在一人で行っているテレワークを、子育てママの就業支援ということで二人に増やしたいと思っています。このようなことは、情報政策課では取り組みにくいことのように思います。



これからは団塊の世代のその下の人や、若い人を仲間にしてゆかないと地域活動を継続することはできません。

やらなければいけないと思います。先ほど、生きがいの話が出ましたが、アドバイザーが活動に当たり、金銭的に持ち出しになってはいけないと思います。行政にお願いしたいことは、PR の協力と場所の確保ですね。

司会 共通した内容だと思いますが、東京の西の小さな私の市の例です。行政に持っていくと総論賛成ですが、話が煮詰まってくると、上はなんと言っていましたかで、断ち切れになってしまうのです。場所の問題や機材の問題がボランティアレベルで、どこまでできるのかと思うのですが。

小西出 先ほど説明不足でしたが、行政との協働ということで図書館を使わせていただいています。現在、図書館は無料ですが、図書館が民間委託となりますと、お金を払わなくてはいけなくなります。それを計算してシニアパソコン生活支援塾をやらせていただいたのです。このことをマスコミに話したら新聞に2回載ったことがあります。それが大きな助けになりました。公民館が有線LANを20本用意してくださり、Vistaを一台買ってくださいました。

パソコンはそれぞれ持ってきていただいて接続をし、一人ひとり違ったことをしています。たとえば、ある方には Skype でお孫さんとの交流を、また旅行の好きな方には料金の計算をしたりしています。

千品 図書館の施設管理者は教育委員会ですよ。図書館運用の目線が次の時代に向いていないように思っています。情報政策とか産業振興を考えているセクションの方との話し合いが必要です。外堀を埋めていかなければ進めなく、箱物はできているのですが、内容が伴わない問題があります。

小西出 図書館への働き方としては、地方図書館と分館との在庫の書籍を調整するために、パソコンでしたらどうかということを提案し、それでパソコンを使わせてもらっています。

司会 それでは話題を変えて、パソコンではなく、テレビをベースにインターネットする、あるいはテレビを共通項として IT を進めながら地域活動でしているなど、皆さんの方ではいかがでしょうか。テレビを使ってインターネットをするという件についていかがでしょうか。

千品 難視聴地帯でも 2011 年から地上デジタ

ル放送が始まり、エコポイントでテレビが安く買えることで関心が高かったのです。電気店はテレビ放送を見ることに関係するサービスしかしていなかったのですが、インターネットに接続してテレビのもっと面白い使い方を知るという方法に仕向けました。

司会 せっかくテレビの機能が多くあるのに、ほとんどが使いこなされていないのではないのでしょうか、コンピュータから入るよりも、テレビから入る方が、これからの活動の場所としてもあるのではないのでしょうか。

今、テレビの話がでましたが、ご質問の中に携帯電話の話もでましたね。コンピュータと携帯も二分化してきていると思うのですが、どなたかご意見はございませんか。

シニアネット加賀・北市 これからの携帯電話は、高画素のものが増えています。テレビも見ることができ、インターネットに繋ぐことができます。新しくなられた加賀市長も、パソコンのことをしているなら携帯電話も広めたらどうかと言われ、私ども、これからの高齢者の方々にパソコンと同じように携帯電話も勧めていきたいと思っています。

司会 行政の職員の方が活動している、あるいは一緒に輪を広めているというところがございませんか。皆さんの地域では、そういう形での行政との繋がりがございませんか。



千品 先ほどのスライドで、説明させていただいたのですが、人繋がりというか、身近なことで職員に繋がって、乗っかっていく。どんな細かい糸でも手練りで寄せながらいくということですね。

シニアネットクラブ・近藤 民生委員をしているのですが、こちらの情報サロンと民生委員との

接点があれば教えてください。

千品 地域サポーターをやっている方から、民生委員をしているとか、区長や教育委員をしていたとかいろんな役をなさっていることを、違う道から情報が入ってきます。これからは大事なことだと思います。

司会 行政にこだわらず、皆さんの地域の活動で、こういう事をやっているとか、こういう事を聞いてみたいなどの発言があればお願いします。

小柴 こんなことをしてみたいと思っても環境が伴わない、講座をやろうとしてもソフトが無い、市の施設を借りてもダウンロードが許されないなど環境が整わない。皆さんのところではどのようにやっているのでしょうか。

司会 皆さん活動なさっていて困っていること、「こうして解決していますよ」といったことがありましたらお願いします。

ワクワクネット・高橋 地域によって違いがあるのですが、発足して2年、定住場所が無く、あっちこっちの公共の予約システムを使っています。そのためEモバイルを持ち歩いて活動をしています。Eモバイルを使えばネット環境には問題が無いのですが、行政のパソコンを用意してもらうことが難しいです。

司会 Eモバイルを使っているということは、1台をベースに何台も繋ぐということでしょうか。その費用はどのようにしているのでしょうか。

高橋 組織で契約しています。Eモバイルの最高額は決まっていますので、値段は一定しています。

沖縄ハイサイネット・シンザト 行政との関わりをどのようにやっているか知りたくて、沖縄からやってきました。10周年を迎え、代表は行政側にいたのですが行政から一切助成金をもらわないでやっています。ただし委託事業があれば頂いています。教室は沖縄市・うるま市・那覇市の3か所で教室を持っていて16クラスあります。初級・中級・上級と分け、Word Excel デジカメとあり、受講料をいただいて事務員1名置いて賄っています。

受講料はほとんど場所代に使っています。場所の問題が大きく、建物があっても環境が整ってなく、あったとしても民意が届いていないという現

状です。パソコンは20台揃えています。行政側をお願いしているのは、パソコンの修理です。会長が行政側にいたことで精通していますので、修理をお願いするとすぐ飛んできてくれますし、10年も経ちますと、グループの中で直すことができる人も出てきています。一番大変なことは、場所と受講生を集めることです。シニア情報生活アドバイザーは120名いますが、ほとんどの方が講師・サポートとして活動しています。

司会 場所・設備・集客(受講生)で悩んでいるということですね。行政が広報で募集すると、抽選するほどに集まります。一方、グループやNPOではチラシを貼るにも限度があり、定員に満たないということもあります。皆さんの方ではいかがでしょうか。

シンザト 10年間になります、その間ずっと、3ヶ月ごとに広報に載せていただいています。役所などに行っている方たちと関わるというか、友たち作りをしています。

小西出 募集の仕方ですが、私たちのところは図書館が募集してくれていますので、人集めにも問題が無く、機械の管理も図書館がやってくれています。ソフト導入も差し支えなくできています。

千品 場所と環境づくりということでは、私も少し違うアプローチも試みています。ファミリーでコミュニティを作ってもらっている中に、シニア情報生活アドバイザーが出向いていって環境づくりをしています。

小柴 私たちのところは10周年を迎えます。「友の会」という組織を作り、年間140~150回ほど講座を開いています。友の会へ入会すると安く受講できるなどの特典を設け、会ではパソコンを持ってこられない人のために16台とプロジェクター2台用意していて、受講生を集めています。現在シニア情報生活アドバイザーも125名ほどいますが、その方たちの活動の場をいかに確保するかです。

高橋 広報の問題が先ほど出ました。私たちの所でも同じで、人集めの問題では苦労しています。掲示板は区・町会・誰でも使用できるもの3種類がありますが、掲示板のある場所も人通りが少なく掲示板での募集も問題です。広報に載るとすぐ定員オーバーになります。しかし、広報に載せて

もらうことが大変です。4月から区の一つの施設、敬老会館を担当することになりました。半径 500メートル以内のお年寄りの憩いの場です。でも、活用されていません。いかに地域の方に知らせるかが問題です。町会・自治体・老人会などに協働事業を提案し、地域の人にプラスになるようにしています。

司会 アドバイザーが地域に入っていく方法と、ある場所を用意して集まっている方法と、だいぶ趣が違います。同じレベルで困っている方は地方も都会も同じですね。コンピュータがあるが使えない、家に来てもらいたいと誰に声をかけたらいいのか、という問題があります。千品さんの話の内容から、これからはどんどん地域の家庭に入っていきますよと、そしてこれから年齢を重ねてもこうした行政との協働活動が必要になってくると感じました。

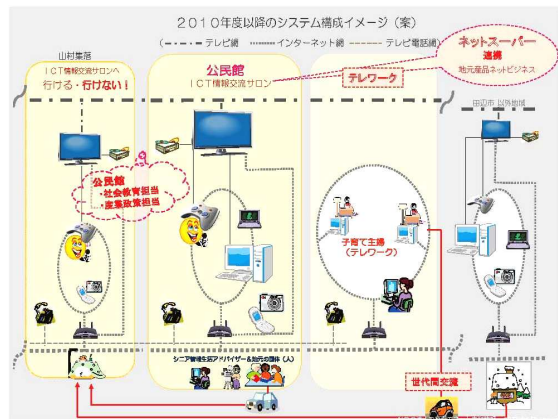
4. まとめ

千品 私の住む町は8万余りの人口のところですが、これから街中限界集落をどうするかが課題だと思います。買い物にいけなくなる人もできます。個人情報の問題を考えると山村集落の方が街中より比較的バリアが低いというか、その辺をモデルにしながら、問題を拾い出してみようという取り組みが一つです。

都市部の限界集落で、生鮮食料品が買えない人がいます。また反対に山村集落では日常雑貨品が買えないという人もいます。その辺をマッチングしながら、行政と相談しながらやっていかなければと思っています。シニア情報生活アドバイザーとはそういうことをつなぐ役割だということをもみんなで共有しながら進めています。

私たちがこれからやっといこうとする方向は、「2010年度以降のシステム構成イメージ(案)」ですが、山村集落では、ICT交流サロンの建物を作ったが行けない人もいます。

そんなところへは、社会教育担当や産業政策担当の方が生活支援的な役割でまわっています。シニア情報生活アドバイザーは、テレビゲーム機、携帯電話を置いている公民館のようなところと連携して活動します。そういったモデルの集落も実際あります。そこで活動する地域サポーターや、



シニア情報生活アドバイザーへの謝礼をネットバンキングのできる若いお母さんたちにさせていただくことで、雇用確保にもつながり、そういうネットワーク作りをしていきたいと考えています。

私の住む町にも、お子さんが東京や大阪など県外の大学へ出て行っている家庭が多くあります。家族間の交流はネットで十分できます。そういうところを繋いで山村集落の人のケアができるような仕組みを作っていきたい。

最後になりましたが、このようなイメージができた時、サブタイトルに「新しいデイサービス」と書きましたら、新しいデイサービスというと、おばあちゃんを連れて行って、ご飯を食べさせて、風呂に入れてくれて…といった誤解を招くといった意見ができました。私たちの目線から言うと、元気なシニアのデイサービスをするという位置づけで提案したのですが、まだまだ力不足で、そこまで持っていきません。そういった私たちの体験からご報告させていただきました。

司会 元気なシニア、あるいは家に引きこもっている方のデイサービス、これからの課題ではないでしょうか。

北海道大学・藤田 私は北海道大学で、シニアネットを対象に研究しているものですが、ICTというものの起用は教育だけではなく、デイサービスにまで入り込んだ、使いこなす道具の活動ではないかと考えていました。これからは、使いこなす道具ではなく、地域でのシニアのニーズを引き上げる活動であるならば、本当に元気なシニアをどうやって地域で健康に生活してもらうか、という活動であるということに感銘を受けました。地域でどんどん増えることを期待しています。

司会 以上を持って終わらせていただきます。

「田辺市 情報交流サロン」のとりくみ

田辺市総合計画
魅力あふれるまちづくり～活力ある山村づくりの推進～

ICT感覚を持つ世界を作る
ICTを仲間同士で活用する

各種サービスの購入。地域情報の発信。地域性を生かしたビジネス展開

「ふれあいサロン」

シニア情報生活アドバイザーがお手伝いします。

1. テレビをつかったのサービス
テレビを見ることはもちろん、インターネット経由での動画鑑賞、
昔の映画の鑑賞 など
2. ゲーム機をつかったのサービス
カラオケ、フィットネス、囲碁、将棋 など
3. その他のサービス
・ お買い物のお手伝い、色々な調べ物のお手伝い など
・ 日常生活での様々なお役立ち情報（各種行政サービス）を調べ
お手伝いします。
・ お住まいのところで市内モデル地域（本宮、龍神、中辺路、大浜）
のモニターの方とテレビ電話で顔を見ながらお話ができます。

「手ならいサロン」

シニア情報生活アドバイザーと一緒に作業をします。

地元のみなさんのご要望に合わせて、くりかえし一緒に作業をします。
例えば、写真日記（ブログ）づくりの場合は以下のような手順で...
他に年賀状や旅行案内チラシなども...

1. デジカメや携帯電話をつかったの写真撮影
ご自身で撮影した写真や携帯電話の写真を手ならいサロンにお持ち込みください。
2. 撮影した写真をパソコンをつかって編集
お持ち込んだ写真は写真やソフトで編集します。
お好みの編集しますので写真にはお任せください。
3. 撮影した写真でアルバムづくり
アルバムは作りこんであります。実際のアルバムもできます（有料）。
4. 撮影した写真を利用した写真日記（ブログ）づくり
撮影した写真を活用してブログや写真日記（ブログ）をつくります。
これをインターネットで発信します。
5. 写真日記をつかったのモデル地域間・遠隔地に住む家族との交流
写真日記をつかってモデル地域間・遠隔地に住む家族などお知り合いの方との交流をします。

行政からの委託が終わっても継続するために
血縁世代や、その下の世代を仲間にする

・ 「生きがい」から「やりがい」への発想転換
行政組織の行政職員と共に歩む（協働）NPO

・ 「ボランティア（無償）」と「仕事（有償）」の目標
継続される新しい社会サービス（ICT活用） 喜ばせ・実行するNPO

「生きがい」と「やりがい」のこと

- ★ 山村（過疎）集落で生活している人、ICTを道具に人の交流を促しながら山村（過疎）集落に元気を注ぐシニア情報生活アドバイザーにわかりやすい仕組みを組み立ててねばならない ...
- ★ 現場（山村集落）の古老達の様々な生き方、自由度の高い（わがまま）シニア情報生活アドバイザーの人達の取り組みを見ながら、地域を元気にする為に ...
- ★ 私の住むまちの行政職員は、現場を近くで見ているのでよく理解出来ていて実践せねばならないことはわかっているが、具体的にどういいうまく組み立てるかに悩んでいる ...
(縦割行政機構と地域住民や地域行政職員の「思い」のミゾを埋める新しい公共サービス)

今までの「生きがい」づくりから

その先にある「やりがい」を目指して

地域社会を元気にする！

本文未使用分

シニアの社会参加を促し シニアの自立を目指して楽しく学ぶ

■課題提供者

柳原正年 シニアネットとやま（富山社会人大楽塾）代表

■司会 中島一郎 いちえ会

■書記 石本陽子 中原富貴子 いちえ会

1. 趣旨説明

司会 本日のテーマは『シニアの社会参加を促し、シニアの自立を目指して楽しく学ぶ』です。いろいろな思いや、バックグラウンドを持った方々が集っておられるので、今日の話を通して、刺激あるいはヒントが得られるのではないかと思います。柳原先生を核にして、出席して良かった、たくさん得ることがあった、といわれるように進んでいきたいと思っています。

2. 課題提供

「シニアネットとやま」は、今年で、設立 10 年になります。私が、東京から定年で富山に戻り、現役時代東京でかかわっていた、中高年向きの再開発フォーラムと、現在も緩やかなネットワークでつながっております。



シニアネットとやまとは

ここで大楽塾の儀式と言われる、メンタルトレーニング、レクリエーション体操、「人生の扉」と

いう歌、「青春とは」の詩の読み上げがありました。富山社会人大楽塾の中の 1 部門で、富山県民カレッジ「アクティブ人生企画・夢たまごネットワーク学」受講生のフォローアップの場として設立されました。

「シニアネットとやま」は、ICT を使った活動のほかに、下図のような活動をしています。

活動内容を簡単にご説明しますと、まず、「シニアネットとやま」はパソコン教室から始めました。

シニア情報生活アドバイザー養成講座

最初は 30 代、40 代の若い人が応募してきて、「シニアに教える」という念書を取ってははじめました。教える対象は 50 代、60 代でした。最近では同年代でという形になってきています。富山県の元気推進支援事業に採択され、インターネット市民塾と提携し、e-ラーニングシステムを取り入れ、生涯学習成果を Web 発信する運動に取り組み、社会に還元して行こうとしています。

家庭生活パソコンクラブ

パソコンを使って、小物づくりや年賀状、家計簿の管理など、家庭生活に密着したものをしています。

パソコンリーダー養成講座

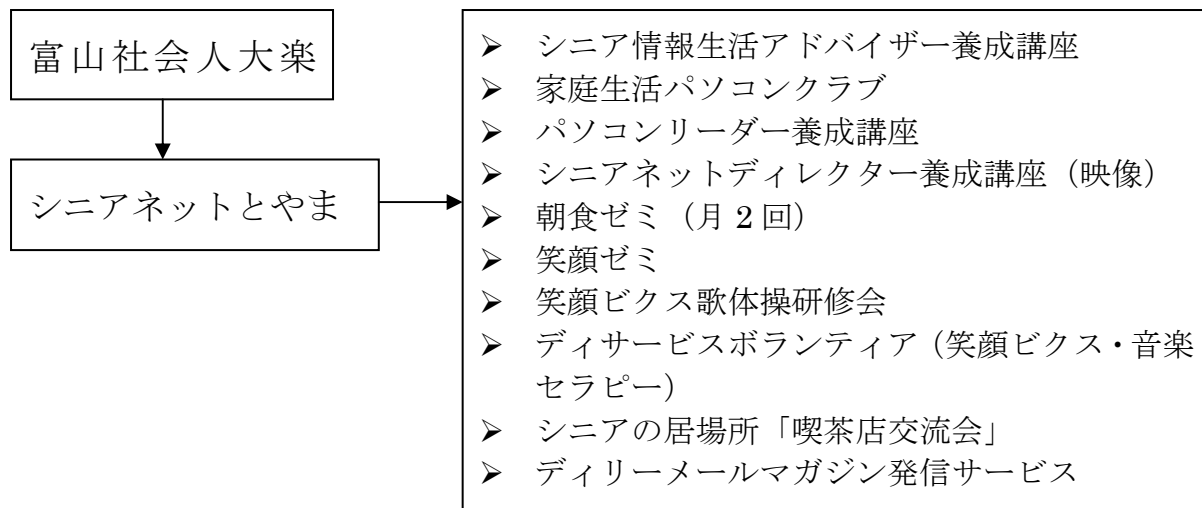
資格は要らないと言う人のために講習し、実習ボランティアとして活動してもらっています。

シニアネットディレクター養成講座（映像）

ビデオや写真を教えています。

朝食ゼミで

新刊書を読んで、ワールドカフェ方式で、インターネットディスカッションをしています。



ディサービスボランティア (笑顔ビクス・音楽セラピー)

高齢者施設でのボランティア活動です。

シニアの居場所作り

レストラン、喫茶店、ボランティアセンターなどを利用しています。

このほか、笑顔ゼミ、笑顔ビクス歌体操研修会などの講座も持っております。「シニアネットとやま」では毎日メールを送って、パソコンを開く活動をしております。

設立してから10年が経過して

10年経過するといろいろな問題が出てきます。最初は夢も大きくふくらみましたが、現実では無理なことも多々あり、結局今の形に落ち着いております。この形がベターだとは思っておりませんが、皆さま方がネットワークをなさっておられる中で、ご参考になればと思っております。

10年経過して、出てきた問題の解決方法として



*自分が引退して、後輩に譲る。(新陳代謝)

*メンバーを入れ替え、若い人を入れる。(活性化)

*変化に応じてバージョンを変える。(10年目で名前も変える)

が考えられますが、各シニアネットの環境に合った、対応が必要かと思えます。私どもでは、変化に応じてバージョンを変える方法と、メンバーを入れ替え、若い人を入れる。(活性化)を選択しました。

今までは自分のためにICTを活用しておりました。これからは、もっと社会参加し、パソコンのスキルを高めながら、まずは1対1から、そこから発展して仲間・グループへと交流の輪を広げて行かなければならないと思えます。ちょうど、一人称から、二人称、三人称へ、個人から仲間へ、仲間から地域へ、地域から社会へ輪が広がって行くことが理想です。「シニアネットとやま」はそこまで到達することを目標にしています。

シニア情報生活アドバイザーで撮影技術を持っているメンバーが、ボランティアや他団体の活動風景をビデオに撮り、DVDに編集して差し上げ、交流を深めております。また、インターネットの無料サイトから、童謡などの音楽を取り込み、介護施設で、お年寄りの皆さんに喜ばれています。

このようにして、10年で分かったことは、人を生かす道具としてのICT支援を志しているのですが、日本は市民生活レベルでの活用が遅れているということです。これからは、もっと活用し、すでに始まっている高齢者社会の活性化に向けて、分かりやすく、いかに簡単に、利用できるかを考えて行かなければいけないでしょう。

「シニアネットとやま」では10周年の記念事業の一つとして、ICTを使った究極の生涯学習、大楽院、円熟人間学コース（BOSATU）をスタートさせ、会員制で、これからの10年、日誌をつけ、10年目に映像論文かテキスト論文を提出して、楽位を取得する。このコースの目標では、シニアの健康管理とパソコンのスキルアップです。（詳しくはパワーポイントの資料にあります。）

また2月から、記念事業の二つ目として、ストレスケアマネジメント、富山県内33カ所をめぐる、ウォーキング新西国33カ所めぐり、地域開放「大楽サロン」、円熟道場などを企画しております。

「シニアネットとやま」は行政からの援助を受けず、それぞれの講師が持っている多彩な特技・資格（シニア情報生活アドバイザー、健康生きがいづくりアドバイザー、余暇開発士、レクリエーションコーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカーなど）を生かし、有料講座からの収入で運営し、健康で楽しく、社会とのつながりを持ちながら、10年目を迎えております。皆様方のご意見をお聞きし、私どもの活動にプラスして行きたいと思っておりますので、色々な事例をお聞かせいただきたいと思っております。（拍手）



3. <質疑応答>

司会 今日は、5つのワークショップがありましたが、体操から始まったのは、ここだけではないでしょうか。その感じで、この5番目のテーマならではの、議論ができればうれしいと思います。ご質問・ご意見・コメント等ありましたら、挙手をお願いいたします。マイクを持って行きますので、所属、場所、名前を言ってからご発言ください。

多摩 IT 普及会・吉野 富山の方で多彩な事業展開をされている、私どもも参考にしたいと思いますが、一つの団体でこれだけ、多彩なことをやる必要があるのかな、という疑問を私は感じております。

私どものところは、37団体ありますが、ひの市民活動団体連絡会という横並びの組織で活動しており、連絡会は行政の窓口にもなっています。行政の優遇を得ながら、業務委託、業務受託、という関係で活動しています。富山は、行政とあまりかわりなくやっておられるので、ちょっと方向は違うようです。いろいろなやり方があると思いますが、私たちは、それぞれの団体が、それぞれの目的に合ったもの、それを横につないで、地域社会に役立ちたいという考え方で、やっております。自分の団体の特色を、できるだけ生かしながら、横につなげていけるような、方向性を考えています。

司会 横の連携、行政との連携、その辺について、ご意見がありましたか、如何でしょうか。

柳原 おっしゃる通りです。私どもも最初は、行政に支援で活動していたのですが、5年間やった結果、このような方向になったのです。行政と提携し、成功されているところもあるので、ご参考になさっていただければと思います。私ども、団体を維持するために、維持費、会場使用料を確保するための事業が、有料講座であり、それ以外に、ほかの団体とネットワークを組んでいますので、そことの連携を、進めていきたいと考えております。

メロウクラブ・若宮 私た

ちは、インターネットだけでやっております。高齢者は機械や、横文字に弱い人も多く、インターネットアレルギーの人が周りにたくさんおられます。これから先、ICTの必要性はますます高くなって、取り残される高齢者が増え、その人達のフォローを、どうするのか危惧しています。

私も個人的にパソコンを教えて、8~9年になりますが、最近高齢者に対しては、「パソコンを覚えないでください」という教え方に路線変更をしています。それは、どういうことかと言いますと、分からない時、検索機能の活用です。検索機能の使い方をしっかり教え、問題解決ができるように指導しています。ご参考になればと思い、お話しさせていただきました。

柳原 さすが、現場密着型で、高齢者の気持ちもお分かりだと思います。私どもも、そういったものを取り入れながら、変化していこうか、と思っております。

熊本シニアネット・木野 いまのお話をお聞きして、IT、パソコン、無関係の方がたくさんおられます。勉強したいと入ってこられても、ついて行かなくて、挫折してしまう方も大勢います。そこで、私たちの会では、15の各サロンでフォローし、質問に丁寧に、根気強く教えていく、地道な活動が実を結んできています。仲間作りをして支えあい、シニア情報生活アドバイザーに合格し、パソコンライフを楽しんでおられるという実例があります。

司会 追加の質問をさせていただきます。15のサロンがあるとおっしゃいましたが、簡単にご説明ください。

木野 サロンとっておりますが、一般にいう支部のことです。地域ごとに支部があり、熊本市内に6つほどあります。地区ごとによって、その場所が公民館であったり、病院内に作っている支部もあります。大学の中にもできました。熊本市外の水俣、天草などにも拠点があり、それが全部で15ということですよ。

病院でやっているサロンは、健康講座というか、その病院の先生のお話をお聞きし、お年寄りに対しては、私たちの方からお話をさせていただく、総合交流のようなスタイルでしております。

司会 若宮さんからお話がありました2点、向

こうとこちらの人がどう折り合っていくのか、どう越えさせていくのかというお話し、パソコン指導の一つの方法として、覚えるのではなくて、問題を解決する方法でやろうと、それについては、非常に粘り強い丁寧なサポートがいるだろうというお話が木野さんからあったかと思えます。

東葛インターネット普及会・森田 私どもの会は、50歳ぐらいから84歳ぐらいまで、全員アドバイザーの資格を持った60人で、構成しています。私どもの会も、今年10周年を迎えます。

私どもの会は、大きなサークルの中の一つ、パソコンクラブから、パソコンだけで社会貢献をしようということでスタートしました。全員が講師、サポーターとして、テキストも自分たちで作るボランティアの集まりです。有料講座、無料講座、両方開講しておりますが、そこから交通費だけ、いただいております。講座終了後は、もっとパソコンを広げて行ける社会に、パソコンに慣れて行けるような講座会員を持ちたいと、友の会を作り、メールなど教え、メールで通知が行くような形を取っています。またデジカメの撮影会なども企画し、楽しい会を開催しています。

行政との関係にも恵まれ、行政で、受講生を集め、受託という形で、させてもらい、受講生も増えております。落ちこぼれを作らないように、心掛け、テキストなどにも配慮し、丁寧に、ゆっくりと個人指導的なことも行いながら、頑張っております。

柳原 素晴らしいですね。私どもも参考にさせていただきます。

船橋市・渡邊 まだ、アドバイザーの資格も取っておりませんし、私の住んでいる地域が新興住宅地で、何もかもこれからという状態です。今までのお話しで、良くわかりましたが、全くの初心者にはパソコンの使い方を教える。その後が、問題かなと思っています。初心者が、自宅に帰り、自宅のパソコンを開いてみて、教室で使ったパソコンと違うと戸惑いが生じ、それが、障害になるのではないかと考えています。パソコン自体も違うでしょうし、OSもバージョンも違うかもしれません。そういうことで、個人宅に向いて指導する必要があるのではないか、あるいはそういうことをやっていच्छる所があれば、どんな状況



か、お話しをお聞かせいただきたいと思ひます。

森田 私ども、よろず相談という形を取り個別指導ということで、自宅の方まで、出向いて、設定からいろいろなものを教えることもあります。また、講座では、2003、2007 それぞれのバージョンでテキストを作っています。有料講座として、自分のパソコンを持ち込んでいただいて、そのパソコンに合ったテキストで対応しながら、対処していくという方法も取っています。

渡邊 今ご回答いただいた中で、興味あるのは、パソコンを自分で持ち込むということですが、ネット接続の問題はないのでしょうか。

森田 ネットに関しては、会場ではできないということで、ネットでする時は、公共のネットが完備している場所で、まとめてしています。

若宮 私どもの会でも同じです。また、CPUやOSが違ってくると、解らなくなってしまう、混乱するので、パソコンを覚えないうで、検索方法を覚えて検索する癖をつけるようにしたのです。

いちえ会・田所 私は自宅で、生徒さんにはパソコンを持ってきていただいておひます。私はテキストをそのままやるということをしないうで、パソコンで何がしたいかということではなく、何ができるかということで、2分間スピーチをしていただき、その人が持っているものが何かを見出し、それぞれの人に合ったパソコン利用を教え、みなさんの上達発展ぶりを見せていただくことが、私個人としての楽しみであり、このような形で、教室が続いておひます。

木野 熊本の場合は、自宅訪問はしていません。発足当時はしていたのですが、クラッシュするなどの、事故があり、個人宅に出向くということはやめました。それに代わる方法として、Q and

Aをメールで送ると、機器管理部の方から回答を差し上げる。それでもわからないという方は、近くのサロンに行ってもらって相談してもらひ、という方法を取っています。デジカメクラブやゴルフクラブなどあり、そんな中で友達もでき、メカに強い人も見つかひ、個々に解決しているようです。

私どもの会では本部に、教育普及部、ホームページ部、サーバー管理部、保険福祉部、地域管理部、交流企画部、機器管理部を立ち上げておひます。

多摩 IT 普及会・吉野 自宅訪問の件ですが、私どもの団体では受けておひます。具体的な事例では、海外からのメールで、ボクシングのレフリーの書類を出さなければいけないという相談があり、自宅を訪問し、デジカメで写真を撮り、パソコンに取り込み、指導しながら、書類をまとめてメールで送ったことがあります。

私どもは、電鉄会社から、場所・パソコンを提供してもらってやっている事業があり、ノートパソコンは持ち込み可能という形での、何でも相談をやっておひます。これは、ワンコイン(500円)で20分という有料事業でやっておひます。

企業が扱っているインターネット自体は、持ち込んだだけでは繋がらないのです。設定するのに時間がかかりますので、インターネットをする場合は、自宅を訪問して、対応するという形でやっておひます。

柳原 私どもも最初5年間は自宅訪問しておひました。やはりいろいろな問題が生じました。結果、やめました。代わりに、専門業者と提携し、あらかじめ、私どもが症状を聞き、業者につないでいます。

パソコンを新しく購入する場合、一緒に行き、必要以外の機能が付いていないか、その人に合ったものをアドバイスしておひます。何処かで割り切って、整理していくことが良いと思ひます。

木野 新しいパソコンを購入すると、販売店でインターネットの開通までしてくれるので、新しい人には、そういうことで進めた方がよいと思ひます。

司会 お宅に出かけて行って教えるということ、此処にいらっしやるみなさま方は、経験をなさって、いろいろな試行錯誤がおありと思ひます。

そして、それぞれがその場に適したものに、落ち着いてきていると思います。今、いくつかのアプローチがあったかと思いますが、ご参考になりましたでしょうか。

すぎとSOHOクラブ・中島 みなさまのお話し、非常に参考になりました。「すぎと」で地域デビューとその支援講座というようなことをしているのですが、団塊の世代が会社を離れて、地域に戻る、そうすると本当に独りぼっちになってしまう、社会とのかかわりを、どうしたら良いかわからない、という人間が 40 パーセントぐらいいます。その人達をどうするか。企業の中でも問題になっていて、そのためにはどうすれば良いか、そういうお話が聞かれると期待して来ました。みなさまのご苦勞なされたこと、経験なされたことなど、お聞きしたいと思います。

吉野 私どもでは、行政の職員の定年退職説明会に出席し、市民活動の説明をしています。また最近では企業の説明会にも出かけて行き、各団体の活動を具体的に説明しています。まずは、興味を持って、参加してみるということが一番ではないかと思っています。

司会 まだまだ、議論すべきこと、発言なさりたい方、いらっしゃるかと思いますが、時間が参りましたので、柳原さまに今日のまとめをしていただきたいと思っています。

4. まとめ

あっという間の 2 時間でしたが、少し地域デビューについてお話をし、まとめに入っていきたいと思います。

地域デビューにつきましては、私も最初の 5 年で、富山県に提案し、地域デビューの講座をしてもらい、私も講師で関わりました。団塊の世代に向けては、おそらく、各県に窓口があると思います。そこへ相談するのが、良いと思います。

まとめといいますか、私の発表に対してのご意見を含めまとめさせていただきたいと思っています。今日は課題の例として、「シニアネットとやま」の 10 年経過した、その変遷について、今までの流れ、問題点をご提示申し上げたつもりです。

今日ご出席の皆さま方は、団体のリーダーの方がほとんどですので、皆さま方のご発言は、それ

ぞれの団体からの情報ととらえております。

今日は時間の関係もあり、あまり出なかったのですが、基本的にスキル、パソコンを使うときに発生する問題、パソコン操作については、若宮さんのような、画期的な教え方、おそらく今後の 10 年は IT 技術の発展が進むと思います。色々な問題が出てくると考えられます。

木野さんからのご発言で、基本的には根気強く教えて行く、この教え方の姿勢は基本だと思います。

森田さんから、全員アドバイザーとして活動して行政と連携しながら、地域に役立っている事例報告もありました。

吉野さんのように、行政の中にコラボして、ひの市民活動団体連絡会を活用しお互いの活動を発展させ、横のつながりで連携している所もあります。以上のようなご発言だったかと思っています。これが今日の発表・まとめになるかと思っています。



司会 まだまだ古典的といえますか、これからパソコン、ICT をどう教えていくか、どう楽しんでいくかという課題と、ICT あるいはパソコンを一つの潤滑油、あるいはツールとして生かし、それを自分の青春を生きる、あるいは社会の中で生きて行くという中で、それをどう使っていくかという、大きく分けると二つの話があったと思うのですが、これが私たちの直面している現実だと思います。今日のこの場の、ディスカッション、Q and A を通して、得るところがあり、ご活用願えれば、この会合は大変意義あるものと思います。

最後になりますが、柳原さんにお礼の拍手をして終りにしたいと思います。(拍手)

<p>1</p> <p>シニアの社会参加を促し、シニアの自立をめざして楽しく学ぶ</p> <p>シニアネットとやま (富山社会人大楽塾) 代表 柳原 正年</p> 	<p>2</p> <p>シニアネットとやま10年の歩み ICTを活用して健康・生きがいづくり支援の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歳をとることが本当にわかる「老後の心理学 ネットワーク」づくり ・ ボランティア活動と老い方道場 ・ 勝ち負けから降りる生き方実践道場 ・ 究極の生涯学習大楽塾「円熟人間学(BOS ATU)コース」の開講
<p>3</p> <p>大楽塾員心得1「人生の扉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春がまたくるたび 一つ年を重ね 目に映る景色も 少しずつ変わるよ 陽気にはしゃいでた 幼い日は遠く 気がつけば五十路を 超えた私がいる 信じられない速さで 時は過ぎ去ると 知ってしまったら どんな 小さなことでも 覚えていたいよ 心がいったよ 満開の桜や 色づく山のもみじを この先いつたい何度 見ることになるだろう 一つ一つ 人生の扉を開けては 感じるその重さ 一人ひとり 愛する人のために 生きてゆきたいよ 君のデニムの青が あせてゆくほど 味わい増すように 長い 旅路の果てに 誰か何かが 誰にでもあるさ 	<p>4</p> <p>大楽塾員心得2「青春とは」 富山社会人大楽塾版(サミエル・ウルマンの詩をアレンジ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青春とは、人生のある期間ではなく心の持ち方です。 ・ 「ビビッとした顔や少しなやかな体型」まいつのではないたくましい意志・豊かな創造力・突入る情熱を指します。 ・ 青春とは、人生の深い奥の清新さです。 ・ 青春とは「悲劇を演じる勇気」「安眠を振り捨てる覚悟の心」を意味します。 ・ 時には、20歳(はたして)の青年より10歳の人に青春があります。 ・ 年を取っただけで人は老けません。 ・ 理想を失ふとき絶望的であるのです。 ・ 歳月は去るにつれて心は軽くなるが、情熱を失えば心はしびれます。 ・ 「苦悩・悲劇・失望」により、氣力は地に落ち、精神はあつた(こぼ)となり、 ・ 60歳であろうと、10歳であろうと、人の胸には、雙翼に魅けられる心、熱す ・ 「あきらめ」のような道への探求心、人生への興味があります。 ・ あなたにも、わたしにも見えざるよりどころがあります。 ・ 人から大自然から「美・希望・喜び・勇気・力」のパワーを受ける限りあなたは若いのです。 ・ パワーが消え、精神が肉体的に心の壁に覆われ、悲しみの糸に預けられ、20歳であろうと人は老いるのです。 ・ 夢を持ち、希望の道をとらるとる限り、100歳であろうと、人は青春なのです。
<p>5</p> <p>富山社会人大楽塾の設立 2000年4月1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山社会人大楽塾(内シニアのパソコンネットワーク部門を、シニアネットとやまと呼ぶ)は富山県民カレッジ「アクティブ人生企画・夢たまごネットワーク学(講師・柳原正年)」の受講生のフォローアップとして設立されました。(スタート時の塾生や約120名、内インターネットメールのできるシニアは30名程度でした) 	<p>6</p> <p>シニアネットは金太郎飴型から桃太郎型で元気がでる。</p> 
<p>7</p> <p>ICTにおける生涯学習活動の「桃太郎型」人稱活動とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人称 自分のための生涯学習(趣味・家庭・仕事等)活動(イヌ)自分のために..... ・ 二人称 自分の生涯学習成果をWeb発信し、コミュニケーションする生涯学習活動(サル)仲間のために..... ・ 三人称活動 地域デビューによる社会還元生涯学習活動(キジ)社会みんなのために..... 	<p>8</p> <p>塾員のICT活用の推進に「パソコン教室を併設」一人称活動(自分のために)を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニューメディア開発協会の「シニアベンチャー育成事業」に採択される。 ・ ICTをコミュニケーションツールとして、アナログ系講座を再構築(パソコン教室で普及) 再構築したアナログ系生涯学習メニュー ・ 中高年の社会参加を推進する「富山生涯現役フォーラム」 ・ 異業種交流会「朝の知的生活塾(朝活)」

9

パソコン教室併設時の事務所



10

ICT活用ネットワークリーダーづくり シニア情報生活アドバイザーの養成

アドバイザー養成講座風景



11

富山県元気推進支援事業に シニアネット富山が採択され ICTを活用した元気シニア応援ネット 二人称活動を奨励

- ・一人称活動から、二人称活動へ誘導
- ・パソコン教室修了者の活躍の場にeラーニングシステム「インターネット市民塾」と提携、生涯学習成果をWeb発信する運動に取り組む

12

ICT活用ネットワークリーダーの養成

- ・シニア情報生活アドバイザーが、地域社会のネットワーク化に奉仕する「シニアネットディレクター養成」開始
- ・富山県ボランティア支援センター、富山市ボランティア支援センターと提携、「シニアネットディレクター」がICTを活用し、健康生きがいづくりの支援を行う活動を推進
- ・富山市内12箇所の高齢施設へシニアネット会員が、毎月1回ボランティア訪問

13

シニアネットの活動

- ・シニアベンチャー育成事業
- ・シニアの成人式
(論文・提言シンポジウム)
- ・シニアネットディレクター養成講座
チャンスの神様には後ろ髪がない
「シニアの再チャレンジ」
大きく楽しみ、チョッと社会貢献
健康生きがいづくり部会活動



14

5周年記念で「シニアの居場所」作り

- ・キャンパスとしての、レストラン・喫茶店・ボランティアセンターの活用



15

シニアネットフォーラム北陸の 開催協力



16

シニアネットフォーラム北陸でボラン ティアデビューした大楽塾塾生



17

福祉文化をICTでサポート



18

生きがい開発の下記公認資格取得者を運営リーダーとしています。

- ・シニア情報生活アドバイザー
(財)ニューメディア開発協会
- ・健康生きがいづくりアドバイザー
(財)健康・生きがい開発財団
- ・余暇開発士 (財)日本レクリエーション協会
- ・レクリエーションコーディネーター (同上)
- ・福祉レクリエーション・ワーカー (同上)

19

塾の課題・・・人を活かす道具としてのICT支援・・・

- 10年間のICT取り組みで分かったこと
- ・市民生活レベルでの活用が遅れている。
 - ・スキルアップだけではなく、生きがい開発の観点から、ICT活用開発が必要
 - ・社会福祉の現場には全く役にたっていない
 - ・高齢者社会の活性化に役立っていない
 - ・パソコンお宅(男性)による、引きこもりが発生している。

20

シニアネットとやま既存イベント

1. 家庭生活パソコンクラブ(家庭生活リテラシー)
2. シニア情報生活アドバイザー養成講座
3. パソコンリーダー養成講座(試験なし)
4. 朝食ゼミ(月2回 朝7時から朝食勉強会)
5. 笑顔ゼミ
6. シニアネットディレクター養成講座(映像)
7. 笑顔ピクス歌体操研修会
8. デイサービスボランティア(笑顔ピクス・音楽セラピー)
9. シニアの居場所「喫茶店パンプー」交流会
10. ディリメールマガジン「大楽情報」の発信サービス

21

朝食ゼミでの「朝活」の魅力

- ・ 毎月第二、第四木曜日 朝7時～9時
- ・ 第一部 (7時～8時 朝食をとりながら)
「一読の価値ある新刊書」紹介輪読とディスカッション
- ・ 第二部 (8時～9時)「ワールドカフェ」方式による、シニアの智慧の地域還元プロジェクト開催



22

・シニアネットとやま(富山社会人大楽塾10周年記念事業1

- ・ ICTを使った究極の生涯学習にチャレンジ
大楽院円熟人間学コース(BOSATU)スタート
元気BOSATU(全ての生き物を救おうと修行する人)
これから10年の目標設定で健康生きがい管理

円熟人間学会・準位取得

- 24単位(2年) 修視(しゅし)世の中を正しく視る(人間学)
- 72単位(6年) 博世(はかせ)世の中の人間の行い正しく知る(人間学)
- 96単位(8年) 先達(せんだつ)世の中を正しくリード(円熟学)
- 120単位(10年) 観音(くわん)世の中の英知を運搬し、穏やか社会に還元する(円熟学)

23

大楽院「円熟人間学(BOSATU)コースには、教授はいないが享受は自分

- ・ BOSATUコースには、指導教員(教授)は存在しません。シニアには自分という「師(死の反面教師)」がいるのです。いまさら人に頼ることもないでしょう。人間学は学問ではありません、基本は悟る(SATORU)ことです。
- ・ これを、大楽院では「享受(きょうじゅ)」といいます。
- ・ だから大楽院には「教授」はなくて、別の「享受」はあるのです。
- ・ 月2回のワールド・カフェによる楽修と富山新西園33所めぐり、住職インタビューから円熟学を会得し、毎年開催の円熟人間学会「シニアの成人式」で研究発表を行います。
- ・ 観音(くわん)音を観る(聞くのではなく観る)ことができるようになれば、円熟の完成です。

24

シニアネットとやま(富山社会人大楽塾10周年記念事業2

- ・ 街中キャンパス(ポエシア・ブランカ)講座
 1. ストレスケア・マネジメント
 2. 笑顔ピクス歌体操健康づくり
 3. ウオーキング新西園33所巡り
 4. 地域開放「大楽サロン」であなたが主役
 5. 円熟道場で「笑って、元気に、楽しく、人生最終章を生き抜くコツ」を修行します。

Windows7 でシニアのパソコンライフ どう進化するか

マイクロソフト株式会社
技術統括室 マネージャー

大島 友子

今日はこれから1時間 Windows 7のお話を中心にさせていただきたいと思います。

早速ですが、もう Windows 7をバリバリ使っているという方がいらっしゃいましたら、挙手いただけますか。かなり多いですね。ありがとうございます。4割くらいいらっしゃった感じがします。セミナーで聞いて、今までで一番割合が高かったかもしれません。もう使っているという方も、買ったけれどいまいち分からないと言う方も、まだ Vista、XP だという方も含めて分かりやすくお話できればと思います。



日本市場での Windows 7

Windows 7ですが、昨日今日、皆様から結構評判いいとお話をいただいています。お陰様でかなり多くの方にお買い求めいただいています。Windows 7が入ったパソコンはもう 671機種あるそうです。今どうしても不況だということで、パソコンの出荷台数はかなり落ち込んでいたわけですが、この Windows 7が発売されて以降、パソコンは去年の 20%増しで売れていると聞いています。

続いて対応製品についてですが、こちらはもの

すごく力を入れた点です。実は、前回の Windows Vista が発売された時に、うちのパソコンに Windows Vista を入れても、プリンターが繋がらないとか、今まで使っていたグラフィックのソフトが使えないとか、MD ドライブがだめなんだよというお話をすごくいただきました。今回はそういったことがないようにと、対応するソフトウェアや周辺機器をメーカーさん達にお願いをして対応製品をかなり増やしました。

結果としては Vista の発売時に比べて、対応製品の数では 2.5 倍に出来ました。また、日本経済に与える効果という壮大なテーマのデータがあったので持ってきたのですが、雇用にも役立つとありまして、数字的には、2010 年までに 1,000 万本出るという予想を発表をされた会社さんがありました。

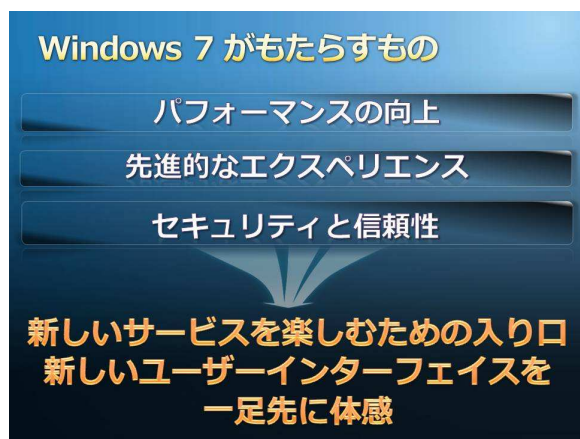
Windows 7 がもたらすもの

そういう大きい話とはもかく、Windows 7 の特徴には大きく 3 本の柱があります。1 つ目がパフォーマンスの向上です。もうすでに使っていたている方は、実感されているかもしれませんが、これから買われるという方に、よくご質問いただくのが、どれぐらいの性能のパソコンが必要なのか、Windows 7 を使うのに今のパソコンで使えるのかということです。

私ども、その点も Windows Vista の時にかなり高いスペックのパソコンを要求してしまったということがありまして、パフォーマンスを向上させることを念頭において今回は開発しました。

結果としましては、今 Windows Vista を使っているパソコンでしたら、Windows 7 は問題なく動きます。Vista よりも多分快適に動くと思います。

ですので、今パソコンが Windows Vista で、さらにもシェアロ機能ももう使えている方でしたら、Windows 7 のエアロ機能もそのまま使えますので、今迄よりもかなり快適に使っていただけたらと思います。エアロ機能は、後程詳しくお話をさせていただきます。あとよくお話をしているのが、先進的なエクスペリエンス、セキュリティと信頼性というところですが、こちらも後程見ていただきたいと思います。



ただ、Windows 7 がきれいだとか、使いやすくなったとか、軽くなったというこの3本の柱だけではなく、私達は新しいもっといろんなサービスを楽しんでいただくための入り口になるものだと思っていて、今日はそうしたサービスのご紹介もさせていただきますと思っています。

そしてもう一つ、パソコン歴の長い方がここには多くいらっしゃると思いますが、ちょっと前を考えても、すごくパソコンが進化しているとお気づきかと思えます。どんどん進化していく新しいユーザーインターフェイスで、使い方、使い勝手、操作性、そういったものが、Windows 7 では、新しいもの、未来のものを一足先に体験できるようなものになっていると思いますので、そのあたりのお話もさせていただきますと思っています。

では、シニアの皆さんの生活を変えるサービスということで私達の考えるサービスの形は、これも、3本の柱になっています。まず一つ目が情報を入手するという事です。2つ目が入手した情報ですとか、今世界中にたくさん情報がありますが、その共有ということ。3つ目は、自分たちから発信をしていくというものです。

そういうサービスの3つの柱について、

Windows 7 では、新しいユーザーインターフェイスを通して体験していただけるものになっています。それぞれどんな風に関わっていくのかというところを、今日はぜひデモなどを見ていただきながらお話をさせていただきますと思います。

マルチタッチ

ではまず、この新しいユーザーインターフェイスはどんなものかといいますと、まず先程もお話したエアロという機能、これがかなり拡張されています。それにタスクバーもすごく変わっています。あともう1つがマルチタッチです。今日、昨日とこちらに2台のタッチのパソコンを用意しておりまして、今私がパワーポイントを映しているパソコンもノートパソコンですが、タッチに対応しているものです。

じゃあ、タッチってなんだろうということを一回おさらいいたします。Windows 7 が発売された日に、テレビのニュースなどで取り上げていただいたのですが、Windows 7 の紹介というタッチの画面が出てくる映像が多かったと思います。Windows 7 はタッチといってもマルチタッチというものです。

タッチとは、フィンガータッチオペレーションとカタカタで書くと長いですが、要はマウスでなく指で直接モニターを触って操作をするというものです。クリックとかダブルクリックとかドラッグだとかいう操作を、指で出来るようになってい



ます。それだけですと、ただのタッチなのですが、Windows 7 はマルチタッチといって、指1本だけではなく2本で操作が出来ます。

今、ここに矢印が2つ書いてありますが、指2

本でまっすぐ動かすと平行移動ができます。ズーム、拡大縮小なども指 2 本で出来るようになります。また、何かを回転させるのも指 2 本で出来るようになっていきます。では Windows 7 は 2 本までかというところではなく、実は、指 2 本のタッチで戦うゲームがあり、2 人で 2 本ずつ指を使いますから、指 4 本に反応するようになっていきます。

実は、この点はパソコンやモニターのタッチ対応部分の性能と、ゲームなどソフトウェアの作り方によるのですが、タッチといってもマルチであることを、ぜひ覚えておいていただければと思います。

では、ここから実際に画面を見ていただきたいと思います。先程お話しましたように、これはノートパソコンですが、ちょっと開けてみますと、画面が普通のものより少しだけ厚くなっています。これはタッチに対応しているものですが、先程も言いましたように、Windows 7 を入れたら、全部タッチ機能が使えるという訳ではないのです。タッチ機能を使用するためにはタッチに対応しているパソコンが必要ということはぜひ覚えておいていただければと思います。



<実演>

まずこれが Windows 7 を立ち上げた時の画面です。いくつかデスクトップにアイコンを置いています。スタートメニューを開けてみますと、Windows Vista を使われている方でしたら、そんなに違いは感じられないかと思いますが、Windows XP を使われている方ですと、画面が違われるかもしれませんが、実は 2 列に直前に起動したプログラムがあったり、コントロールパネルや

ヘルプがありますので、内容はそんなに変わりません。

タスクバーの強化

違っているのは、実はこのスタートボタンの隣のところです。一番左からスタートボタンが丸くなっていて、インターネットエクスプローラーのアイコン、フォルダーのアイコンがあって、あとウィンドウズ メディア プレーヤー (Windows Media Player) という音楽を聴くアイコンがあり、Vista の時より大きくなったと思われるかと思います。ただ大きくなっただけではなく、今パワーポイントのアイコンが一番右側にありますが、私は今パワーポイントを開いていまして、開いている状態がこのアイコンになっています。いつもスタートメニューの横にあるアイコンと、何かを開いている時のアイコンが同じ大きさで、こうしてタスクバーのところに出ているということです。

ではワードを立ち上げてみますと、パワーポイントと同じように、同じ大きさで出てきます。ただちょっと違うのは、立ち上げてないものに比べて四角く囲まれているのがお分かりいただけるかと思いますが、これで今起動しているのか、それともただアイコンがあるだけなのかが分かるようになっていきます。

また、ここで右クリックをしてみます。そうするとたくさんファイルがでてきます。皆さんの中には「最近使ったファイル」からソフトを起動していた方も多いかと思いますが、以前はスタートメニューのこの辺に「最近使ったファイル」というのがありましたが、Windows 7 にはありません。

その代わりに、実はこのパワーポイントとかワードのアイコンにカーソルを当てますと、ここに「最近使ったファイル」がでてくるのです。ウィンドウズとしてではなく、エクセルとかワードとかパワーポイントとか、アプリケーションごとに、「最近使ったファイル」を持つようになっています。また、よく使うファイルについては、「最近使ったファイル」から、マウスを近づけると表示されるピンをクリックすることで、そのファイルはひとつ上の「いつも表示」というところに格納されます。これで、最近使っていなくてもそこから起動が出来るようになります。

今行ったピンの操作は、このワード自体にも出れます。右クリックをして、「タスクバーにこのプログラムを表示する」というのをクリックすると、ワードを閉じて、タスクバーにワードのアイコンをいつも表示させておけるようになっていきます。またこのアイコンは、好きな場所に移動できるのです。よくワードを立ち上げる方は、タスクバーに登録しておけば、スタートメニューやすべてのプログラムから開けなくてもいいのです。

また、タスクバーに表示したソフトは、キーボード操作で立ち上げることができるようになっていきます。このワードのアイコンを、例えば左から2番目に置くと、キーボードで Windows のロゴのキーを押しながら「2」を押すだけでワードが立ち上がるのです。アイコン表示が不要なら、右クリックして「表示しない」にすればいいのです。

便利な操作性

先ほど操作性と申し上げましたが、例えばパワーポイントを表示しながら、インターネットエクスプローラーをみるとか、エクセルを見ながらそのデータをワードにコピーするとか、いくつかのプログラムを同時に立ち上げることがあると思います。それを両方表示するときは、ウィンドウの大きさを変えるのが面倒でしたが、これも簡単にできるようになっています。

例えばこのインターネットエクスプローラーを一番左端に持っていきたいと思うと、マウスでドラッグして一番左に投げるのです。そうするとピタッと左半分いき、このパワーポイントも右に投げるとピタッと右半分いくのです。左右だけではなく、上にポンと投げると最大化になります。最大化になったものを小さくするのは、タイトルバーのところをマウスでドラッグして少し下にもってくるだけで元の大きさに戻ります。

また、いくつかウィンドウが立ち上がっているときに、要らないウィンドウを最小化していましたが、これも、見たいウィンドウのタイトルをマウスで持ってフリフリと振るとほかのウィンドウは最小化されるようになっていきます。もう一回見るよというところまで戻ってきます。こういう細かい技がありますので、Windows 7 をお持ちでご存じない方はぜひ使ってみていただければ

と思います。

先程これはタッチに対応しているとお話ししましたので、実際に見ていただきたいと思います。今、コラージュというのが立ち上がったんですが、これは写真を並べるソフトです。写真を選びたいという時も、指で選ぶことができるのです。この写真がほしいと思うと、マウスでドラッグする代わりに、指で上に上げていく形になります。今は1本の指でやったのですが、写真を少し大きくしたいという時には、先程言いましたように、指2本を使って大きくする動作をおこなえるのです。動かしたり小さくしたりすることが、どんどん指で出来るようになっていきます。閉じるボタンの「x」もマウスの代わりに、指で押すと終了します。マルチタッチ対応のパソコンですと、こういう基本的なソフトも入っていますので、すぐに遊んでいただくことが出来るようになっていきます。

実はこのタッチ、今回 Windows 7 に標準で搭載されたことで、対応パソコンがたくさん出てきたんですね。売れてもいて、安くなってきているようです。昔に比べたら、考えられないくらい安い値段で、通常のデスクトップパソコンの価格に少しプラスすることで、きれいな大きな液晶でタッチに対応しているものが購入できると思います。ではタッチの後、これからどうなるかということ、またひとつ新しいものをご紹介しますと思います。

これからのユーザーインターフェイス

プロジェクトナタルと読むのですが、ビデオをご覧くださいと思います。人間の動き、関節のところなどの動きで判断をする新しいユーザーインターフェイスとっていただければと思いま



す。格闘技のゲームをやっているのですが、何かコントローラーを手に持ったり、何か下に敷いてあって踏んだりしているわけではないのです。

よくノートパソコンでも、今は液晶のモニターのところカメラが付いているものが多いと思いますが、実はこれもテレビの下のところに小さなカメラが付いていまして、それでプレイヤーの動きを読み取ってゲームが出来るのです。何も持たなくても、身体を動かすだけでゲームができてしまうもので、もう実際に開発して発表もしています。ゲームだけではなく、テレビ番組を選ぶ時に、リビングルームで離れたところから、こうやるだけで次の番組、次の番組と送ることも出来ます。これも、テレビの下の小さなカメラで動きを見えます。そういうものも発表になっています。

あとはスレート PC というのも新しいものです。毎年1月の初めにラスベガスで大きなイベントがありますが、そちらで今年発表したものです。写真だけのご紹介になってしまいましたが、パソコンのモニターの部分だけで、そこにパソコンの機能が全部入っていて、しかも Windows 7 なので、今までと同じ操作性で使えます。もちろんタッチです。モニターのこの厚さだけで全部、HDD もメモリーも入っています。またそのもっと小型版というものももう発表しています。今年中に発売すると話していますので、こういったものも出るということを覚えておいていただければと思います。

パソコン内部の検索機能の強化

こういう新しいユーザーインターフェイスを使って、いろんな情報の入手の仕方がでてくると思います。例えば Windows 7 ですと、検索機能がすごく変わっています。またインターネットエクスプローラーがすごくバージョンアップをしまして、情報入手という意味では速くできるようになっています。あと、検索の Bing (ビング) というサービスも新しくできていますので、そちらも実際にご覧いただきたいと思います。

昨日こちらの交流広場でミニセミナーをさせていただいた時にも少しやりましたが、スタートメニューを開くと、もうカーソルが点滅してしまっていて、ここに文字を打ってくれといわんばかりに待ち構えているのです。ここに「メモ」と入力する

と、これだけで検索をしてくれます。パソコンのなかをずっと見に行って、検索の結果がスタートメニューに置き換わるのです。

検索というとファイルをさがすイメージかと思いますが、実はそれだけではなくて、一番上はプログラムのメモ帳なんですね、プログラムもこうして検索をしてきてくれます。これでエンターキーを押すと、メモ帳が青くハイライトされますので、これだけでもメモ帳を立ち上げることができるのです。こういった検索の仕方もあることをぜひ覚えておいていただければと思います。

例えばここで「MS 電気」と入力してみますと、検索結果がたくさん出て、検索結果の続きを表示をクリックしてみますと、カレンダーなども検索の結果にでてくるのです。ファイル名に「MS 電気」はないと思うのですが、実は作成者のところに MS 電気さんが作ったものだからということで検索の結果で出てきています。速くなったからここまでできるんですね。ここまで検索の対象にしていたら遅くなってしまふのではと思うのですが、検索が今回本当に速くなったので、こういうことが出来るようになっています。

もうひとつプレビューウィンドウというのもありまして、ファイルを選択してみますと、実際に開かなくても中身が見られるというものです。今回 Windows 7 の検索機能として、どんなファイルでもできるようになっています。

ブラウザーと検索エンジンの進化

先程お話をした インターネットエクスプローラー8 (Internet Explorer 8) ですが、もう実際に使っていただいている方のなかで、インターネットエクスプローラーで何かを選ぶと青いマークが出てくるのをご覧になった方がいらっしゃると思います。どういうものかといいますと、この住所、東京都新宿区代々木を選んでみますと、青いマークが出てきます。これをクリックしてみますと、これだけでマップとか検索とか翻訳などが出来るようになっています。

たとえば今までインターネットをしていて、ページ内に表示された言葉を検索したいときは、選んでコピーして新しいページを立ち上げて、ヤフーやグーグルに貼り付けをして検索をしていたと

思うのですが、これですと検索がここで出来るようになっていきます。住所からマップが選べますので、ここで地図を見ることが出来ます。もっと大きくしたい時は、大きいものを出すというふうに指示をすればいいだけです。翻訳もここで出来てしまいます。

また、先ほど青いマークが出てきたところでも、表示されていましたが、ビングという検索サービスもマイクロソフトで提供しています。先ほどのように、インターネットエクスプローラーからも検索できるのですが、ビングのページを開いていただくと、札幌の雪まつりの写真が出てきたりしますが、その日に合わせて毎日写真が変わります。豆知識も出てきたりします。



これで何か検索をしてみたいと思います。Windows 7 という言葉で検索をしてみますと、ただ検索の結果だけではなくて、例えば Windows 7 に関するニュースとか Windows 7 の画像とか、見たいと思われるものを検索結果のほうで考えて出してくれるような機能も入っています。画像や動画もすぐに簡単に選べますが、動画もたくさんあって、マウスを近づけるとその場で動画が始まってどんなものか分かるといったことも出来るようになっていきます。

パソコン操作のプロセスを情報共有

パワーポイントの方に戻りまして、情報共有ということでお話をさせていただきたいと思います。今日はアドバイザーの方もたくさんいらっしゃると思いますし、シニアネットに関わっている方がほとんどということで、「問題ステップ記録ツール」というものをご覧いただきたいと思います。

まず、先程の検索機能をせっかくですので使っ

てみたいと思います。「問題ステップ記録ツール」はコントロールパネルのなかに入っている機能ですが、ちょっと深いところにあってどこにあるか探してしまいそうなので、検索のところ「問題」と打ってみます。そうするとたくさん、問題という言葉に関わるコントロールパネルの機能ですとかファイルなどが出てきて、その中に「問題を再現する手順の記録」というものが出てきますから、これをクリックしてみます。

すると録音をする時のバーのようなものがでてきます。問題ステップ記録ツールと出ています。「記録の開始」を押しますと、記録中とでます。ではどういうふうに何を記録するのか、やってみたいと思います。操作を記録してくれるものですので、パソコンを操作してみたいと思います。

スタートメニューを開いて、コントロールパネルをクリックしてみます。ユーザーアカウントをクリックして、ユーザーアカウントの画像の変更をクリックしてみます。たくさん画像があるということを見たら、キャンセルして閉じてみます。ここで「記録の停止」を押します。

そうするとすぐに名前を付けて保存しなさいといわれますので、デスクトップに適当に AAA と名前を付けて保存してみます。デスクトップを見ますと、AAA と書かれたフォルダーがあり、zip フォルダーになっています。なかを見ますと、先程の記録のツールバーがでている画面がキャプチャーされているのです。記録するといっても、カメラでビデオを撮るとかではなく、自動的にスクリーンショットをキャプチャーしてくれるのです。

私がスタートボタンのところに来て、スタートメニューをクリックして、ここに操作も書いてあるのですが、ユーザーによって左クリックでコントロールパネルをクリックしたということです。まさに私が行った操作がスクリーンショットでとられていて、マウスがどういう動きをしたかが書かれています。ユーザーアカウントをクリックして開いて、画像の変更をクリックしてキャンセルを押したという感じです。このように自動的にスクリーンショットをとってくれる機能です。

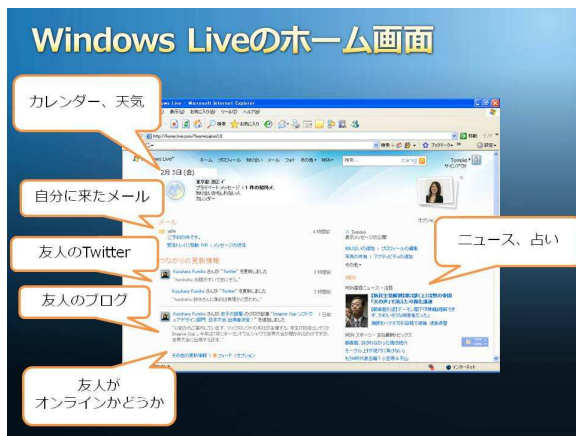
「問題の記録をとる」という機能ですが、例えばこれは皆さんが何かトラブルがあって、誰かに助けてもらう時に、こんな状況だったと知らせる、

再現させるために動作を録画しておくことができますし、逆に皆さんが、正しい手順はこうだというのを記録させておいて、記録は zip フォルダになっていますので、それをそのまま皆さんの生徒さんに送るといった使い方もできると思います。また画像はもう、右クリックしていただければ普通に名前をつけて保存したり、コピーしたりができますので、簡単なテキストを作られる時なども、使っていただけたらと思います。

このように、この機能はアドバイザーの皆さんにはお役に立つと思いますので、ぜひ使ってみていただければと思います。「問題ステップ記録ツール」というものです。

家族や友人とネットで情報共有

もうひとつ、今度は話が大きくなるのですが、ウィンドウズ ライブ (Windows Live) というものです。ホットメール (hotmail) のアカウントをお持ちの方も多いかと思いますが、ホットメールのアカウントを含め、いろんな情報を一元化して共有できる場所と考えていただければと思います。実は、ウィンドウズ ライブは無料で 25GB の容量を持てるようになっていました。それも自分だけで使ってもいいですし、他の人と共有することも出来ます。ファイルだけではなく、写真の共有も簡単にできます。



たとえばこれはウィンドウズ ライブのホーム画面ですが、一番左上にカレンダーや天気があり、自分に来た新着のメールを表示してくれます。こんなふうに新しいメールがきていますとメールの画面に行かなくても分かるようになっていました。

昨日もツイッターの紹介がありましたが、自分

が登録した友達のツイッターの更新情報なども見えるようになっていました。それだけではなく、ブログも登録しておく、この人がこういうブログを更新したというのが、最初の方だけこうして実際の言葉を見て分かるようになっていました。

さらに登録している友人が、今オンラインかオフラインかというのも分かるようになっていましたので、オンラインだと、ここでチャットを始めることも出来たり、今いないというのも分かったりなど、共有できるようになっています。もちろんニュースとか占いなど、いろんな情報をひとつの画面で出せるようになっていました。

先ほど写真の共有と言いましたが、ウィンドウズ ライブにファイルや写真を置いておいて、自分だけで見られることもできますし、他の方がそれを見にくることももちろんできます。下の方にあるのはフォトフレームです。フォトフレームは、お持ちの方が多いかもしれません。USB メモリーを挿して、メモリーのなかにある写真を自動的に順番に変えてくれるのがありますが、実はウィンドウズ ライブと連携しているものもでてきます。

たとえば、おばあちゃんに孫の写真を見せるのに、ウィンドウズ ライブなら、あらかじめおばあちゃんフォトフレームに設定をしておくと、お父さんがウィンドウズ ライブに新しい写真を置けば、おばあちゃんフォトフレームの写真がどんどん新しいものにアップデートされるのです。そのお家に行って写真を入れたりしなくてもいいのです。このようなサービスもできるようになっています。皆さんは多分ご自身で設定される方だと思いますので、お友達ですとかそういった方にも教えていただければと思います。

家庭のパソコンでの情報共有をやすく

次に、ホームグループというものがあります。ホームグループでリモート再生、あとはリモートメディアストリーミング、このあたりもご紹介させていただきたいと思います。

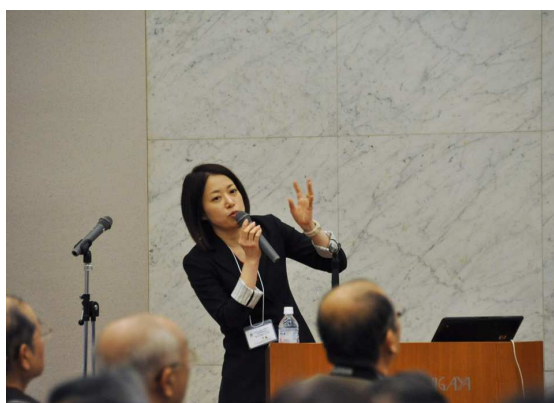
ホームグループとは何かといいますと、Windows 7 にこれも標準でついてくる機能になります。特に皆さまのような方ですと、複数のノートパソコンやデスクトップパソコンをお家で使われているという場合、Windows が入っていて、

LAN でインターネットを繋げようとする、Windows 7 でホームコンピューターに参加するように招待されていますというメッセージが出てくるのです。参加するということになりますとパスワードの入力が必要になります。パスワード入力でも共有してもいいということになったら、今度は何を共有するかが選べるようになっています。

たとえばプリンターは共有してもいいが、ドキュメントは他の人とは共有しないというように、何を共有するのかが選べるようになっています。そうするとフォルダーの画面で、自分のパソコンの中身以外に、ホームグループとして一緒に繋がっているお家の他のパソコンに、これだけの設定で見に行くことが出来るのです。

これまでですと、お家でサーバーをたてたりですとか、ピアツーピアで繋いだりという設定が必要でしたが、もう経験した方もいるかもしれませんが、Windows 7 で繋げようとする、自動的に繋がませんかといってくるのです。いやな場合はやりませんと言えいいのですが、やりたい場合は、パスワードだけ設定すればお家のなかで共有ができてしまうのです。

では実際にどのような使い方があるかといいますと、遠隔操作で他のパソコンが使えるようになりますので、例えばパソコンを全然違う場所に置いておいて、大画面のテレビで再生させるということも出来るのです。



ただファイルの共有以外にもこういった楽しみ方が出来るようになっています。お家のなかだけではなく、先程の写真の共有にも近いものがあるのですが、外にいる場合、例えば外出先から自宅のパソコンのなかにあるビデオを見たいというのも、ウィンドウズ ライブで ID を設定しておけば出来



るようになるのです

こういったことをリモートメディアストリーミングと呼んでいるのですが、そういった設定も Windows 7 ですと、これまでと違ってとても簡単に出来るようになっていて、いろいろなメディアの共有も行えるようになっています。

画面を拡大表示させる機能

ところで、こういうお話をさせていただく時に、先程のマルチタッチのものとは違うのですが、画面の大きさを拡大できるようになっています。

マルチタッチは、タッチに対応していないパソコンでは、関係のないお話になってしまいますが、これからご紹介する機能は、Windows 7 が入っている方でしたら、どなたでも使えるものです。

たとえば、先ほど Windows キーを押しながら「1」あるいは「2」を押すと、タスクバーのソフトウェア 1 番目にあるもの、2 番目にあるものを立ち上げることができるとお話ししましたが、Windows キーを押しながら「+」を押してみますと、マウスの回りの画面が拡大します。お分かりいただけますでしょうか、カレンダーのところをマウスを近づけるとそのなかだけ大きくなっているのです。下の方を見ていただくと、タスクトレイのところも見やすくなりますので、皆さんが講習の際にここの部分だけ大きくしたいという時に、使っていただけたらと思います。

マウスの回りだけではなく全体の画面を大きくすることも出来るようになっていきますので、それも出してみます。今 200% ということで、2 倍の大きさに表示されて、全体が大きくなっています。Windows キーを押しながら「+」を押しただけで

画面が大きくなっているのです。押すとどんどん大きくなります。もう少し小さくしたい時は、**Windows** キーを押しながらキーボードの「-」を押すと小さくなってもとに戻ってきます。

もうお持ちで使ったことがないという方はぜひお使いいただければと思います。**Windows** を押しながら「+」です。

覚えにくい、分かりにくいという場合は、ここに実はちょっと可愛いアイコンがあります。モニターに虫眼鏡がついているようなマークですが、実はこれが今画面を大きくしたアプリケーションが立ち上がった状態ということを示しています。マウスを近づけると拡大鏡とでています。拡大鏡というアプリケーションソフトが今立ち上がっているのです、大きくなったということなのです。

さきほどワードでやりましたように、これはひとつのソフトですので、やはり右クリックしてタスクバーに表示させておくことができます。こうしておいておきますと何も変わらないようですが、一回これを閉じてしまいます。

こうすると閉じてしまっても、拡大鏡をいつも置いておくことが出来ますし、先程もお見せしたように、タスクバーの好きなところに持って行くこともできるのです。これをクリックしていただくと拡大鏡が立ち上がり、今 100%になっていますが、キーボードじゃなくても、マウスで「+」をクリックしていただくと、これだけでどんどん大きくなりますし、「-」をクリックしていただくとどんどん小さくなります。今、全画面になっていますが、レンズにさせていただくと、マウスの近くだけをレンズで見ているように一部分だけ大きくすることも出来るようになっています。この機能は **Windows 7** であればどのパソコンでも出来ますので、ぜひ試していただきたいと思います。

コンピューターの簡単操作

もうひとつ設定のお話ですが、コントロールパネルのなかに、「コンピューターの簡単操作」というのがありまして、中に「コンピューターの簡単操作センター」というのがあります。名前が簡単なんだか難しいのか分からないですが、コンピューターを簡単に操作するセンターという、本当にそのままの名前です。これを見ていただくと、先

程の拡大鏡もありますし、下には「マウスを使いやすくします」とか、「キーボードを使いやすくします」というのもあります。あと「コンピューターを見やすくします」というのもあります。

昨日も今日もいくつかマウスや画面のご質問を頂きましたが、マウスの設定を変えるのに、コントロールパネルの中を探してしまうことがあると思います。そういう時には、この「コンピューターの簡単操作センター」のところからですと、たとえば「マウスを使いやすくします」に、マウスの設定がまとまっています。マウスのプロパティの画面に飛ぶことも出来て、深いところを探しにいかなくても、機能がまとめられていますから、ぜひ覚えておいていただければと思います。

たとえば「コンピューターを見やすくします」には、先ほどの拡大鏡もありますし、テキストとアイコンのサイズを変更する、大きくするというのもこの辺にありますし、「ディスプレイの効果を詳細に設定します」というとアイコンだけを大きくするといった設定もここから出来るようになっています。様々な設定は、コントロールパネルとか、アクセサリとか、解像度の変更なら画面で右クリックして、そこからプロパティを出すといった、いろんな仕方がありますが、ここからなら、画面に関するもの、マウスに関するものというふうにわかりやすく出ていますので、ぜひこちらで設定を見ていただければと思います。

でもこれがコントロールパネルのどこにあったか、これ自体に行けないと困ってしまうので、これも一応キーボードのショートカットがあります。今度は **Windows** を押しながら「U」なのです。ユニバーサルデザイン (**Universal Design**) の「U」と覚えていただくといいかもしれません。**Windows** キーを押しながら「U」と押していただくと、このコンピューターの簡単操作センターがすぐに立ち上がりますので、ここで設定を変えるところにいろいろジャンプができると思っています。ただければと思います。

クラウド・コンピューティングによる情報発信

では話が間に入ってしまいましたが、最後に情報発信のお話をさせていただきます。

今日ひとつご紹介させていただきたいのが、オ

フィスライブスモールビジネス（Office Live Small Business）というものです。また長い名前になっていますが、先程のはウィンドウズ ライブというものでした。今度はオフィスライブスモールビジネスというものです。



マイクロソフトの製品は ライブとつくると無料とあっていただいて今のところ大丈夫です。このオフィスライブスモールビジネスも無料のサービスです。いろいろな機能がありますが、一番大きいのが無料でホームページ、自分のサイトを持つことができるようになっていきます。どこかプロバイダーさんをお願いしたり、毎月いくらかのサービスでという形ではなく、自分のサイトや、自分の団体のサイトが持てるのです。これで作っていただいているシニアネットさんのページを拝見したこともあります。かなりもうフォーマットが用意されていますので、そこに写真を入れたり、問い合わせ先のメールアドレスを入れたりして、自動的にページが出来あがるような形です。といっても幾つもフォーマットがありますので、全く皆さんが同じデザインになってしまうわけではないのです。オリジナルな写真ですとか、レイアウトにして入れていただくことも出来るようになっていきますので、ぜひこうしたものもお使いいただければと思います。

こういった自分や自社でウェブサイトを持つというのは敷居が高いというお話もよく伺ったりするのですが、まさに今話題になっているこうしたことが本当にクラウドコンピューティングという言葉につながっていくのです。クラウドコンピューティングは、最近新聞などでもでていて、個人やシニアネット単体だとあまり関係がないかとい

うふうと思われるかもしれませんが、実は全然難しいことではないのです。

サーバーを今まで自分でもったりメンテナンスしなければならなかったのを、まとめて持ってくるところに必要な時だけ借りに行くサービスというふうを考えていただけるといいと思います。このオフィスライブスモールビジネスというのももちろんそうですし、先程のウィンドウズ ライブもそうですし、もっといってしまうと、ツイッターもそうですし、ブログなどもそのサービスの一部だと考えてしまってもいいと思うのです。

よくシニアネットさんでサーバーを持っていて、そのメンテナンスが大変というお話を伺うことがあるのですが、そういった部分は人にお任せをして、実際の中身の方に力を入れていきましょうとすとか、もっと楽しむ方に力を入れていきましょうということが出来るようになるかと思っています。マイクロソフトはそういった製品やサービスも出して、一番下に書いているのはアジュールと読むのですが、これはライブが付かないので、ただではなくて課金をするサービスなのですが、こういったものもごさいます。

一足先に体感して楽しく使う

今日見ていただいたのが Windows 7 ですが、本当に、皆さんがされている情報の入手ですとか、共有ですとか、発信という様々な行動を、実際に新しい簡単な操作しやすいインターフェイスで実現しようとしているのが、Windows 7 というふう

に思っていただけだと思います。最初の話に戻りますが、Windows 7 単体ですと、速くなりました、軽くなりましたとお話できますし、マルチタッチとか、タスクバーとか、いろんな機能が増え、セキュリティも向上しています。それは Windows 7 単体で使った時のお話になりますので、新しいユーザーインターフェイスを一足先に体感できるものとしてサービスとあわせて触っていただくとともに楽しく使っていただけるようになると思いますので、ぜひそういったことを頭に置きながら楽しんでいただければと思います。お時間が過ぎてしまいましたが、こちらで終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

◆グラビア◆

シニアネット交流広場



全国各地で活躍しているシニアネット(17団体)から活動状況が報告・展示されました。また、協力企業によるお役立ちコーナーもあり、会期中、数多くの参加者が訪れ、会場のあちこちで交流の輪ができ、会話が弾んでいました。









団体名	HP
財団法人 ニューメディア開発協会	http://www.nmda.or.jp/mellow/adviser/
財団法人 JKA	http://www.keirin.jp
新陽パソコン倶楽部	http://knock-knock.jp
NPO法人 あいてい塾ぐんま	http://www3.wind.ne.jp/it-juku/
NPO法人 東上まちづくりフォーラム	http://www.tojocity.org/
NPO法人 すぎとSOHOクラブ	http://www.sugito.com/
いちえ会	http://www.ichiekai.net/home/
NPO法人 シニアネットクラブ	http://snc.npgo.jp/
多摩IT普及会&	http://www.keio-hot.net/
京王ほっとネットワーク	http://www.keio-hot.net/
NPO法人 わくわくネット	http://www.npo-wakuwaku.net
東葛インターネット普及会	http://www.geocities.jp/toukatsu_i/
マイクロソフト株式会社	http://www.microsoft.com/ja/jp/
NPO法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット	http://www.abikosln.org/NPO/
NPO法人 シニアSOHO横浜・神奈川	http://svyk.jp
シニアネット刈谷	http://www.katch.ne.jp/~wakai/index.html
NPO法人 シニアネット相模原	http://www.snsagami.org/
シニアネットとやま	http://syakaijin.com/
シニアネットやまぐち	http://senior-net-yamaguchi.cool.ne.jp/
熊本シニアネット	http://ksn1.huu.cc/
NPO法人 沖縄ハイサイネット	http://www.e-haisai.net/
株式会社 D i g i B o o k	http://www.triworks.com/japan/

クロージングセッション

「総括」



いちえ会主宰 大林 依子

皆様、二日間にわたるシニアネットフォーラムにご参加いただき、本当にありがとうございました。今回は予想を上回る大勢の皆様に来ていただき、大変うれしく思っております。

応募総数は258名でした。そのうちご来場にならなかった方が13名でしたので、245名の方にご参加いただいたこととなります。また、お申し込みなく来てくださった40名の見学者の方を含めると、285名の方にご参加いただいたことになりまして、画期的な数字ではないかと思っております。

今回基調講演は、基調講演Ⅰに樋口恵子先生、基調講演Ⅱに佐々木博先生をお迎えしました。樋口先生のシニアについてのお話からは「これからテクノロジーを使いこなしていくには男も女もなく、どんどん使いこなしていきましょう」というメッセージをいただきました。佐々木先生はまさに最先端、「使いやすく易くなったITツールを使いこなして、持てる情報を発信していきましょう」というお話でした。またパネルディスカッションでは基調講演Ⅱの佐々木先生のコーディネートのもと、各シニアネットの皆さんと行政の方を交えての活発なディスカッションが行われました。

2日目のワークショップでは、5つの分科会に分かれそれぞれに抱える問題点などを、ご参加の皆さんと討議し、アイデアを出し合っていただけのことと思います。また今回は、マイクロソフトの大島様にWindows7の特別セミナーを実施していただきましたが、1日目の交流広場でのハンズオンには黒山の人だかりができたことと、併せて大勢の熱心に聞き入っておられる参加者の皆さんの姿が印象的でした。

いちえ会は、16年前にこの活動を始めた当初から一貫して、パソコンはシニアが社会とつながるための重要なツールであるという考え方で活動してきました。当初からのメール・掲示板に始まり、ブログ、SNSと進化してきています。今回のツイッターもそのひとつですが、どれもだんだん身近になり、発信するハード

ルが低くなっています。むしろ、これからはパソコンの操作方法ばかりでなく、何をどう活用し発信するかという、まさにシニア情報生活アドバイザーの目指すところが、ますます重要になっています。これからのシニアネットは、読んだり書いたり計算したりという方法や手段を教えるばかりでなく、その中から何を生み出せるだろうかということをご提案していくという活動に変わっていかねばならないということを感じつつ、二日間皆さんのお話を伺っていました。

シニアは発信するものをたくさん持っています。ツイッターのような極めて緩やかな情報発信のツールが出てきましたので、それらを使いこなし社会と繋がっていききたいものです。

実は一日目の佐々木先生の基調講演は、ツイッターを使ってリアルタイムで実況中継されていました。もちろん実況者をフォローしていなければ読むことはできないわけですが、それでも、誰もがリアルタイムで放送局になれるということを実践しました。その中継をしてくれた若い大学生の方がその中で「世代を超えた共感が生まれる気がする」と言っています。若い世代がシニアネットフォーラム21から、こんな感想を持ってきていることから、これからは世代を超えた交流が大切であり、それが可能なことも実感させていただきました。

今回は、過去最も多数の方のご参加をいただき、また新しい時代を感じるフォーラムが実施できたことを心から感謝しています。どうか今後は、もう一步踏み出した新しいシニアネットの活動が生まれますよう願っています。

最後になりましたが、基調講演の樋口様、佐々木様、パネリストの皆様、ワークショップで活発な討議をくださった皆様、そして何より今回のシニアネットフォーラム21 in 東京にご参加くださった皆様に心から感謝申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。皆様、二日間、本当にありがとうございました。

シニアネット・フォーラム 21 in 東京

付 属 資 料

シニアネットフォーラム21 in 東京 2010

◇シニアネットはシニアの生きがい、シニアライフをもっと楽しく、もっと豊かに◇

～新たなシニア文化の創造と発信～

平成22年2月4日(木)～5日(金)

アルカディア市ヶ谷 私学会館(東京都千代田区)

主催:財団法人 ニューメディア開発協会(<http://www.nmda.or.jp>)

この9月の敬老の日に、我が国は65歳以上の高齢者人口が約2898万人、人口比率で22.7%になったと報じられました。今年もまた一段と高齢化が進み、実に4.4人に1人が65歳以上と言うこととなります。日本の総人口は減少を続けている中、団塊の世代の高齢者の仲間入りが間近に控えているなど高齢化は今後ますます進み、少子化と相俟って2055年には65歳以上の高齢者が41%を占めるであろうと予測されております。ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくるということになります。

高齢者が数の上でメジャーとなっている時代、かつて団塊の世代がそうであったように、高齢者のパワーが社会を変えていく、と言っても過言ではありません。これからは高齢者が社会の主役として、様々なシーンで社会を牽引していくことが求められていると言えます。

世の中が急激に、かつ大きく変わろうとしている今こそ、高齢者の方々も、ご自身の意識や生活様式等自らの生き方を見つめ、自ら変革していくことが重要であり、高齢者の新しい文化・潮流を形成し、広く社会に発信していくことが肝要かと思えます。

そうした中、自己実現の場を求め得意のITを駆使して社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集い、高齢者へのIT講習はじめ様々な社会参加活動を活発に展開している「シニアネット」が全国各地にあって各々独自の活動を展開しております。まさに高齢社会、高度情報社会の申し子として、今や“高齢者の生きがい”“高齢者の居場所”(当協会アンケート結果より)となって、高齢者の新しい生き方や新しい文化を実現する手段となっております。

このように、シニアネットは、高齢者に“地域デビュー”を促し、多くの仲間を得て、共に楽しく、活き活きとした豊かなシニアライフやこれまで培ってきた知識・技術・経験等をもとに再び社会に参加出来る機会をもたらしております。そして自治体等との協働(コラボレーション)を促進し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に欠かすことの出来ない強力なパートナーでもあります。シニアネットは高齢者にとって、社会にとってなくてはならない、極めて意義深い重要なものとなっております。

当協会は、旧通商産業省(現経済産業省)が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指すために様々な事業を展開して参りましたが、構想実現にこうしたシニアネットの活動は欠くべからざる重要なものと認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ連携を強化して参りました。

こうした中シニアネットが全国津々浦々にあって、高齢者が地元で生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えております。

そこで、当協会は、経済産業省や財団法人JKAのご指導、ご支援を得てシニアネットの普及・拡充を図ることとし、「シニアネットフォーラム21」を毎年全国で開催しております。

この度は平成21年度第二弾として「シニアネットフォーラム21 in 東京 2010」を東京・千代田区で開催し、シニアネットの一層の普及・発展を図ることと致しました。

シニアネットが高齢者の生きがいとして、より一層広くそして深く浸透していくことを祈念し、既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「シニアネットに参加したい…」「シニアネットを創りたい…」「地域デビューをしてみたい…」「何か地域のために活動してみたい…」等々これからの活動をお考えの高齢者や団塊の世代等その予備軍の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の関係者等幅広い分野の方々に気軽に参加頂き、熱い議論と深い交流を展開して頂ければと切望致しております。

このフォーラムが、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

開催概要

日時	平成22年2月4日(木) 10:30~16:30 (懇親会16:45~18:45) 2月5日(金) 10:00~16:15	●参加申し込みについて 下記いずれかの方法でお申込み下さい。 ①FAXまたは郵送でのお申し込みの場合 同封の参加申し込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記「フォーラム事務局」までお送り下さい。 ②ウェブサイトよりお申し込みの場合 下記ウェブサイトへアクセスして頂き、専用フォームよりお申込み下さい。 ◆フォーラム事務局 http://www.ichiekai.net/snf2010/ ◆主催者 http://www.nmda.or.jp/mellow/adviser ※申込締切後「参加証」をお送り致します。なお定員に達した時点で締め切らせて頂きますのでご了承下さい。
会場	アルカディア市ヶ谷 私学会館 3F 富士の間 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25	●懇親会のご案内 どなたでもお気軽に、ご参加下さい。 新しい出会いをつくり、お互いの親交を深めて頂ける場です。ご参加頂いた皆様同士、親しく、そして楽しくご歓談頂きながら、有意義なひとときをお過ごし下さい。また、余興など楽しい催し物をご用意しております。 ■会場：アルカディア市ヶ谷 私学会館 3F 富士の間(西) ■会費：5,000円
主催	財団法人ニューメディア開発協会	●ご昼食のご案内 12月4日(木)のみ、お弁当をご用意致します。どうぞご利用下さい。12月5日(金)は、館内もしくは最寄のレストランをご利用下さい。 ※当日、会場最寄の飲食店MAPをお配りいたします。 ■料金：1,600円
後援	経済産業省(予定)	●費用の振込みについて 懇親会・ご昼食をご希望の方は、事前に下記口座に所定の金額をお振込頂きますようお願い申し上げます。尚、振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。
協力	いちえ会 マイクロソフト株式会社 株式会社デジブック (五十音順)	お振込み先 みずほ銀行 渋谷中央支店 口座番号:1320018 口座名:シニアネットフォーラム21事務局
定員	約200名	申込締切:平成22年1月22日(金) (郵送の場合、当日消印有効)
参加費	無料	
参加対象	・シニアネットへの参加や新規設立等、シニアネットに関心のある方 ・シニアネットのメンバーの方 ・団塊の世代の方 ・シニア情報生活アドバイザーの方 ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進をご担当の方 ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方 ・コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方 等々	
	【参加申込書送付先/お問い合わせ先】 「シニアネットフォーラム21事務局」 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階 日本コンベンションサービス株式会社内 (白川、堀内) TEL 03-3508-1213 / FAX 03-3508-0820 e-mail snf21@convention.co.jp	

会場へのご案内

- 地下鉄南北線・有楽町線 市ヶ谷駅A1-1番出口
- 地下鉄新宿線 市ヶ谷駅 A1-1またはA4出口
- JR中央線 市ヶ谷駅
上記各出口から徒歩約2分

JR市ヶ谷駅

地下鉄A1-1出口



フォーラム会場
(アルカディア市ヶ谷
(私学会館)
3F富士の間(西))

地下鉄A4
出口

プログラム

2月4日(木)

09:30～10:30	受付	
10:30～10:45	開会 オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 岡部 武尚(財団法人 ニューメディア開発協会 理事長) ・来賓挨拶 経済産業省商務情報政策局(予定)
10:45～11:50	基調講演 I	<p>「人生80年時代、シニア世代の新しい生き方 ～男女共同参画の時代、力を合わせて社会の主役に～」</p> <p>樋口 恵子 氏(評論家)</p>
10:30～15:30	シニアネット交流広場	シニアネットの成果展示による相互交流の場
11:50～13:00	休憩(昼食)	
13:00～14:00	基調講演 II	<p>「ITの進歩はシニアとシニアネットの活動を劇的に変える」 ～地域や社会を変えるパソコン教室をつくろう～</p> <p>佐々木 博 氏(オフィス創庵 代表取締役)</p>
14:00～14:10	休憩	
14:10～16:30	パネルディスカッション	<p>「シニアネットはシニアの生きがい、もっと楽しく、もっと豊かに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター 佐々木 博 氏(オフィス創庵 代表取締役) ●パネリスト(五十音順) 秋元 竜 氏(鳥取県 企画部 協働連携推進課) 生部 圭助 氏(NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長) 高橋 泰子 氏(新陽パソコン倶楽部 代表) 奈良井 昌雄 氏(シニアネットやまぐち 代表) 能田 幸生 氏(NPO法人トータル・サポート21 理事長)

2月4日(木)

16:45～18:45	懇親会	3階 富士の間(西)
-------------	-----	------------

プログラム

2月5日(金)

09:30～10:00	受付	
10:00～12:00	ワークショップ	<p>「シニアネットをもっと豊かに！ 生きがい求め、シニアネットのあり方を探る」</p> <p>【テーマ1】 「男性も女性も、皆が楽しむ、魅力あるシニアネットめざして」 課題提供者: 中島 敬也 氏(熊本シニアネット 代表)</p> <p>【テーマ2】 「コミュニティ・ビジネスでシニアの知見を地域に活かす」 課題提供者: 大熊 勇雄 氏 (NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川 副代表理事)</p> <p>【テーマ3】 「シニアへのIT講習で生き甲斐づくり、人に喜ばれ自分も喜ぶ」 課題提供者: 若井 光也 氏(シニアネット刈谷 代表)</p> <p>【テーマ4】 「行政との協働を促進し、地域社会のために」 課題提供者: 千品 雅彦 氏 (NPO法人つれもてネット南紀熊野 代表理事)</p> <p>【テーマ5】 「シニアの社会参加を促し、シニアの自立をめざして楽しく学ぶ」 課題提供者: 柳原 正年 氏(シニアネットとやま 代表)</p>
12:00～14:00	シニアネット交流広場 休憩(昼食)	シニアネットの成果展示による相互交流の場
14:00～15:00	シニアネットフォーラム 特別セミナー	「Windows7でシニアのパソコンライフはどう進化するか？」 大島 友子 氏 (マイクロソフト株式会社 技術統括室 マネージャー)
15:10～16:10	ワークショップ発表	各テーマの討議内容発表(発表者:各コーディネーター)
16:10～16:15	クロージングセッション 閉会	「総括」 大林 依子 氏(いちえ会 主宰)

基調講演Ⅰ (10:45~11:50)**「人生80年時代、シニア世代の新しい生き方****～男女共同参画の時代、力を合わせて社会の主役に～」****樋口 恵子 氏(評論家)**

我が国の高齢化は急速に進み、2055年には実に総人口の41%が65歳以上になると見込まれています。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではありません。人生80年時代、そして男女共同参画が叫ばれている時代、シニア同士、男性も女性も力を合わせて、シニアライフを実り豊かなものとすべく新しい生き方を身につけていくことが重要となっております。

そうした中、「シニアネット」はシニアの「生きがい」となり、シニアの「居場所」となって、シニアの自立を支え、社会参加を促す誠に意義深いものとなってきております。シニアが地域デビューを果たし地域で活躍するに相応しいものになっておりますが、シニアネットはやや「男性社会」の傾向が見られます。しかるに、女性が活躍されているシニアネットは概して活発な活動を展開していると見られ、女性のより一層の参加が肝要かと思われます。

そこで、シニアの新しい生き方に造詣の深い著名な学識経験者から、女性の社会参加活動の重要性に触れていただきながら、シニアは今後、どう生きるべきか、シニアの社会参加・市民活動の意義等について言及していただく中、その新しい生き方について語って頂きます。

基調講演Ⅱ (13:00~14:00)**「ITの進歩はシニアとシニアネットの活動を劇的に変える」****～地域や社会を変えるパソコン教室をつくろう～****佐々木 博 氏(オフィス創庵 代表取締役)**

高度情報化社会が進展する中、ITはますます人々の生活に深く関わってきております。とりわけシニアにとってITはシニアライフを実り豊かにする道具として日常生活に欠かせない存在になってきております。ITと暮らすシニアにとって、ITを活動の基盤しているシニアネットにとって、日進月歩を続けるITが今後、シニアの生活にいかなる影響をもたらすことになるのか、そしてシニアライフにいかなる夢や安らぎをもたらしてくれるのか、自らの世界を変えうるものとして、大きな期待を抱いております。

そこで、NHK教育テレビの番組「趣味悠々」で中高年のITの利活用を指導されている等シニアのITライフに詳しい有識者から、ユビキタス時代を生きるシニアの生活やシニアネットの活動にITの進歩がいかに劇的な変化をもたらすことになるか、新しい技術の利活用等をご紹介いただきながら、分かり易く展望していただきます。

パネルディスカッション (14:10~16:30)

「シニアネットはシニアの生きがい、もっと楽しく、もっと豊かに」

- コーディネーター: 佐々木 博 氏 (オフィス創庵 代表取締役)
- パネリスト(五十音順)
 - ・ 秋元 竜 氏 (鳥取県 企画部 協働連携推進課)
 - ・ 生部 圭助 氏 (NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長)
 - ・ 高橋 泰子 氏 (新陽パソコン倶楽部 代表)
 - ・ 奈良井 昌雄 氏 (シニアネットやまぐち 代表)
 - ・ 能田 幸生 氏 (NPO法人トータル・サポート21 理事長)

我が国にシニアネットが誕生して以来10年余が経過した現在、全国各地で多くのシニアネットが活躍しております。そして、各地でシニアの情報リテラシー向上やその活性化、地域の情報化促進等有意義な活動を展開し、大きな成果を収めてきております。

そうしたシニアネットの活動を通して、シニアは自らの生活を楽しく実り豊かなものにし、新たな生きがいを見出そうとしております。新しいシニアライフのあり方を求める中で、シニアならではの新しい文化が形成され、それが全国に発信され、うねりとなって多くのシニアの間に広がっていくことが期待されます。

団塊の世代がシニアの仲間に加わろうとしている等、新しい局面を迎えようとしております今日、シニアの生き甲斐とシニアネットとの関係について議論することは極めて重要なことと思います。

そこで、各地で活躍されているシニアネットの代表者やそれを支える行政関係者にお集まりいただき、シニアがシニアネットの活動を通して、どう生きがいを見出しているか、シニアの居場所を皆で考え、その意義を明らかにし、今後のシニアネットのあり方について皆で考えていただきます。

ワークショップ (10:00~12:00)**「シニアライフをもっと豊かに！ 生きがい求め、シニアネットのあり方を探る」****【テーマ1】 「男性も女性も、皆が楽しむ、魅力あるシニアネットめざして」**

課題提供者:中島 敬也 氏(熊本シニアネット 代表)

高齢社会において、シニアが地域でこそ最大の社会的資源であると言われておりますが、とりわけシニアネットは、その活動実績等を通してシニアの良き拠り所、資源の源泉として大きく期待されております。多くのシニアの方々は、自ら“地域デビュー”を果たし、シニアライフを豊かで実りあるものにしたいと切望されておりますが、それを実現する場としてシニアネットは大きくその役割を果たしてきております。当協会の調べでもシニアネットはまさにシニアの「生きがい」「居場所」等と位置づけられてきております。団塊の世代が近々65歳になる等節目を迎えようとしているこの時期、男女ともに多くのシニアがシニアネットに参加して生き生きと活動できる魅力あるシニアネット像を皆で考え、実現させていくことは大変意義深いことと思っております。

そこで、1300名と我が国でも最大級の会員数を誇り、県内13の支部を有しほぼ全県レベルにおいて男性も女性も生き生きと活動している「熊本シニアネット」より活動事例をお話しいただく中、男女共同参画時代、シニアにとって魅力あるシニアネットとはどのようなものか、今後の姿を探って参ります。

【テーマ2】 「コミュニティ・ビジネスでシニアの知見を地域に活かす」

課題提供者:大熊 勇雄 氏(NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川 副代表理事)

永年培ってきた知識・経験・ノウハウや知恵を生かして社会のお役に立ちたい、出来る限り生涯現役でいたいという意欲を持ったシニアは大勢おります。市民が主役となって企業とはひと味違った、いわゆるコミュニティ・ビジネスを展開し、個々のシニアのノウハウを地域に生かして「自己実現」を果たす、これはまさにシニアの大きな「生きがい」であり「喜び」です。

こうしたシニアの「生きがい」を実現するべく、コミュニティ・ビジネスを中核に据えたシニアネットが増えてきております。厳しい世の中を迎えていることもあって、今後、こうしたコミュニティ・ビジネスを掲げるシニアネットへの関心は一層高まっていくものと思っております。

そこで、コミュニティ・ビジネスを中核に据えて、今年開港150年を迎えてにぎわう神奈川県横浜市を中心に活動している「NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川」より具体的な実践事例を通して、課題をお話しして頂き、コミュニティ・ビジネスがシニアの生きがいはどう関わってきているか、その取組み方や今後のあり方、重要性について参加者全員で考えて参ります。

【テーマ3】 「シニアへのIT講習で生き甲斐づくり、人に喜ばれ自分も喜ぶ」

課題提供者:若井 光也 氏(シニアネット刈谷 代表)

シニアネットは、その本業とも言える「IT講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニアの情報リテラシー向上を促進し、社会に活力をもたらしております。シニアネットならではのきめ細かな教え方や仲間同士で楽しく、気楽に学び合える雰囲気がシニア受講者に喜ばれております。教える人にとっても受講者に感謝され、それが喜びとなって生きがいとなって充実したシニアライフにつながっております。今や、シニアネットなくしてはシニアへのIT普及は進まないと言っても過言ではありません。

これまでの様々な活動によりシニアのIT人口は年々増加しているとは言うものの、未だシニア全体の十数パーセントに留まっているとのことで、残念ながらまだまだ少ないと言わざるを得ません。今後は、まだパソコンに触ったこともないシニアへの普及が課題となると思われ、新しい状況に対応していく必要があらうかと思えます。

そこで、大企業城下町の刈谷市を拠点にシニアへのIT講習等を行って活躍している「シニアネット刈谷」より、こうした状況を踏まえながら、シニアへのIT普及はこれからどうすればいいか、より良いIT講習の方法等も含め、全員で考えていきたいと思えます。

【テーマ4】 「行政との協働を促進し、地域社会のために」

課題提供者:千品 雅彦 氏(NPO法人つれもてネット南紀熊野 代表理事)

多くのシニアネットは自ら持てる力をシニアのために、地域のために何かお役に立ちたいと熱い想いを抱き、活動を展開されております。シニアネットがその活動を通して社会に貢献しようとするとき、関係自治体との協働(コラボレーション)は極めて重要であります。一方、少子高齢化と高度情報化が同時進行する社会にあつて、自治体にとっても、地域の情報化促進、地域振興等の諸政策を進める上で、シニアネットやシニアの豊富な経験や優れたノウハウを活用することは重要な要素となつてきております。今や、両者の協働(コラボレーション)は必須と言っても過言ではありません。

そこで提案型で県や市との協働事業を展開し、シニアへのIT普及活動を主体に地域社会に貢献している「NPO法人つれもてネット南紀熊野」より、今年度実施している和歌山県と田辺市との協働事業の状況をご紹介いただきながら、協働事業における様々な課題を提供していただき、諸地域でかかる行政との協働を一層促進するにはどうすればいいのか、今後の活動のポイント等について参加者全員で想いを巡らせて参ります。

2月5日(金)

実施予定プログラム

【テーマ5】 「シニアの社会参加を促し、シニアの自立をめざして楽しく学ぶ」

課題提供者:柳原 正年 氏(シニアネットとやま 代表)

シニアネットの活動がシニアを元気にし、「生きがい」をもたらすなど大きく評価されてきており、今後もますますその活動が注目されていくものと思います。一方で、シニアライフをどうやって充実したものにしていけばいいのか、学びの場を求めている方も少なくありません。自らを高め、また社会参加を切望し、内面だけでなく活動面・外面を高めていくのに、シニアを対象にして気軽に学び合える“場”が重要となって参ります。皆で学び、議論し、高め合っていく、視野を広げていくそうした“学びの場”を提供するのもシニアネットの重要な役割と言えます。

そこで、早朝、喫茶店に会員を集め、シニアの自立に向けた様々な学びについて独特の“勉強会”を実施するなど富山市を中心に広く活動している「シニアネットとやま」より、活動状況を披露していただきながら、こうしたシニアの生き甲斐づくりに向けた学びの場についてどうあるべきか、シニアネットの活動の重要な一端を占めるものとして、参加者全員で考えて参ります。

2月5日(金)

実施予定プログラム

シニアネットフォーラム特別セミナー (14:00~15:00)

「Windows7でシニアのパソコンライフはどう進化するか？」

大島 友子 氏(マイクロソフト株式会社 技術統括室 マネージャー)

ITを活動の基盤に置くシニアネットにとって日進月歩で進歩しているITの動向は常に大きな関心事である。この程、発売された新しいOS「Windows7」とは、今後まさに深く付き合っていくことになる。

そこで、かかるOSがシニアのパソコンライフに、そしてシニアネットの活動にどのような影響をもたらすことになるか、を明らかにすべくシニアネットフォーラム・特別セミナーを設けることとした。単に機能的な説明ではなく、それがどうシニアライフに、シニアネットの活動に寄与するかといった観点から解説していただくことにしている。

シニアネット交流広場

4日(木)(10:30~15:30)

5日(金)(10:00~14:00)

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場と致します。また、協力企業のお役立ちコーナーも設けております。これまで多くの参加者から大変ご好評を頂いており、皆様の今後の活動に必ずお役に立つものと確信いたしております。自治体や企業の方も是非、お立ち寄り下さい。

なお、全国のシニアネット等におかれましては、是非ご出展下さいますよう、心からご応募をお待ちいたしております。



シニアネットフォーラム21 in 東京 2010 アンケート

財団法人 ニューメディア開発協会

より良いフォーラムにするためアンケートにご協力をお願い致します

1. どのプログラムが一番参考になったでしょうか。一番参考になったものに○をつけて下さい。

- イ. 基調講演1 (樋口恵子氏)
- ロ. 基調講演2 (佐々木博氏)
- ハ. パネルディスカッション
- ニ. ワークショップ (参加されたテーマ: 1 2 3 4 5)
- ホ. シニアネット交流広場
- ヘ. 特別セミナー

2. 「シニアネットフォーラム21 in 東京 2010」に参加された動機についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

- イ. ご自分のシニアネットでの活動に役立てるため
- ロ. シニアネットの設立に役立てるため
- ハ. シニアネットに参加するにあたって役立てるため
- ニ. シニアネットについて詳しく知るため (以下にその目的等をお聞かせ下さい)

.....
.....
ホ. その他 (出来るだけ具体的にお聞かせ致します)
.....
.....

3. 「シニアネットフォーラム21 in 東京 2010」に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

- イ. シニアネットについての理解が非常に深まった
- ロ. シニアネットについての理解が深まった
- ハ. あまり理解が深まらなかった (下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい)

.....
.....
ニ. 全く理解できなかった (下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい)
.....
.....
.....

4. 「シニアネットフォーラム21 in 東京 2010」に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ. 既にシニアネットで活動しているが、さらに活発に活動したい

ロ. シニアネットを自ら設立し、始めてみたい

ハ. 身近なシニアネットに参加してみたい

ニ. 別段関わっていこうとは思わない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....
.....

ホ. 参加すべきかどうか、よくわからない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....
.....

5. 「シニアネットフォーラム21 in 東京 2010」全体について、ご感想をお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。また、ご意見等がありましたら、是非お聞かせ下さい。

イ. 今後の活動や設立・参加のために大変役に立った

ロ. 今後の活動や設立・参加のために役に立った

ハ. あまり参考にならなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....
.....

ニ. 全く参考にならなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....
.....

■ご意見・ご意見欄

.....
.....

6. 行政や企業関係者の方をお願い致します。

今後、諸施策、諸事業を展開するにあたり、シニアネットとの協働（コラボレーション）を、どのようにお考えでしょうか。

イ. 是非、協働していきたい（分野等： _____）

ロ. 協働出来る場所があれば、していきたい（分野等： _____）

ハ. 今のところ、考えていない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....
.....

■シニアネットとの協働についてのご意見（出来るだけお願い致します）

.....
.....

7. 「シニアネット交流広場」(展示コーナー) はいかがでしたでしょうか。ご意見やご感想をお聞かせ下さい。

.....
.....
.....

8. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム21」は、どうあるべきか、具体的なお意見をお聞かせください。

.....
.....
.....

9. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム21」を含め、どのような活動を行う必要があるか、ご意見を具体的にお聞かせください。

.....
.....
.....

10. あなたご自身にとってシニアネットはどのような存在でしょうか。一言で結構です。お願い致します。

.....

11. あなたご自身のことについてお聞きします。

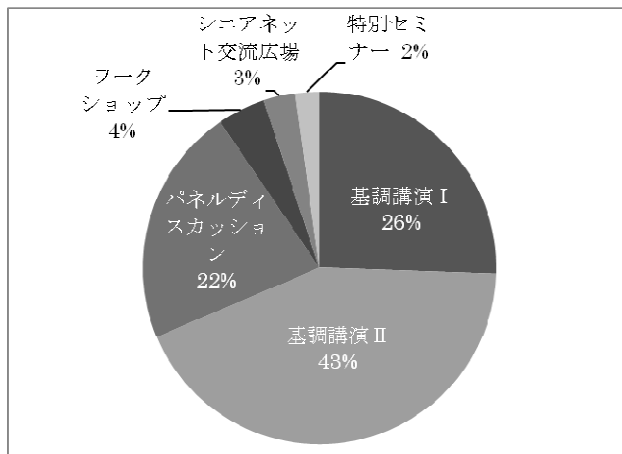
- ①性別： 男 女 ②年齢： 歳
③ご住所(市区町村まで)： 都・道・府・県 市・区・町・村
④所属(該当するところを○で囲んで下さい。職種は差し支えない範囲でお願いします)
イ. シニアネット(含むNPO法人)
ロ. NPO法人等各種団体、グループ(シニアネット系以外)
ハ. 行政機関(ご担当分野：)
ニ. 民間企業(ご担当分野：)
ホ. 自営業(職種：)
ヘ. どこにも係わっていない(個人)
ト. その他()
⑤パソコン経験年数：約 年
⑥生活の中でパソコンをどのように利活用していますか。また利活用したいですか。ご自由にお書き下さい。

.....
.....

アンケートはこれでおしまいです。どうもご協力有難うございました。

◆シニアネットフォーラム21 in 東京・アンケート結果◆

1. どのプログラムが一番参考になりましたか(回答137)



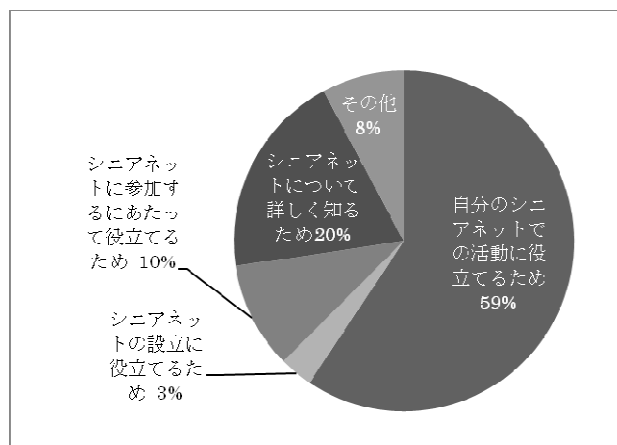
2. 「シニアネットフォーラム21in 東京 2010」に参加された動機について(回答128)

■ シニアネットについて詳しく知るための具体的目的

- ・シニア情報生活アドバイザーの資格の取得
- ・組織の立ち上げ方法
- ・シニアネット育成団体設立の具体化について知りたい
- ・どんな活動をしているか、場の提供先はどこか
- ・シニアのパソコン普及にとっても興味を持っています。将来的にはシニアネットに参加したいです。
- ・地域の人たちにPCを教えることがあるので、その参考にするために参加した
- ・所属の NPO 法人シニアネットクラブでシニア向けパソコン教室の講師をしており 2 年ほど前にシニア情報生活アドバイザーをとりかかると催しにすべて参加しました
- ・他の団体の活動状況を知って参考にするため
- ・近年ブロードバンドの地域の解消、高速化に伴い何かビジネスチャンスの芽がないのか調査したかった
- ・パソコンボランティア活動をしているが、今後の運営拡大について検討。今後シニアネットに参加していきたい。
- ・アドバイザー養成講座について知りたくて
- ・シニアネットそのものに全く未知であったため
- ・今後の方向性や活動の詳細を知りたかった
- ・他のシニアネットの活動範囲を詳細に調べ今後の運営の方向付けをするため

■ その他

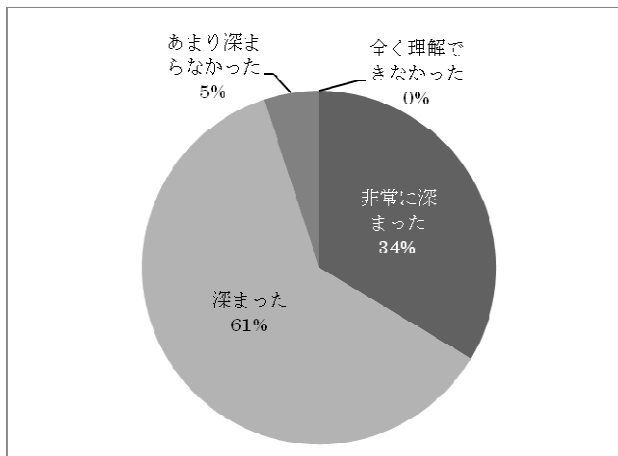
- ・ICT の普及について地域のシニアに関心を持たせ、さら



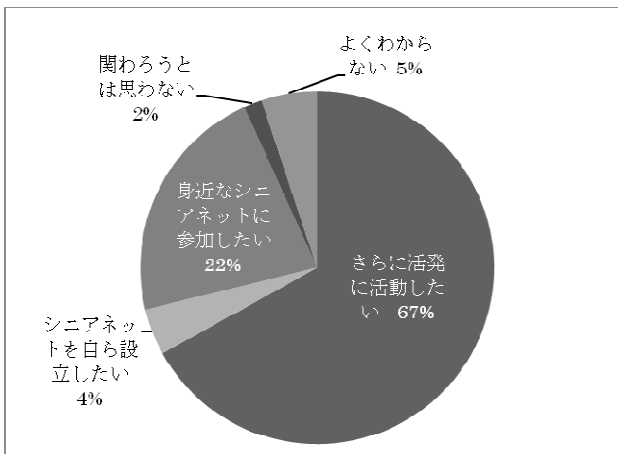
に発展させる動機づけ、その手段などを得て、一人でも多くの参加を促したい

- ・今後の活動上シニアネットの状況悩み等把握し参考にするため
- ・他の地域がどのような活動をしているかを知りたい
- ・ITの最新情報と地域の活動状況を知る見る為に
- ・自分の知らない世界を知りたかったので
- ・すでに PC には親しんでおりますがこの先どのような方向で努力していくべきか、何が出来るか、改めて考慮する参考にしたい。
- ・NPO 法人(SLA)シニアライフアドバイザー協会の快方に掲載されていたので
- ・例年参加している。最新情報を得るため
- ・所属シニアネットからの代表で参加。
- ・再確認と新知識他の活動方向を知るため
- ・Windows7 のことを聞きたいと思いました

3. シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか(回答119)



4. 「シニアネットフォーラム21in 東京 2010」に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか(回答118)



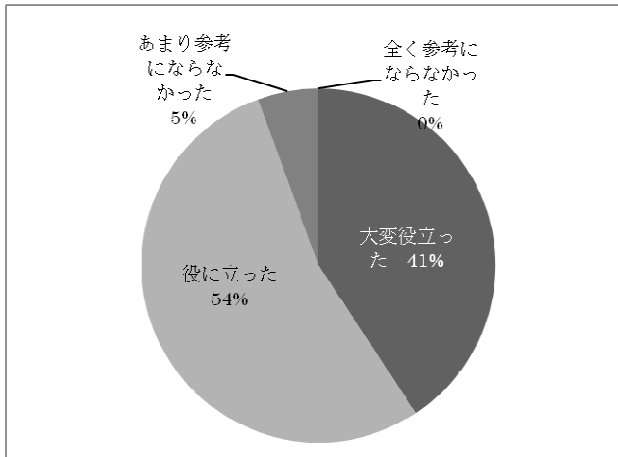
5. 「シニアネットフォーラム21in 東京 2010」の全体について、今後の活動や設立・参加についての感想(回答108)

■ ご意見

- ・是非、次回も参加したい。できれば早急に来年の開催場所日時を公表してほしい。
- ・パネルディスカッションの横の連携と、コーディネートが良

かった。

- ・シニアネットのネットワークを地域活性化に活かす方法を考えたい。
- ・ワークショップ・セミナーでは女性がかかなり多くいましたがワークショップの発表会では圧倒的に男性が多かったが、どうしてか不明(まとめ役に女性が入っても良いのではな



いでしょうか)

- ・ワークショップ発表は「テーマの討議内容発表」がメインであり発言者のプレゼンテーションの時間は簡単にすべき。
- ・せっかくのフォーラム (WS) が発表会のようになり時間もったいなと感じた。かなり疲れしました。時間通り進行してほしかった。総合してプログラムに無理があったのでは

ないか。でもお疲れ様でした。

- ・パネルディスカッションで時間の配分を決まった時間内で終わるようにしてもらいたい。オーバーしたら2~3分で打ち切るとか。
- ・皆様のパネルディスカッションを聞いて、活動の範囲が広く男性が中心のところは行動力や内容に深みがあり体力知力ともども必要となっているので、片手間では入会できない感じ。
- ・皆様の活躍が参考になりました。とくに三鷹での活動は本来のシニアを活かす参考になった。
- ・パネルディスカッションの時間割り振りに無理があり、ディスカッションにならなかったことが残念。各位の本音を聞きたかった。
- ・ワークショップは大変勉強になった。時間的にも十分。意見交換も十分満足。
- ・一番参考になったのは先に行く三鷹の在り方
- ・会場での携帯電話はマナーモードを徹底させてほしい
- ・講演者名にふり仮名をつけてほしい。

6. 行政や企業関係者の方をお願いします。今後、諸施策を展開するにあたり、シニアネットとの協働をどのようにお考えでしょうか(回答27)

■ 協働の分野等

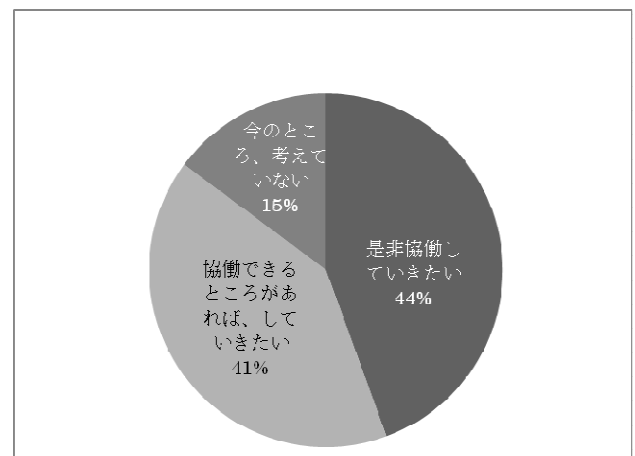
- ・企業とのコラボ
- ・地域活性化の安心安全
- ・民政活動、福祉、地域おこし
- ・就労支援・障害者支援

■ 協働についてのご意見

- ・数年前各地でIT教室(パソコン教室)が催されたが最近では少なくなっている。各地で安い教室の立ち上げを協働しては如何か。
- ・横・縦のためニューメディア開発協会はやらねばならないことが多々あると思う。
- ・行政と協働を図る中でベンダーとして協力していきたい。
- ・IT活用支援の場を行政・社会福祉事業等との協働で広げていければと思う。
- ・パソコンを活用して地域とのつながりをはかる
- ・パソコンを使わなくてもできることを探す活動(認知症見守り活動・生活支援活動・障害者の方との交流・健康相談活動・ホスピスホームづくり・シニアネットの就労支援相談活動、就業できる場づくり。とまって交流して生活できる場

づくり。将来を担う子供を健全育成。

- ・NPOで資金力がない場合、会場の提供者に対して是非協力をいただきたい。
- ・大変参考になりました。簡単ではないということが結論でした。



7. 「シニアネット1 交流広場」(展示コーナー)はいかがでしたか

- ・パネルが大変参考になった。
- ・各地区のいろいろな活動状況が理解できた。
- ・各ブースに説明者が居るとよいと思う。
- ・交流広場(展示コーナー)の出展物について各シニアネットの活動状況に関するテーマに絞って募集されたほうがよいと考えます。中には何を訴えないのか意味不明の出展があり改善されたほうがよいと思う。
- ・持ち帰り用の資料がほしい。
- ・皆さんの関心が意外と深いと思った。
- ・パソコンを学びたい人へのサポートの仕方がいろいろある。地域ぐるみで子供から高齢者まで関わっているのはやはり地方でしたね。
- ・初日しか参加できないため見られなかった。昼休み時間が短かった。
- ・それぞれが知らない人のために知らせるアイデア努力が足りないのでは？
- ・自分もシニアネットを立ち上げて会場にて発表したい。
- ・Windows7の展示でもが楽しく見られた
- ・PRは十分でできたと思われるが活動については地域性があるので効果のほどは？他の団体の活動はよくわかり参考になった。

- ・展示側とのコミュニケーションする時間がほしい。
- ・提示だけではなくプレゼンもしていただき良かった。
- ・全国から多くの団体が参加しているので驚いた。
- ・地域ごとに皆さん工夫されたものがたくさんあったが、ここまで来る間の努力はたいへんだったろうと思いました。
- ・自分たちのシニアネット(NPO)が特徴としてわかるように統一した様式の掲示(A4~A31枚程度で文字を大きく)がされていると良い。
- ・パソコン関係だけでなく、幅広く活躍している様子がよくわかりました。
- ・常に啓蒙し合う仲間を感じた。
- ・ブースをもう少し広く取れれば独自性が見えたと思う
- ・ワークショップ発表中に後片付けでザワザワうるさかった。会議場を広場と少し離れたらよい。
- ・見る時間が取れなくて眺めただけです。もっと時間がほしいです。
- ・ポスターセッション風にし出展数を4倍にしてはどうか(机不要)

8. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム21」はどうあるべきでしょうか

- ・横の連携と情報交換の場を提供し、拡大(HPやブログなど)する。
- ・規模の拡大は結果であり、質の深さ、真に考えている人の為にしてほしい。
- ・ICTを活用した地域課題解決のテーマをもっと増やす。
- ・パソコンの現況・将来像を主体にシニアネット団体を後押しして欲しい。
- ・シニアネットの活動をもっと広く各メディアに取り上げるように働きかけるべきと思う。
- ・各グループの情報交換(よく言っている点・苦労している点)問題解決の共有を図る。横のつながりを図る。
- ・全国からPC好きが集まってくるこの機会を活かし、それぞれ友人になれたらいいと思う。勉強会みたいで居心地が悪かった。
- ・他の年代との連携の幅を広げていくとよい。
- ・シニアネットの存在がまだまだ多くの方に届いていないか

- ・と思います。若い世代の方も含めて広げていかれてはいかがでしょうか。
- ・メーリングリストをきっかけにして順次活動を上げていく。
- ・質疑応答の場を多く。
- ・今までの枠を超えたチャレンジングな方向へ展開すべき。前例にならったやり方では限界。
- ・今回初めて参加しましたが、大変勉強になりました。今後毎回参加したいと思っております。各団体の発表は理解できたが、団体間の連携を図り互いに情報交換の場を設ければと思います。
- ・PC関連企業(マイクロソフト以外にも)ネットワーク関連企業などのバックアップがあるとより一層大きなフォーラムになり参加者も増えるのかと。
- ・一般市民にどうPRするか、ひとえにこの活動にかかっている。ホームページ・チラシ・テレビなどを通じてシニア情報生活アドバイザーの宣伝をすべき。

- ・樋口恵子さんのようなアウトサイダー的立場の方の話はわかりやすいので今後も起用してほしい。
- ・シニアネットの枠を越え地域の担い手の一つとして文化の伝承(知恵) 子供の見守りなど活動の場を広げるべきだと思う。
- ・年間継続して横の連携を図れるような施策を検討するとよいと思います。
- ・各地域(シニアネット)の交流
- ・弱者へのアプローチがもっと必要になってくるのでは。若手の活用、老害対策。
- ・フォーラム以外での会員(団体)交流。
- ・実際デビュー前の人も参加できるような体制が必要かも。RPを盛んにする。
- ・パソコンの指導から脱皮したシニアネットが今後求めるものがあるはず。失敗事例、活動の悩みを中心としたパネルディスカッションも面白いし、参考になる。
- ・シニアネットと地域と福祉のあり方等についてはっきり

- したものがほしいと思った。
- ・各地域の情報やシニアに関連する情報の共有、発信をするネットワークづくり
- ・欲張ったプログラムにせず、じっくりと話し合える場が欲しかった。
- ・分科会方式はどうか？
- ・活動結果をもう少し具体的にPRする必要があります。パソコンばかりでなく楽しいことが主体になるように。
- ・パネルディスカッションとケーススタディの区別がわからなかった。ケーススタディに絞ってボリュームを厚くした方が良いのではないか。
- ・ネットでも参加できるようにしていく。
- ・さらなる婦人層への浸透
- ・もっと参加人数を増やしていければまだまだ広い活動が可能になるのでは。

9. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム21」はどのような活動を行う必要があるでしょうか。

- ・簡単に参加できるような仕組みづくり
- ・定期的に東京地区で行いコミュニケーションの場(きっかけ)にしてほしい
- ・全国のネットワークを利用した活動を展開する
- ・各シニアネットの連携が必要
- ・シニアネットの活動をPRすること
- ・シニアや子供がパソコンを使って楽しく学び仲間作りができれば、素晴らしいと思う。
- ・必要は発明の母なので地域にどのようなニーズがあるのか？ 地域の人たちの思いは何なのか？
- ・私自身は縁あって中途難聴者の方のパソコン訪問指導を経験しましたがこのような身障者のシニアへの支援も大切だと思います。そのような方々への取り組みも必要と感じます。
- ・シニアネット団体間の連携をとっていきたいが、連携の方法を指導してほしい。各団体間の情報交換方法を検討してほしい。
- ・本日参加してほうぼうの交流ができるよう、名簿を出していただけると助かる。
- ・広報活動(行政やメディア・企業など)わかりやすく簡単なパソコンソフトの紹介など。
- ・新しい技術の紹介等をもっと実施願います。
- ・情報化社会の事例をより多く紹介してほしい。たとえば樋

- 口氏の介護サービス情報公表…は有意義な話でした。PC教室参加者増員策や内容のレベルアップなど、やってるだけでなく。安価な会報発信を願いたい。
- ・パソコン難易度の高さを平易にPRすることが必要でしょう。一般の人達へわかりやすく解説する場を多く設定する。学校教育への取り入れも必要では・・・。
- ・シニアとノンシニアとの連携、自治体、総務省との連携も！
- ・パソコンを楽しく活用し必要な情報を得たり、作成する楽しさを伝えたい。
- ・もっと一般の人目につくようなPR活動を充実したら良いと思います。
- ・シニアネット間の情報交流(メルマガなどができないだろうか)。アドバイザー間のMLなど。
- ・シニアネットのポータルサイトの構築
- ・ホットな話題提供を含め成果物が出せる講習会、シニアネットで団体メーリングリストの作成。
- ・地域の方との協働の仕方など考える。パソコンのスキル向上やパソコンの教室開催、講師の養成だけでなく生活に役立てられるためのアドバイスを地域の方と協働していける人を養成できるようなフォーラムになることを期待します。
- ・収入につながる活動も大切だと感じました。

- ・会員の会費では運営できない。事務所等官公庁の場所を提供していただきたい。
- ・財政面の支援をお願いしたい。
- ・県内、県外の交流をさらに強化する必要あり。
- ・九州各地のシニアネットが結束して行うことでどの県市でも開催できる組織づくりが必要。
- ・全国大会となると格差が大きすぎるので地方大会(九州地区大会)程度にしたら共通の取り組み課題などが出ているのではないかな。
- ・マスメディアの活用が草の根の掘り起こしとしました。このような組織があることの PR というか知らせることが必要のように思いました。
- ・まず高齢者がパソコン生活をエンジョイすることが第一の

- 目標としそれを終わった段階で集団行動を考えるべきではないか。
- ・財団が中心となって今回のシニアネットと連携した事業を企画してほしい。全国展開できる人・ネットを国に提案する。ICT 活用をお互いに情報交換することも大事。
- ・地域単位の交流会も必要ではないか。
- ・コミュニティビジネスの推進に絡んだテーマを取り上げてほしい。
- ・参加人員増加を望む。
- ・行政・組織の協働
- ・全国的な統一見解が必要。地方によってシニアネット活動運営のやり方が違いすぎる。

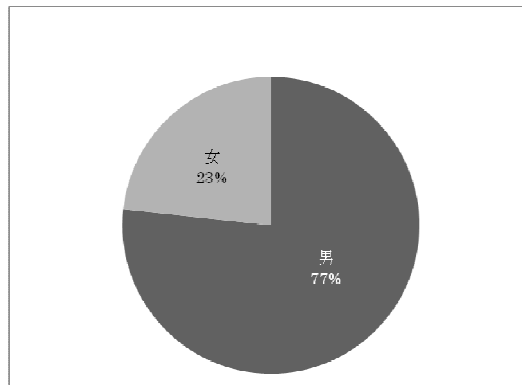
10. あなたご自身にとってシニアネットはどのような存在でしょうか。

- ・生きがい
- ・自分を元気づける存在
- ・自主的活動を取り組む場
- ・まだアドバイザーの資格がありませんので、すべてが今後の課題です。
- ・日常生活の人とのつながりを作る場として有効性を認めている。
- ・パソコンでのお友達が東京、交流の場が広がったように思います。
- ・人生 100 才また地域活性化のため
- ・運営に関わり楽しいはずのものがやや苦痛。いろいろの人がいるので…。
- ・主婦・高齢者のためのパソコン教室
- ・とにかく忙しい
- ・楽しい場所
- ・楽しく生きがいを感じる
- ・社会参加
- ・楽しい
- ・PC インストラクターで高齢者に教えておりますが、とても参考になりました。
- ・同世代の仲間の話し相手
- ・今後のシニア生活ライフを支える一つ。
- ・生涯を通じての活動基盤
- ・生きがい・やりがい
- ・連帯

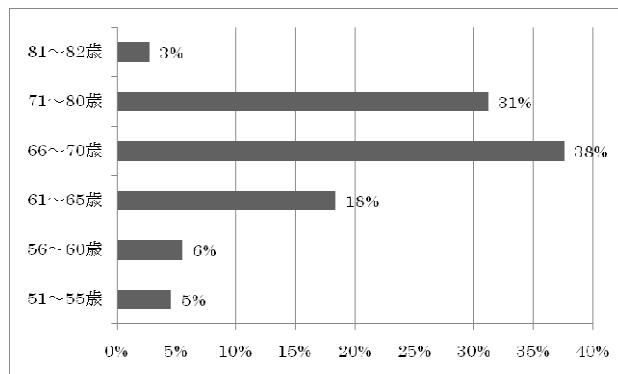
- 機会があれば活用、参加。
- ・この機会にシニアネットを立ち上げたいと感じました。
- ・生活の一部
- ・共に学ぶ
- ・社会とのつながり
- ・家族同様の存在かな？
- ・活動の参考にする団体
- ・情報収集、発信、作成
- ・第二の人生を考えるヒントを得られる場
- ・楽しみが半分、仕事としてが半分。
- ・実践と反省
- ・居場所であり生きがいです。
- ・社会貢献のための場(健康で豊かに生きる)
- ・同じような状況を確認するだけの場
- ・まだ理解不足です
- ・空気ほどではないが、三度の食事くらいか。
- ・孤独をなくし、仲間がいることでとても楽しい存在です。
- ・各種活動の場、また生きがい創造のヒントを得る場
- ・パソコンの習得、交流による楽しみ、情報受信。旅行、歩こう会、グランドゴルフ会などを通じ楽しんでいる。
- ・友達作りの場、生活を楽しむ場
- ・自己実現のための場
- ・行政との協働へ取り組むためのツール
- ・現在つかず離れずで内容の理解に努めている段階
- ・頭の活性化のための道具
- ・第二の人生に充実感を受けた

11. 参加者データ

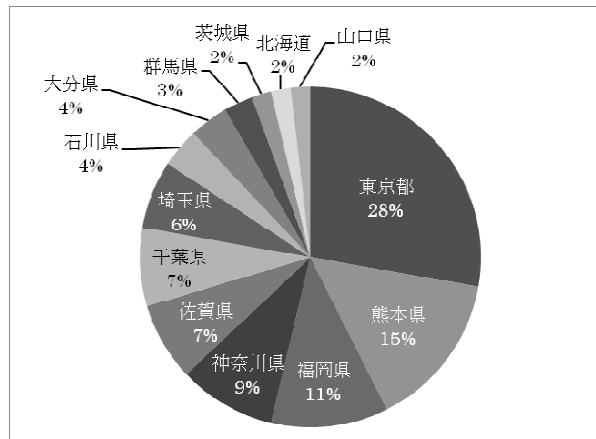
1. 男女比 (回答116)



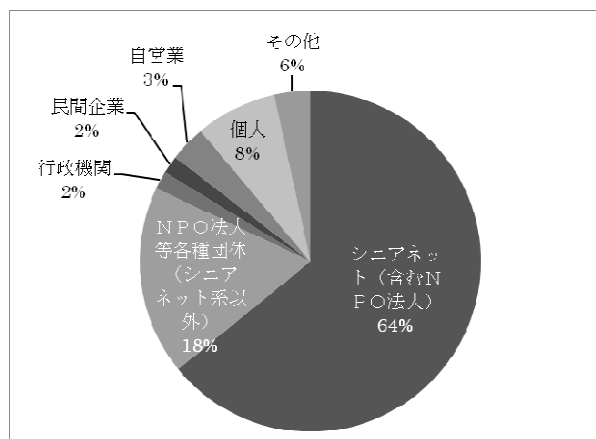
2. 年齢別 (回答 109)



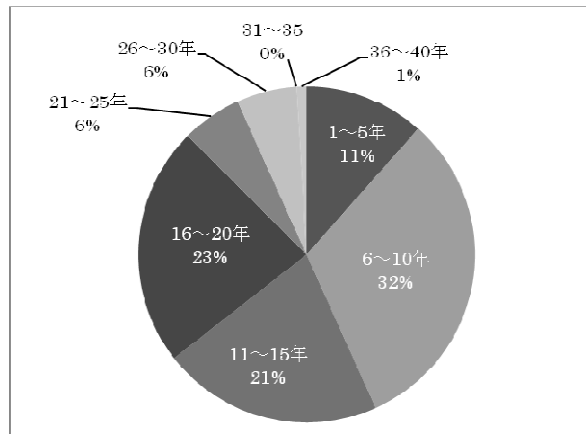
3. 住所別 (回答108)



4. 所属別 (回答117)



5. 参加者のパソコン経歴年数(回答104)



6. パソコンの利活用

- ・生活全般の方法入手と利用、グループのコミュニケーション
- ・NPO 内連絡網、事業用計算、講習会等
- ・趣味・検索・スカイプ
- ・自分の生活ための道具
- ・情報活動・通信・自己表現
- ・町内などの資料作成、孫や友達の写真作成
- ・インターネット・メール・デジカメ・各種資料作成など
- ・家計簿をエクセルで作り毎日記入している。年賀状等ハガキ作成。
デジカメ写真を取り込みアルバムを作っている。ホームページを作っている。
- ・ホームトレード
- ・ブログ・ツイッター・スカイプ・ネット購入
- ・ホームページ
- ・E-learnig
- ・テキスト作り
- ・インターネット検索「天気・地図・時刻・レシピ・映画・展示・絵画・写真」他、メール、ブログ、HP
- ・デジタル写真の編集、アルバム作成、ペイント、手(年賀状)、書類まとめ
- ・詩吟を音符形式に作成
- ・プログラム(各種言語)会、町内会等に活用できるアプリケーション開発
- ・資産管理(会計ソフト・e-tax、Excel)
- ・音声(ICレコーダーの録音編集など)
- ・名刺作成・カレンダー作り・住所録作成・DVDビデオ作製
- ・情報の活用新聞にない情報)、語学の勉強
- ・写真の編集・デジカメで撮った画像をスライドショーに作成・デジカメの講習
- ・組織内の業務全般。Excel マクロ作りで楽しむ。
- ・独居老人をネットワークでつなぎ常に状態を把握し合う
- ・生活の一部である。①資産管理情報の収集②旅行情報を集める工夫③健康管理の行動情報資源、情報集めなど
- ・民生委員活動の要援護者名簿、地図作成、史跡めぐり等の HP づくり

編集・発行

財団法人 ニューメディア開発協会

〒112-0014 東京都文京区関口1丁目43番5号 新目白ビル6階

電話：03-5287-5034 FAX：03-5287-5029

<http://www.nmda.or.jp/>

発行日 2010年3月

